

パート 2

研究環境及び研究資金の状況

(裏白紙)

Q201. 研究開発にかかると基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いませんか。

回答者グループ	2019年度調査													各年の指数					指数の変化			
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	17	797	539	251	133	111	35	1,866	2.2	1.0	2.2	3.9	2.6	2.4	2.3	2.2	-0.23	-0.09	-0.09	-	-0.41	
大学等	11	689	446	200	114	94	26	1,569	2.2	1.0	2.1	3.8	2.5	2.3	2.2	2.2	-0.24	-0.05	-0.09	-	-0.37	
公的研究機関	6	108	93	51	19	17	9	297	2.5	1.1	2.4	4.2	3.0	2.8	2.5	2.5	-0.20	-0.30	-0.08	-	-0.58	
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	12	722	468	221	117	102	28	1,658	2.2	1.0	2.1	3.8	2.6	2.3	2.3	2.2	-0.23	-0.09	-0.08	-	-0.39	
男性	5	75	71	30	16	9	7	208	2.4	1.2	2.4	4.2	2.9	2.7	2.6	2.4	-0.25	-0.09	-0.18	-	-0.52	
女性	0	75	60	28	19	11	3	196	2.4	1.2	2.3	3.7	2.6	2.4	2.3	2.4	-0.20	-0.04	0.04	-	-0.20	
職位	5	322	235	108	45	43	12	765	2.1	1.0	2.1	3.6	2.5	2.3	2.2	2.1	-0.18	-0.12	-0.04	-	-0.34	
社長・役員、学長等クラス	4	291	166	81	54	39	14	645	2.2	1.0	2.2	4.1	2.6	2.4	2.4	2.2	-0.22	-0.02	-0.16	-	-0.40	
部長、教授クラス	6	105	73	31	13	16	6	244	2.2	1.0	2.2	4.0	2.8	2.5	2.4	2.2	-0.29	-0.10	-0.20	-	-0.58	
主任研究員、准教授クラス	2	4	5	3	2	2	0	16	3.1	0.9	2.2	4.3	3.8	3.2	2.3	3.1	-0.60	-0.86	0.81	-	-0.65	
研究員、助教クラス	10	197	161	76	49	27	11	521	2.4	1.1	2.3	4.1	2.9	2.7	2.4	2.4	-0.21	-0.24	-0.05	-	-0.50	
その他	7	600	378	175	84	84	24	1,345	2.1	1.0	2.1	3.8	2.5	2.3	2.2	2.1	-0.22	-0.02	-0.10	-	-0.34	
任用あり	0	44	35	21	12	9	2	123	2.6	1.1	2.3	3.9	2.6	2.4	2.4	2.6	-0.20	-0.02	0.21	-	0.00	
任用なし	2	50	59	19	12	12	1	153	2.4	1.3	2.5	3.9	2.9	2.6	2.4	2.4	-0.31	-0.16	0.00	-	-0.47	
業務内容別	12	638	400	196	101	76	29	1,440	2.1	1.0	2.1	3.9	2.6	2.4	2.3	2.1	-0.23	-0.09	-0.12	-	-0.44	
学長・機関長等	3	65	45	15	8	14	3	150	2.3	1.0	2.1	3.8	2.6	2.4	2.3	2.3	-0.21	-0.08	-0.08	-	-0.37	
マネジメント実務	10	596	312	104	46	27	10	1,095	1.5	0.8	1.6	2.9	1.9	1.6	1.6	1.5	-0.22	-0.06	-0.09	-	-0.37	
現場研究者	0	36	23	16	12	6	1	94	2.6	1.2	2.6	4.8	3.1	2.8	2.7	2.6	-0.31	-0.06	-0.15	-	-0.52	
大規模PIの研究責任者	1	57	111	80	56	61	15	380	4.0	2.4	4.0	6.3	4.5	4.3	4.2	4.0	-0.28	-0.10	-0.18	-	-0.55	
国立大学等	5	117	71	24	15	11	4	242	1.9	0.9	1.9	3.2	2.2	2.0	2.0	1.9	-0.29	0.02	-0.09	-	-0.36	
私立大学	2	179	107	32	14	13	3	348	1.6	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	1.6	-0.20	-0.22	-0.12	-	-0.54	
第1グループ	1	181	119	48	22	14	3	387	1.8	0.9	1.9	3.3	2.2	1.9	1.9	1.8	-0.33	0.02	-0.07	-	-0.38	
第2グループ	1	185	134	92	57	53	14	535	2.9	1.3	2.7	4.9	3.1	3.0	3.0	2.9	-0.18	0.00	-0.07	-	-0.25	
第3グループ	0	105	54	15	13	14	3	204	1.9	0.8	1.6	3.1	2.2	1.8	1.9	1.9	-0.38	0.02	0.04	-	-0.32	
第4グループ	2	177	119	60	32	23	11	422	2.3	1.1	2.3	4.2	2.8	2.5	2.5	2.3	-0.23	-0.07	-0.17	-	-0.47	
工学	1	98	30	21	14	14	1	178	2.0	0.8	1.5	3.7	2.2	2.1	2.0	2.0	-0.06	-0.16	0.00	-	-0.22	
農学	5	150	133	63	23	11	4	384	2.0	1.1	2.3	3.7	2.5	2.2	2.2	2.0	-0.29	-0.01	-0.14	-	-0.43	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし/分からない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	17	797	539	251	133	111	35	1,866	2.2	1.0	2.2	3.9	2.6	2.4	2.3	2.2	-0.23	-0.09	-0.09	-	-0.41	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもとの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q201. (意見の変更理由)研究開発にかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いますか。

2018	2019	差	
1	1	4	3 職場が変わったため(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
2	1	4	3 他大学の状況に比べて良いように思われる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	2	5	3 農業分野が注目され大型の外部資金の獲得が増加した。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
4	1	3	2 皮肉なことに空き講座が増えたので研究室当たりの予算は増えた(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	2	4	2 いわゆる校費は少ないが,学内の競争的な資金もあり,応募したところ大学の機関研究として,700万/年をいただけることになった。(3年間,次年度は減額の可能性あり) PD研究員を雇うには少ないが,本当にありがたいと思う。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)
6	2	4	2 所属機関の変更(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	1	3	2 職場が国立から私立大学に変わったため。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
8	1	3	2 講座費等で研究を遂行することは難しく,外部の研究費を獲得するしかない。しかし,学内での研究費獲得に向けた助成等が新規獲得につながるなど,成果を上げてきたように感じる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	2	4	2 全体としては少ないが,個々の研究者当たりの額は大学よりよい(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
10	1	2	1 基盤的経費は私立大学の方が豊かです。授業料が高いことでもあります,発生する費用は実費で大学が負担することが原則になっていて,国立大学のように前年度の間接経費をあてにした国立大のものとは違います。私立の方が,経営の視点が入っていてうまくいっています。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1 少しづつ基盤的経費を減額している状況(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
12	4	5	1 研究室運営的には現在の金額が十分と認識した。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	2	3	1 決して改善されたわけではなく,他の地方国立大学と比べて若干恵まれているのかなという印象(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
14	2	3	1 他の大学などに比べると基盤的経費の下がり幅は少ないため(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
15	4	5	1 県のプロジェクトが国に採択されています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
16	3	4	1 本年度は比較的十分な研究資金を所属機関内部で取得できた。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
17	2	3	1 機関内競争的資金を整備・拡充している。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
18	2	3	1 過去3年,運営費交付金が増加している。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
19	2	3	1 比較的までできている方だと思うが,船のメンテナンス,ランニングコストなどもあり真ん中を超えてはいないと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
20	1	2	1 競争的資金依存度が高い(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
21	2	2	0 ・筆者が所属する研究室では,個人割り当ての運営交付金すべて共用の図書経費に使われ,個人研究費はほとんどゼロである。・部局による差異はあれど,概ね良好だと思われ。・運営費交付金に関しては,贅言言わなければ十分だと思います。人件費や教員を雇用する経費は不十分だと思います。・文系はそんなに資金はかからない。ただ,資金があれば,シンポジウムの開催や大規模データベースの構築など,世界のハブとなる拠点づくりをすることができるのは確実。・既存の実験装置を動かすための消耗品や維持費をカバーすることができない程度の額は,十分とは言えない。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
22	1	1	0 これで大学はやって行けるの?色のつかないお金が貴重です。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
23	1	1	0 非常に少ない。その上,間接経費が付かない外部資金を獲得すると,基盤的経費から間接経費を取られる。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
24	1	1	0 外部資金の間接経費がないとやっていけない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
25	1	1	0 地方大学から研究大学に異動したが,公費は地方大学の方が多かった。指導する学生数がふえ,さらに足りない感がある。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
26	1	1	0 現状ではこのような研究費はゼロである。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
27	2	2	0 研究費に関しては大学本部からの割当は少ないが,本学部(理学研究院)では一人平均一件以上の科研費を獲得しているため深刻な問題にはなっていない。しかし運営費交付金の減少から,教(職)員の雇用数を確保するのが困難になりつつあると認識している。これは教育・マネジメントすべての領域において,個々人の負担が将来的に増加しかねず,従って研究活動にも負の影響を及ぼす可能性を意味している。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
28	1	1	0 いわゆる校費は,一層削減傾向にある。スペース費用も校費負担になり,外部資金がないと研究できない。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
29	1	1	0 学部経営悪化のため,研究費が前年度よりも下がったため。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	1	1	0 機関が教員や研究員に定期的に配分する研究費は,教員3人いる研究室に40万円程度。競争的資金無しでは研究室の維持も困難。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
31	1	1	0 事務員(秘書),研究支援者,博士研究員の人件費を拡充すべき。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
32	1	1	0 外部資金を獲得しなければ学会にさえ参加できない状況は良くないと思います。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
33	3	3	0 自分は理論系なので十分だが,実験系の研究者にとっては不十分。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	3	3	0 ただし減少傾向である(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
35	1	1	0 人件費が特に不足している。外部資金雇用があまりにも多すぎる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
36	1	1	0 年々運営交付金が減っています。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

37	1	1	0	各種の学内競争的資金を準備しているが、全員にいきわたるほどの額ではない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
38	1	1	0	私の部署はいわゆる付置研であり,本学からの支援が無いため(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
39	3	3	0	PIはサポートが盤石だが,任期付き研究員にはない(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
40	1	1	0	明らかに不十分だが昨今の財政状況では増やすことは多分不可能。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
41	1	1	0	研究するなど言っているのと同じレベル(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	基盤経費が減り続けている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
43	2	2	0	非常に厳しい状態。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	学会参加を一回する分の出張旅費も賄えない状況。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	2	2	0	年々減額されている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	1	1	0	ほぼ皆無。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
47	2	1	-1	年々減少している。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
48	2	1	-1	研究室へ配分される研究費がさらに減額されたから。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	2	1	-1	基盤的経費は十分でないのに年々減少している。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
50	2	1	-1	法人運営費交付金は減少を続けている。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
51	2	1	-1	一層減額されている。(大学,第2G,工学,社長・学長等クラス,男性)
52	4	3	-1	教育を含め予算の削減の影響が大きいです。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
53	3	2	-1	基盤経費は減ってきた(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
54	2	1	-1	職員の人件費が不足しており,教員にかなりの負荷がかかっており,研究・教育にも支障が出ていると感じる。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	2	1	-1	減額が続いており,学生教育の土台となる研究活動すらできない状況に一部の教員はなっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
56	3	2	-1	大きく減額となったため。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	2	1	-1	人件費不足分を物品費等を使用しているため,研究費は十分ではない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
58	2	1	-1	小中規模の私立大学は教育型大学に舵を切っており研究経費は削減の一途である。非常に嘆かわしい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
59	3	2	-1	本学の個人研究費は科学研究費の申請を行い,かつ,B判定以上でなければ減額されるため,経費の減額に関する制度には疑問がある(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	2	1	-1	年々減額されているため。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
61	2	1	-1	大学予算が不十分なため,部局に配分される予算は前年度よりも大幅に減額された。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
62	5	4	-1	年々少しずつ減少してきています。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
63	2	1	-1	さらに減額になった。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
64	4	3	-1	財政上の理由から組織として減額された。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
65	2	1	-1	国立大学の財政状況は日ごとに厳しさを増している印象であり,機関からの支援だけで研究を行うことは不可能である。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	4	3	-1	最近,研究費の確保が難しくなっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
67	3	2	-1	競争的研究の割合が多く,基盤研究が細っている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
68	3	2	-1	運営費の減少に見合って減っている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
69	3	2	-1	年々研究機関から配算される基盤経費は少なくなっているのが実情である。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	2	1	-1	年々,いろいろなものに経費が取られている(高騰する電子ジャーナル費用)(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	2	1	-1	研究環境は厳しい。学会発表の件数は減った。特に国際会議が影響を受けている。また,大型の費用が掛かる実験系の研究について設備投資は全くできなく,中国に先を越された研究が出ている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
72	2	1	-1	大学からの配分が予告なしに本年度30%カットされた。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	2	1	-1	運営費交付金の1.6%があり,個人研究費がほぼゼロになりつつある。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
74	2	1	-1	非常に悪化している(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
75	4	3	-1	部署が変わって減った(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
76	3	2	-1	運営費交付金が毎年減額され基本的な活動が困難になりつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
77	2	1	-1	施設運営費が極度に不足で,あらゆる面で出口に偏重している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
78	3	2	-1	内部資金においてすら,基盤的経費が減少し,競争的配分が増加した。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
79	3	2	-1	交付金の配分が減った(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
80	3	2	-1	基盤的研究費の中でも,トップダウン型,所内競争資金型が増加し,個人の裁量による多様な研究に振り向けられる額が大幅に減少している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
81	3	1	-2	異動直後,ここ2,3年で1000万単位で減ったという話を教員全体の会議でされた。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)

82	3	1	-2	教員が急減し、人員補充は学内政治で決まり、小中学校の生徒数並みの学生数を研究室で見なければならない状況である。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
83	4	2	-2	物品を購入する資金はあるが、調査旅費、謝金、図書購入費等が不十分(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
84	3	1	-2	実際不十分でないが、印象として不十分と感じることが多い(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
85	4	2	-2	予算が減った(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
86	4	2	-2	配分額がいくらかということよりも、今年度の配分予定が10月の時点でもはっきりしていないことが問題だと感じる(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,女性)
87	3	1	-2	幹部が好みの研究課題にばかり予算が渡り、必要なところに予算が配算されていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	3	1	-2	研究開発を円滑に進めるための、パーマメントの研究者が少ない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
89	4	2	-2	核燃料開発では燃料を包蔵するための設備が必要であるが、全体的に予算が削られ、設備のその運用費などに回されるため、十分な研究費が獲得できない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	4	2	-2	組織がプールする研究費が増えている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	3	1	-2	民間資金の獲得を拡大するために、基盤的経費が大幅に削減された。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
92	5	1	-4	所属部署が学内で移動したらとんでもなかった。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)

Q202. 研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。

回答者グループ	2019年度調査												各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新 新年	
		1	2	3	4	5	6															回答者 合計(人)
大学・公的研究機関グループ	15	737	646	314	117	45	9	1,868	2.0	1.1	2.3	3.6	2.4	2.2	2.1	2.0	-	-0.21	-0.14	-0.11	-	-0.46
大学等	8	642	534	254	96	40	6	1,572	1.9	1.1	2.2	3.6	2.4	2.2	2.1	1.9	-	-0.20	-0.15	-0.13	-	-0.48
公的研究機関	7	95	112	60	21	5	3	296	2.2	1.3	2.5	3.8	2.6	2.3	2.2	2.2	-	-0.25	-0.08	-0.02	-	-0.34
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別	12	634	583	287	108	38	8	1,658	2.0	1.1	2.3	3.6	2.5	2.3	2.1	2.0	-	-0.21	-0.16	-0.10	-	-0.46
男性	3	103	63	27	9	7	1	210	1.7	0.9	2.0	3.3	2.1	1.9	1.7	1.7	-	-0.21	0.00	-0.21	-	-0.42
女性	9	26	80	61	26	3	0	196	3.0	2.2	3.3	4.7	3.3	3.3	3.0	3.0	-	0.02	-0.13	-0.22	-	-0.34
職位	7	296	283	123	36	21	4	763	1.9	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	2.0	1.9	-	-0.15	-0.14	-0.02	-	-0.30
社長・役員、学長等クラス	4	315	186	88	39	13	4	645	1.7	0.9	1.9	3.3	2.2	2.0	1.9	1.7	-	-0.24	-0.11	-0.15	-	-0.50
部長、教授クラス	2	98	88	39	14	8	1	248	2.0	1.1	2.2	3.6	2.7	2.3	2.1	2.0	-	-0.33	-0.24	-0.13	-	-0.69
主任研究員、准教授クラス	2	2	9	3	2	0	0	16	2.6	2.1	2.8	3.7	3.0	2.3	2.5	2.6	-	-0.74	0.28	0.09	-	-0.38
研究員、助教クラス	4	154	184	116	57	13	3	527	2.5	1.4	2.7	4.2	2.9	2.8	2.5	2.5	-	-0.16	-0.27	-0.02	-	-0.45
その他	11	583	462	198	60	32	6	1,341	1.8	1.0	2.1	3.3	2.2	2.0	1.9	1.8	-	-0.21	-0.08	-0.13	-	-0.41
任用あり	0	10	45	45	21	2	0	123	3.3	2.4	3.6	4.9	3.4	3.6	3.4	3.3	-	0.12	-0.14	-0.07	-	-0.09
任用なし	2	20	77	42	13	0	1	153	2.7	2.2	3.1	4.3	3.2	3.0	2.9	2.7	-	-0.20	-0.09	-0.23	-	-0.52
業務内容別	9	650	464	209	73	40	7	1,443	1.8	1.0	2.0	3.3	2.3	2.1	1.9	1.8	-	-0.25	-0.16	-0.10	-	-0.51
学長・機関長等	4	57	60	18	10	3	1	149	1.9	1.1	2.2	3.2	2.1	2.0	1.9	1.9	-	-0.11	-0.07	-0.03	-	-0.21
マネジメント実務	6	453	366	182	65	27	6	1,099	1.9	1.1	2.2	3.5	2.4	2.2	2.0	1.9	-	-0.19	-0.15	-0.08	-	-0.42
現場研究者	1	39	34	14	5	1	0	93	1.7	1.2	2.3	3.4	2.4	2.2	2.0	1.7	-	-0.21	-0.13	-0.30	-	-0.65
大規模Pの研究責任者	1	150	134	58	26	12	0	380	2.0	1.1	2.3	3.8	2.6	2.4	2.2	2.0	-	-0.26	-0.18	-0.21	-	-0.65
国立大学等	2	91	72	52	17	11	2	245	2.3	1.1	2.4	3.9	2.6	2.3	2.3	2.3	-	-0.28	0.00	0.00	-	-0.28
私立大学	1	150	117	54	20	8	0	349	1.8	1.0	2.1	3.3	2.3	2.1	1.9	1.8	-	-0.17	-0.29	-0.04	-	-0.50
第1グループ	1	174	132	54	19	7	1	387	1.7	1.0	2.1	3.3	2.3	2.0	1.9	1.7	-	-0.22	-0.13	-0.19	-	-0.55
第2グループ	4	208	195	85	32	11	1	532	1.9	1.1	2.3	3.7	2.4	2.2	2.1	1.9	-	-0.17	-0.14	-0.18	-	-0.49
第3グループ	0	83	71	28	13	8	1	204	2.0	1.0	2.1	3.3	2.5	2.1	2.0	2.0	-	-0.36	-0.13	0.02	-	-0.47
第4グループ	2	204	123	59	24	10	2	422	1.7	0.9	1.9	3.3	2.4	2.1	1.9	1.7	-	-0.23	-0.24	-0.16	-	-0.64
理学	0	90	63	17	3	6	0	179	1.5	0.8	1.6	2.7	1.7	1.4	1.3	1.5	-	-0.25	-0.12	0.12	-	-0.24
工学	2	172	132	57	18	8	0	387	1.7	1.1	2.2	3.4	2.3	2.1	1.9	1.7	-	-0.22	-0.18	-0.23	-	-0.63
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし/分からない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	15	737	646	314	117	45	9	1,868	2.0	1.1	2.3	3.6	2.4	2.2	2.1	2.0	-	-0.21	-0.14	-0.11	-	-0.46

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもとの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q202. (意見の変更理由)研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。

2018	2019	差	
1	1	5	4 所属部局が変わった。以前の部局は併任教員が多かつ小規模であったため、研究に割ける時間が取れなかった。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	4	3 現在, 寄付講座に所属しているため, 研究時間の確保は, あまり問題ございません。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2 研究支援の一元化等を進めている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
4	3	5	2 公的研究機関においては教育に時間を割く義務がないので,研究時間は確保されている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
5	1	3	2 管理部門が増えたのは良いが,研究担当者が少なくなった。重点化といいながら研究者を減らすのは良くない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	1	3	2 競争的資金等の獲得に向けた資料提供により,研究時間を確保(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
7	2	3	1 まだ十分とは言えないが,大学や研究所の取り組みとして改善への努力が行われている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1 一部,電子化などで改善されている。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
9	1	2	1 私立大学の方が会議の回数と種類が圧倒的に少ないです。准教授,講師,助手の人数は少ないですが,サポートして下さる技官の人数が多く快適です。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1 研究科の統合を進めており,管理運営業務の軽減が研究時間の確保に繋がるため(大学,第2G,研究員・助教クラス,男性)
11	1	2	1 ノー会議推奨デーや研究専念日の制度がスタートした(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1 組織マネジメント等の取組が進行中(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
13	2	3	1 工学部長として,会議そのものの数,会議の回数,一回当たりの会議時間の削減をかなり行って来た。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
14	1	2	1 育児中等の教員を対象とした研究支援員制度を実施している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
15	1	2	1 研究者の時間回復プロジェクトを立ち上げて努力しているが,改善にはほど遠い。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
16	2	3	1 研究時間を確保するような流れも出始めている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
17	1	2	1 取組もうとはしているようだが,ポストが全体的に減ってきている中,有効な手自体が存在するか疑問である。大学の問題ではなく,国の問題と考える(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
18	3	4	1 上記プロジェクトの採択に伴い,RAが雇用されました。ただ,研究開発に関する彼らの意識と県職員の意識にズレがあり,RAが苦勞しています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
19	1	2	1 部局長のリーダーシップにより,会議等の負担を極力減らす努力が一部で始まっている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
20	1	2	1 他のポストを削って配置している現状(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
21	2	3	1 リサーチアシスタント制度や定年制事務支援職員制度などで,研究職員が研究に専念できる時間がわずかではあるが増えた。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
22	1	2	1 再雇用者の活用が鍵(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
23	2	3	1 人数が足りていない他の部署への応援等,柔軟にマネジメントを行う場面を見るようになった。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
24	3	4	1 他の研究機関よりは,おそらくはるかに良いと考えられる(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
25	2	2	0 ・委員会の見直しや新しいシステムの導入による取り組みを行っているが,十分とは言えない。・大学教員が研究教育に集中できるように,事務と教員の間の仕事ができるURAを増やしてほしいと思います。また,事務の権限を上げて,いちいち教員がチェックしなくてもすむような組織になるとよいと思います。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
26	1	1	0 大学は無駄な会議ばかり,事務職だけですむ仕事を全て教職へ投げかける。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
27	3	3	0 URA・産学連携コーディネーター等,研究支援人材の増強を図っている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
28	1	1	0 事務方からの無用な書類の提出要請が多い。例:領収書のほかにクレジットカードの明細;新幹線を使用した際,領収書のほかにチケットの写真を求められる。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0 人員が増えないことにより,その分,委員会などの雑務が増えた。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	2	2	0 これは大学教員として当たり前のことだと思っていますが,自主努力で1日あたりの労働時間(12時間以上)および休日に仕事をして実施するしか現時点では方法がないと思います。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	3	3	0 研究に特化した対策は取っていない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
32	1	1	0 研究する時間を搾取されている。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
33	1	1	0 悪化の一途である。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	1	1	0 数千円の旅費をだすために教時間の事務作業が必要になる。研究の予算を使うための事務作業に追われている。数百円の購入に見積もりを取り理由書など大変で研究時間を確保が大変である。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
35	1	1	0 教員の雑務を軽減するための取り組み(事務職員の増強等)が必要(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
36	1	1	0 大学では,無駄な事務書類が多く,研究時間の1/3程度は,事務仕事をしています。研究費を獲得するほど,事務仕事が多くなり(動かす予算が増えるので),辟易しています。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)

37	1	1	0	財源がないので全く進んでいない(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
38	1	1	0	技術職員,秘書などの補佐員を獲得した研究費から雇用しないといけない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	1	1	0	そのような取り組みは聞いたことがない。機関内の業務を行うだけで,業務時間のほとんどを費やすため研究のための時間の確保が非常に難しい。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	3	3	0	優秀な研究支援者の確保が不十分(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
41	2	2	0	付置研であることから,公的研究資金だけでなく企業からの支援が必須となるが,と企業との共同研究をいかにして研究者の研究テーマと連携つける/両立させることは,難しいと感じている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	大学内の運営に関する業務が多い。事務員がやるようなことも教員がやっている状況。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
43	2	2	0	PIは身を削らないと教育(研究)に時間をまわせないように見受けられる(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
44	3	3	0	入試主任,学科主任の負担がかなり大きいように感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
45	1	1	0	研究の時間がなかなか確保できない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
46	1	1	0	大学改革関連業務に時間を取られ,研究に割く時間がほとんどない。睡眠時間を削って研究業務に当てたら,過労で2か月入院する羽目になった。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
47	2	2	0	人員削減が進められ仕事が若手にふってきている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
48	1	1	0	改組があり,講義増等もあり疲れている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	2	2	0	マネジメントをする人材がいなため,研究時間をそちらに使わざるを得ない。年々,確認作業が増えており,簡略化をする作業でさえも追加されている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
50	2	2	0	教授が楽をするために”経験”という名目で若手教員を都合よく使う風潮が有るように感じる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
51	3	3	0	制度はあっても,利用には各種の制約があり制度利用にいたらない場合がある。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
52	1	1	0	結局は専門領域のため,人材確保が難しく研究の時間が確保できないもつと臨床に任せると良いと思うが,臨床はそれを受け入れてくれない(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,女性)
53	2	2	0	研究を中心に活動する教員を選ぶことにより研究を活性化する取り組みは,組織全体ではなじんでいない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
54	2	2	0	研究時間を十分確保するまでには至っていない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
55	1	1	0	(意見は不変)形式的な「承認」などを求める傾向が強まった。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	1	1	0	アウトプットに繋がらない組織内部のための業務が多。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
57	1	1	0	ミッション達成のために研究以外のロードが増加している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
58	1	1	0	コンプライアンス対応に関わる時間が多すぎて研究時間を確保できない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
59	1	1	0	さらに悪化したと感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	1	1	0	資金も必要ですが,人材が必要です。正規職員だけでなく,システムエンジニアや事務支援員の採用の緩和が必要です。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
61	2	1	-1	国家公務員でなくなったことで,事務職員・技術職員の質が下がっており,その代わりに教員が何でも屋になってしまい,負担が増えている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
62	3	2	-1	定員削減の為,教員一人当たりの負担が増え続けているため。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
63	3	2	-1	研究支援部門の管理者に左右される(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
64	2	1	-1	多くの事務的な仕事を教員が行っており,増える一方である。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
65	2	1	-1	本学科では,教員30名弱に対し,学科専任の補助スタッフは1名のみ。パートの事務員を追加で雇う金銭的余裕(例えば年間100万円程度)はない。現在は,各教員の個人研究費を削って雇用している。(各教員に配分される大学からの予算は年間10万円。)(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	3	2	-1	システムの電子化による教員の手間の増加(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
67	2	1	-1	最近は大規模研究や大学マネジメントをこなしており,その立場ではエフォート管理などの組織マネジメントの工夫や研究支援者の措置が必要と感じる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	個人の裁量に任されているが,予算が確保できなければ研究支援者を雇用することはできない。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
69	2	1	-1	教育に対する教員の負担時間が増えている。歯科医師国家試験に対する国の方策をお聞きしたい。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
70	2	1	-1	事務職員の減少により,研究者が行う事務仕事は増えている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
71	2	1	-1	薬学資格取得のための教育業務などが多く,研究時間は削られる一方と感じる。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
72	2	1	-1	若手人材が減り,全体的に仕事量も増えている中,研究成果を出している人も出していない人も等しい分量の教育・学内業務を行わなければならない状況で有り,研究を出来る人が研究を行える時間が無くなっている。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	2	1	-1	大幅に悪化したため。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
74	2	1	-1	一部の教員に雑務が集中している。大学の事務が教員の研究環境のことを理解していない。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	3	2	-1	教員のする事務作業や学内会議が増えたように感じます。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

76	3	2	-1	一部の研究者に業務が偏ってしまう問題がある(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	2	1	-1	年々業務が増えている。特に土日といった休日に実施する業務が増えており、それに伴い平日に振替をしなければならず、その分大学での研究時間が不足する。振替して出勤することはもはや当たり前であり、働き方改革の点でも問題である。研究支援者という立場でコーディネータを配置しているが、産学連携を推進させることを優先するあまり、研究者に余計な負担が掛かってしまい、返って逆効果になりかねないと考える。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	3	2	-1	運営業務が増えた(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
79	3	2	-1	雑用が多い。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
80	3	2	-1	人件費削減のため退職者の枠に対し補充が行われないことが多い(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
81	3	2	-1	教員数削減と業務の増加のため,研究時間の確保がさらに難しくなっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
82	3	2	-1	大学運営業務の増加により,研究時間の確保が難しい状況(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
83	3	2	-1	教育負担が大きく,研究はもとより,学会に行くことすら断念している。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
84	3	2	-1	研究スタッフの不足(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	2	1	-1	ポストが上がるにつれ,研究時間は確保できなくなってきた(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
86	2	1	-1	職階があがれば役割も増えるため,若い研究者のマネジメントが増え,研究室運営が大変である。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
87	3	2	-1	組織内の人員が少ない為,教育や委員会活動に時間が取られることが多い。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
88	3	2	-1	人員削減が行われたから。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
89	3	2	-1	一部の職員に過剰な仕事が回ってきている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	4	3	-1	シニアクラスはマネジメントに時間を割いている(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
91	2	1	-1	研究者が研究費を獲得しても,研究支援人材が乏しいため,雑事に追われ,研究に専念できない。秘書の手配,経理,若手人材の確保,研究機材のメンテナンス等,米国のように専門スタッフを確保する必要がある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
92	4	3	-1	人事制度改革などで支援者の確保に工夫をこらしているが,予算も限られており簡単ではない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
93	3	2	-1	一部の役職(グループ長クラス)の研究以外の業務が年々増している感じがあり,純粹に研究に従事できる時間が減っているように感じます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
94	2	1	-1	研究支援部門が縮小されている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
95	2	1	-1	管理職になる人は,一定の成果を出した研究者であるが,それらの人が研究時間を全く取れていない(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
96	5	3	-2	職位が上がったこともあるが,マネジメント業務が増え,研究時間が減った。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
97	4	2	-2	医師の働き方改革の方向性が不透明であり,臨床医の研究時間確保はかなり難しくなりそうである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
98	3	1	-2	取組はなされておらず,研究者の研究時間は確保されていないため(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
99	4	2	-2	新たに担当する科目が一気に増え,その準備時間にかなりの時間を割かねばならないため。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
100	5	3	-2	人は増えないが,仕事(各種委員など)は増えていく。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
101	6	4	-2	ユニットリーダークラスに回ってくる事務作業が急増しました。それでも通常の大学よりははるかに良いのですが……。 (公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
102	3	1	-2	事故のたびに増える安全対策が研究時間を削っている。規則を全部守ると,実験研究は実質的に不可能。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
103	4	1	-3	十分な給料が支払われていないため,バイトなどに多大な時間が費やされており,本来の研究業務に従事できていない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
104	5	2	-3	研究時間を少なくする,overheadの時間が日本は多すぎる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
105	5	1	-4	所属機関の変更(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q203. 研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2019年度調査												各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	74	620	633	298	181	56	21	1,809	2.3	1.2	2.4	4.0	2.5	2.5	2.3	2.3	-	-0.03	-0.11	-0.02	-	-0.16
大学等	53	522	520	250	163	53	19	1,527	2.4	1.3	2.5	4.1	2.5	2.5	2.4	2.4	-	-0.03	-0.09	-0.04	-	-0.16
公的研究機関	21	98	113	48	18	3	2	282	2.0	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	1.9	2.0	-	-0.02	-0.20	0.08	-	-0.15
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
男性	63	531	564	274	168	51	19	1,607	2.4	1.3	2.5	4.0	2.5	2.5	2.4	2.4	-	-0.01	-0.11	-0.02	-	-0.14
女性	11	89	69	24	13	5	2	202	1.8	0.9	1.9	3.3	2.2	2.0	1.8	1.8	-	-0.25	-0.13	0.02	-	-0.36
社長・役員、学長等クラス	3	25	67	54	32	15	0	193	3.4	2.3	3.5	5.1	3.4	3.6	3.5	3.4	-	0.20	-0.17	-0.03	-	0.00
部長、教授クラス	21	247	282	113	78	22	7	749	2.3	1.3	2.4	3.8	2.3	2.3	2.3	2.3	-	0.02	-0.05	0.01	-	-0.02
主任研究員、准教授クラス	32	262	198	90	46	12	9	617	2.0	1.0	2.1	3.4	2.4	2.2	2.0	2.0	-	-0.10	-0.21	-0.06	-	-0.38
研究員、助教クラス	17	82	79	38	22	7	5	233	2.4	1.1	2.4	4.0	2.5	2.4	2.3	2.4	-	-0.11	-0.07	0.04	-	-0.14
その他	1	4	7	3	3	0	0	17	2.6	1.5	2.8	4.2	3.0	2.3	2.5	2.6	-	-0.65	0.19	0.05	-	-0.41
雇用形態	24	145	169	110	57	21	5	507	2.6	1.5	2.7	4.3	2.8	2.9	2.7	2.6	-	0.05	-0.20	-0.01	-	-0.16
任期あり	50	475	464	188	124	35	16	1,302	2.2	1.1	2.3	3.7	2.3	2.3	2.2	2.2	-	-0.05	-0.07	-0.01	-	-0.13
任期なし	1	15	37	37	24	9	0	122	3.6	2.4	3.7	5.2	3.4	3.7	3.6	3.6	-	0.22	-0.08	0.01	-	0.15
業務内容別	2	23	62	35	26	6	1	153	3.1	2.1	3.1	4.6	3.1	3.2	3.1	3.1	-	0.13	-0.16	0.06	-	0.02
学長・機関長等	63	532	479	201	120	38	19	1,389	2.1	1.1	2.2	3.6	2.3	2.3	2.2	2.1	-	-0.09	-0.11	-0.01	-	-0.20
マネジメント実務	8	50	55	25	11	3	1	145	2.1	1.2	2.4	4.0	2.4	2.5	2.4	2.1	-	0.12	-0.17	-0.22	-	-0.26
現場研究者	42	336	354	192	124	39	18	1,063	2.6	1.3	2.6	4.3	2.6	2.7	2.5	2.6	-	0.01	-0.10	0.00	-	-0.09
大規模Pの研究者	3	35	27	12	11	5	1	91	2.4	1.3	2.6	4.8	2.6	2.4	2.7	2.4	-	-0.19	0.24	-0.28	-	-0.23
国立大学等	8	151	139	46	28	9	0	373	1.9	1.1	2.2	3.2	2.2	2.1	1.9	1.9	-	-0.12	-0.12	-0.06	-	-0.29
私立大学	7	72	74	47	35	6	6	240	2.7	1.4	2.8	4.6	3.0	2.9	2.8	2.7	-	-0.09	-0.13	-0.04	-	-0.25
大学グループ	17	106	122	57	34	12	2	333	2.4	1.3	2.5	4.1	2.5	2.6	2.4	2.4	-	0.06	-0.14	-0.03	-	-0.12
第1グループ	9	140	134	50	38	12	5	379	2.2	1.3	2.4	3.8	2.4	2.3	2.3	2.2	-	-0.15	0.02	-0.09	-	-0.22
第2グループ	19	189	176	82	47	19	4	517	2.2	1.2	2.3	3.7	2.2	2.3	2.2	2.2	-	0.06	-0.06	0.00	-	0.00
第3グループ	11	73	62	20	29	6	3	193	2.4	1.1	2.3	4.2	2.4	2.4	2.3	2.4	-	0.03	-0.11	0.02	-	-0.05
第4グループ	20	158	132	58	33	14	9	404	2.2	1.1	2.3	3.8	2.5	2.4	2.3	2.2	-	-0.12	-0.15	-0.05	-	-0.33
工学	6	65	67	21	13	6	1	173	2.0	1.1	2.2	3.2	1.9	1.9	1.9	2.0	-	-0.06	0.07	0.11	-	0.12
農学	9	144	130	69	27	7	3	380	2.1	1.2	2.3	3.6	2.3	2.2	2.1	2.1	-	-0.05	-0.07	-0.07	-	-0.19
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)なし・分からない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	74	620	633	298	181	56	21	1,809	2.3	1.2	2.4	4.0	2.5	2.5	2.3	2.3	-	-0.03	-0.11	-0.02	-	-0.16

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q203. (意見の変更理由)研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

2018	2019	差	
1	3	6	3 研究大学だけに,URAのサポートは大変充実している.地方大学との情報格差に驚いている.(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
2	3	6	3 学生を見る教員を急減させ,専門的人材の拡充に力を入れており,現場が疲弊している.(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	4	3 育成は?(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	5	3 特命教員が大きく増加しているため.(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	4	2 人材を確保するための経費を用意した(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
6	1	3	2 3名おり,機能していると聞いている.しかしベンチャー立ち上げなどに関する専門家は少ない.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	3	5	2 URAの先生方が融合領域研究のための研究課題のマッチング・人材(共同研究相手)のマッチングをしており,非常にうまく機能しているため.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
8	2	4	2 研究部門のハイレベルなサポートを行う研究企画監を創設し,各部門に配置した.これからどのように制度が育つかは見ていく必要がある.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
9	1	3	2 定年職員を活用している.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	2	3	1 リサーチ・アドミニストレーター(URA)の人数と活動が,徐々に充実しつつある.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
11	1	2	1 部局内でもURAを雇用する動きが出て来た.(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1 取り組みを始めた.(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
13	3	4	1 学院で正しくそれに取り組んでいる.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
14	4	5	1 政策研究職員制度により,増員された.適正数に近づいているように思える.(大学,第2G,工学,社長・学長等クラス,男性)
15	2	3	1 研究推進係などでの努力がみられる.(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
16	3	4	1 今年度新たにURA2名を雇用したため.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
17	3	4	1 産学官連携機構のサポートを受ける機会が増え,個人活動では得られない人的広がりを感じている.(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
18	2	3	1 URA人材の育成がはじまっています.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
19	2	3	1 大学全体としてはURAの増員が行われたため.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
20	2	3	1 1名増員を図った.(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
21	1	2	1 国立大学改革強化推進補助金による取り組みで若干名のURA等を雇用する事が出来,多少の改善があった.(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
22	1	2	1 本年度から,本学/全学の産学連携支援組織と別に,私の部署内に戦略的研究管理/推進組織を作ったことが一ポイントの改善につながった.(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
23	3	4	1 URAの人数と質は段々良くなってきた.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
24	1	2	1 人員確保は進んできた.一方で,育成制度がなく,人材の質が低いケースが多々ある.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
25	3	4	1 TAやSAの導入を積極的に行うようになった(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
26	4	5	1 RA人材を強化した(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,女性)
27	1	2	1 他分野から経験のある専門人材が所属機関に雇用された.(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
28	3	4	1 内部努力による.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
29	1	2	1 当組織ではこれに該当する専門部署を充実されている.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	3	3	0 ・リサーチアドミニストレーターの貢献は大きい.・大学の本部レベルには十分配置されているようですが,部局レベルになると全く足りていません.・その場しのぎで補給を続けている状況.理想的な状態ではない.・本部が主体となり URA などの専門職の充実を図っているが,まだ人数的にも不十分であり,また,その役割について必ずしも全学で統一した理解がないため部局を超えたノウハウの共有・人材交流に課題が残る(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
31	1	1	0 リサーチ・アドミニストレーターの仕事内容が明確ではないため,リサーチ・アドミニストレーターが何をすればいいのかわかっていない.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
32	2	2	0 雇用人数は増えてきていますが,本当に役立つ人材の比率は低いように感じています.(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
33	1	1	0 現状でリサーチ・アドミニストレーターは評価分析や広報・企画を行っており,現場の研究者に恩恵はない.(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	1	1	0 RAは役に立っているという話を聞いたことがありません.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
35	1	1	0 こうした専門職は在籍しているが,全組織的に広く機能しているとは思えない.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
36	2	2	0 人件費の問題があり,URA等が十分に充足できていない.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)

37	2	2	0	RA等の雇用システムの継続をするかあるいは、アウトソースをしたほうが良いかなど議論が十分ではない。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
38	2	2	0	存在を聞いたことがあるが、直接は係わったことがないので。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	1	1	0	企業からの依頼は増加しているにも関わらず人材は増えない。悪化している。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	1	1	0	存在しない(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
41	4	4	0	URAはここ数年,非常にうまく機能するようになったと考えている。今後は能力のあるURAについては,特任職員から正規の職員にするようにしていただきたい。(そうしないと,優秀な人材が残らないです。)(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	専門人材のキャリアパスの概念が乏しいように感じる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
43	1	1	0	自分の周囲では,全くない。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
44	2	2	0	わが国におけるURAとはどのような人材であるべきかの共通認識が必要。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
45	2	2	0	優秀な専門人材の確保が不十分(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
46	1	1	0	全く機能していません(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
47	3	3	0	URAの活躍には目覚ましいものがある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
48	1	1	0	そのような人材を確保するための予算はどこにも存在しない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
49	1	1	0	そういう制度がない(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
50	2	2	0	サポートは得られない。自分で行う以外方法がない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
51	2	2	0	リサーチ・アドミニストレーター育成への取り組みを国も支援するべき。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
52	2	2	0	一週間の労働時間が数値で明確に示されたため,研究を自己啓発ととらえてまで長時間取り組み例は少なくなってきた。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
53	1	1	0	付度や空気で仕事をするのではなく,本当にその専門を自分の看板にして胸を張って生きている人に研究を支援して頂きたいです。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	3	3	0	URA制度は機能している。しかし,まだ十分ではない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
55	1	1	0	(意見は不変)URAはどこかの部局の出身者であることが多く,結局元の部局の仕事をしているように感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	1	1	0	リサーチ・アドミニストレーターを置くことが本当に効率的なのか,それとも,もつと他の方法があるのか,まずは考えないといけないのではないか?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
57	1	1	0	育成しようにも,人材が配置されません。利益を生むとは限らない研究への人材補填が難しいのは理解しますが,このままでは「儲かる研究」が大事にされ,他技術は衰退してしまいます。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
58	1	1	0	まだまだ数は少ないと考える(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
59	3	2	-1	URAの絶対数が不足。URAが疲弊している(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
60	3	2	-1	URAはいるが有効に活用されていない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
61	4	3	-1	URAの業務が明確でなく,人材確保が難しい(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
62	2	1	-1	企業等との共同研究を活発化させるうえで,契約前の計画策定の段階をサポートする専門家の不足が課題となっている。(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
63	5	4	-1	有効な知財戦略助言の不備(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
64	3	2	-1	研究活動を円滑に実施するための専門人材としては,やはり直接研究に携わる研究者や支援者等の措置が優先である。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
65	3	2	-1	リサーチ・アドミニストレーターは学内に数名いるが,部局の専属ではない(退職された方の後任は採用されていない)。育成システムの存在は不明である。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
66	2	1	-1	全く増えていない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
67	3	2	-1	人材確保が非常に難しくなっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
68	3	2	-1	URA人材の拡充が遅れた状態となっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
69	2	1	-1	リサーチ・アドミニストレーターの能力不足が放置されている。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
70	2	1	-1	学内にそう言った専門人材がいるかどうかすら不明なため(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	2	1	-1	大学への補助金削減の結果,各部局への定員の削減や配分額が削減され,専門人材を削減せざるを得ない状態となっている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
72	3	2	-1	リサーチ・アドミニストレーターの人数が不足しているように感じる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
73	4	3	-1	情報の更新が少ないように感じる(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
74	2	1	-1	該当箇所に従事する人員が足りない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
75	2	1	-1	URAは現状1名のみで活動実績も不十分(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
76	3	2	-1	URAの教育が立ち遅れている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
77	4	3	-1	研究領域の広がりや深化にともない,専門性を有する支援人材の育成・確保が望まれる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
78	3	2	-1	人数が不足(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
79	2	1	-1	産学連携活動推進のためのコーディネーターは居るが,それ以外の研究活動に対応する人材育成は不足。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)

80	3	2	-1	育成ビジョンが曖昧と感じる(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
81	3	2	-1	確保する人材を教育する時間がない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
82	5	4	-1	各部門に優秀なURAを配置しているが,仕事が忙しく人数は十分と言えない.また,彼らの待遇は十分とは言えない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
83	3	2	-1	行われてはいるが,ミスマッチが目立つと感じるようになった。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
84	2	1	-1	専門人材の必要性が増加しているが,継続的な育成・配置は単一組織内では難しい状況にある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
85	3	2	-1	むしろその質の確保に問題がある。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	3	2	-1	円滑に実施するための業務の複雑化が加速していて,専門人材の不足を感じている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
87	4	2	-2	必要かどうか,疑問です(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
88	4	2	-2	制度普及にともなう人材確保難。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
89	5	3	-2	長期的な予算裏付けができないため,短期の有期採用となるため,人材流出が起こると,補てんが思うようにできない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
90	4	2	-2	細々した事務処理が多く,大学教員が忙殺されている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
91	5	2	-3	本学で育成した専門人材が退職し他大学や他施設に移動するケースが増えている(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
92	4	1	-3	所属機関の変更(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q204. (意見の変更理由)研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

	2018	2019	差	
1	2	5	3	リサーチイノベーションセンターを建設(2020年3月竣工予定)(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
2	3	4	1	・部局による差異はあれど,概ね良好だと思われる。・文系でいえば,世界的な文献データベースを購入できず,外国に出張した際に閲覧することもままある。これでは,世界中から研究者が集まっては来ない。・付置研究所を含め,全学的に見て研究施設・設備は国内トップクラスと言える。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
3	2	3	1	新たな建物の完成により,分散していた研究室がまとまって来たのは評価できるが,これに伴い利用可能な面積は減少しており,スペースの問題は依然残されている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
4	4	5	1	十分ある(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
5	2	3	1	実験設備がいくらか拡充された(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
6	2	3	1	設備の充実は図られているようである。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
7	4	5	1	大学内で高額機器が購入できる申請枠が設けられた。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	研究設備は充実していると感じる(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
9	2	3	1	センターオブイノベーション(COI)事業等で,大学技術を企業へ橋渡しする大型の水処理膜製造装置や,海水淡水化の実証プラント設置等が設置された。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
10	2	3	1	施設の改修が順次進み,研究施設・設備が少しずつではあるが進んでいるため。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	自身の研究室では大型研究費を獲得して整備していますが,大学院研究科組織としては未だ整備が不十分です。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1	平成30年度地方大学・地域産業創生交付金の採択に伴い,金属分野における創造的・先端的な研究開発を進めるための設備が新たに導入されるため。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	1	2	1	環境の整備は欲を言えばきりがありません。研究者とその志望者の数が多すぎて,大きな施設であり自分のオリジナルなアイデア無しに所属講座の大きな船に乗って業績を挙げ,地方国立大学に赴任して来られる基礎医学研究者がおられるような気がしています。優秀な人,自分で創意工夫ができる人を見分けるのは業績一瞥だけではおそろく難しいのだと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	1	2	1	資金がないなりに頑張っているとは思。でも購入機器の選択はもう少し現場の意見を傾聴して工夫すべき。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	3	4	1	老朽化問題があるとはいえ,大学や民間会社では所有できない大型実験設備が備わっており,当該研究所でしか実施できない研究や実験があることは,存在意義にもなっていると思います。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
16	1	1	0	各教授の獲得資金に依存している。全体が共同で使える施設が極めて貧弱。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
17	2	2	0	装置を設置するスペースさえ不足している(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
18	2	2	0	研究設備や施設は古くても良いので,整備された状態であればよいです。メンテの人材が必須です。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
19	1	1	0	計算機などを置くスペースが確保できず,研究に必要な設備を導入できなくなっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	5	5	0	資金調達等の自主努力は必須ですが,研究所の方針(サイエンスを高める)に関しては全く不満はありません。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
21	3	3	0	老朽化した施設・設備の更新ができない(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
22	3	3	0	先端的な研究グループ等には,トップダウンでの配慮ができるようになりつつある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
23	2	2	0	建物は耐震もあり整備しているがそれは先進性とは余り関係しない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
24	1	1	0	研究設備,機器の更新がままならない。(大学,第4G,その他,男性)
25	3	3	0	施設や設備はよいが,教育にかける時間が少ないように見受けられる(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
26	1	1	0	設備の導入に関しては,一部の権力者の恣意的な判断で決まった中期目標に寄与する支出しか認められなくなったので,環境はさらに悪化している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	実験施設であれば大学予算の都合で老朽化していても修理することができない施設が存在する。また,練習船等運用に人員を要する部署では十分な人材が確保できておらず,これらの傾向は年々強まっているように感じられる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	1	1	0	設備は老朽化していくばかり。予算措置も少ない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0	ますます悪くなってきた。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	医学部は,臨床中心などところがあり,なかなか基礎研究のための施設充実が,難しいのかなと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	2	2	0	(意見は不変)老朽化が激しい。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	1	1	0	老朽化も加わっている(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
33	3	3	0	施設の老朽化が見られる。建屋に限られており,最先端機器を設置購入する場所の余裕があまりない。工夫はしているが,カバーできないくらいになってきている。これは研究船の維持管理にかかるコストと裏腹という,当機構独自の都合もある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
34	2	2	0	老朽化が著しい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
35	2	1	-1	海外のライバル(国内から期待されるところ)との差が激しすぎる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)

36	3	2	-1	中国に比べて相対的に劣化している。コア・ファシリティの充実が急務の課題である。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
37	3	2	-1	老朽化が進んでいる。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
38	4	3	-1	施設設備は十分であるが,老朽化への対策が遅れている(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	2	-1	科学の進歩にもなう機器・設備の整備に遅れを感じる。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
40	3	2	-1	施設,設備の老朽化は顕著。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
41	5	4	-1	専門雑誌の価格が高騰しており,購入数を減らした。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
42	4	3	-1	微細加工プラットフォームなど,設立時は「最先端」であったものが,年数の経過と共に,相対的に「普通」になってきた。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	2	1	-1	使用料等が高額であるために,共通設備があったとしても負担が大きい。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
44	2	1	-1	壊れた共通機器が一向に更新されない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	3	2	-1	老朽化が進んできました。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	3	2	-1	地方大学の財政状況が厳しくなっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
47	3	2	-1	研究装置のリニューアルがほとんどできない状況が続いており,全体的に古くなった装置を使う状況になっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
48	2	1	-1	やはり不十分のように感じます。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
49	2	1	-1	大学で購読している雑誌が更に減ってしまい,学生が容易に論文にアクセスすることが更に困難になりました。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	5	4	-1	大型の研究装置導入用の支援が少なくなってきたので,将来が少し心配になってきた。(大学,第3G,保健,社長・学長等クラス,男性)
51	3	2	-1	先端的な設備の導入計画が不十分である。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
52	4	3	-1	科学技術は日進月歩なので,今のような停滞した状況は取り返しのつかない遅れを生じる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
53	3	2	-1	ますます,時代遅れになってきた(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
54	3	2	-1	核磁気共鳴装置等の,各研究室での購入が容易ではない,高価な機器の経年劣化が進み,10年以上も一台の更新もできていないため。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	2	1	-1	今年度も予算が削られている(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
56	4	3	-1	高額機器の更新や新規購入が難しくなっている(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
57	3	2	-1	施設の老朽化や更新のための予算不足で施設・設備の状況については十分とは言えない上,将来的にもかなり不安感がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
58	4	3	-1	研究設備の老朽化が進んでいるが,更新されない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
59	2	1	-1	医学部,薬学部以外からの設備投資などに関する予算要求が今まで以上に通りにくくなったため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	4	3	-1	施設老朽化(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
61	2	1	-1	本項目に該当するかわかりませんが,購読ジャーナルの数が非常に少なくなっているため。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
62	3	2	-1	コミュニティで共用するような高額な研究設備等への支援はジリ貧状態にある。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
63	3	2	-1	新規の先端研究機器の導入が予算削減のために滞っている。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
64	5	4	-1	設備の更新に掛かる経費が潤沢とは言えない。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
65	5	4	-1	老朽化が進んできているので。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
66	4	3	-1	予算不足により,設備の老朽化が目立っている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
67	4	3	-1	施設設備はほぼ十分だが,更新・維持費や老朽対策は不足している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	北欧,独,仏,中,韓に比べ,研究施設の老朽化・陳腐化が進みつつあると思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
69	5	4	-1	装置の老朽化に対する更新や日常的なメンテナンスには支障をきたすようになっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
70	5	3	-2	設備はいいが,予算不足のためメンテナンスや更新がおおざりになっている事例が結構ある(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	3	1	-2	共通的な大型機器の更新は科研費にはそぐわず,これができない。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	3	1	-2	国立大学の施設老朽化はかなり進んでいる。また,新たに導入される機材/施設も,それなりの一般企業に比べるとかなり劣るし,学内施設の投資にお金をかけている私立大学等に比べても劣ると感じた。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
73	5	3	-2	機器の更新予算が大きく減額されている。使用者数の増加に対して機器が不足している。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
74	4	2	-2	研究施設・設備の老朽化が著しい。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
75	3	1	-2	研究機器類は,教員の自助努力による外部資金の獲得等によって整備が進んでいるが,○○大学として○○○○○○○○等から出版されている論文の購読を大幅に削減した為,必要な文献がネット上で閲覧できなくなっている。情報整備が大幅に後退しており,研究環境としては致命的である。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
76	4	2	-2	予算が減少したためか,古い既存装置の交換が優先し,新規の先端装置の配備が後手に回っています。これでは,次世代を担う人材の育成に支障をきたすかもしれないと危惧しております。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

77	4	2	-2	施設・設備の老朽化が激しい。新規設備購入、修理の予算が極端に減少。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
78	5	3	-2	所属機関の変更(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
79	4	2	-2	先端研究はできないが、現状でも教育及び成果は出せる。費用に見合った成果を出しているが、十分ではない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
80	4	2	-2	老朽化が進み,更新も滞っている(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
81	4	2	-2	最近,研究施設の老朽化がみられるのと同時に,最新施設の利用については,利用料金が高額になっていると考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
82	4	1	-3	予算が少なく,装置は古くなっている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
83	4	1	-3	外部の研究者が利用できる研究室,居室がない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
84	5	1	-4	過去に得られた設備はあるが,老朽化によって急速にできることが低下している。老朽化という見えにくい作用の影響は意外に大きいのではないか。現在は,装置が老朽化したり故障しても予算的に直せないし,再購入もできない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

Q205. 組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

回答者グループ	2019年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4 分点	中央値	第3 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	32	167	350	457	416	360	101	1,851	4.8	3.1	4.9	6.8	5.1	5.0	4.9	4.8	-	-0.15	-0.09	-0.06	-	-0.30
大学等	23	138	300	377	343	312	87	1,557	4.8	3.1	4.9	6.8	5.1	5.0	4.9	4.8	-	-0.15	-0.09	-0.06	-	-0.30
公的研究機関	9	29	50	80	73	48	14	294	4.7	3.2	4.9	6.5	5.0	4.8	4.8	4.7	-	-0.16	-0.06	-0.07	-	-0.29
イノベーション俯瞰グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別	26	134	308	409	379	323	91	1,644	4.9	3.2	5.0	6.8	5.1	5.0	4.9	4.9	-	-0.13	-0.06	-0.07	-	-0.26
女性	6	33	42	48	37	37	10	207	4.3	2.5	4.3	6.5	5.0	4.6	4.4	4.3	-	-0.37	-0.25	-0.03	-	-0.65
社長・役員、学長等クラス	0	3	33	52	51	50	7	196	5.4	3.9	5.4	7.0	5.2	5.3	5.5	5.4	-	0.10	0.17	-0.12	-	0.15
部長、教授クラス	9	66	157	194	175	132	37	761	4.7	3.0	4.7	6.5	4.9	4.8	4.7	4.7	-	-0.05	-0.12	-0.03	-	-0.20
主任研究員、准教授クラス	14	79	114	153	137	123	29	635	4.6	2.9	4.9	6.8	5.2	4.8	4.8	4.6	-	-0.36	-0.02	-0.17	-	-0.54
研究員、助教クラス	8	19	43	55	49	49	27	242	5.2	2.9	5.1	7.1	5.3	5.3	5.0	5.2	-	-0.08	-0.24	0.19	-	-0.13
その他	1	0	3	3	4	6	1	17	5.9	3.7	5.4	7.1	5.3	5.1	5.4	5.9	-	-0.13	0.23	0.52	-	0.62
雇用形態	9	24	88	115	129	135	31	522	5.4	3.6	5.4	7.2	5.6	5.4	5.3	5.4	-	-0.20	-0.10	0.02	-	-0.27
任期あり	23	143	262	342	287	225	70	1,329	4.6	2.9	4.7	6.5	4.9	4.8	4.7	4.6	-	-0.10	-0.08	-0.08	-	-0.26
任期なし	0	2	17	33	30	35	6	123	5.6	4.0	5.6	7.2	5.3	5.4	5.7	5.6	-	0.14	0.23	-0.09	-	0.28
業務内容別	2	5	25	45	41	33	4	153	5.1	3.6	5.0	6.5	5.1	5.1	5.1	5.1	-	-0.03	-0.01	0.03	-	0.00
学長・機関長等	26	144	282	339	312	263	86	1,426	4.7	2.9	4.8	6.8	5.1	4.9	4.8	4.7	-	-0.20	-0.12	-0.07	-	-0.38
マネジメンツ実務	4	16	26	40	33	29	5	149	4.6	2.9	4.9	6.6	5.0	4.9	4.7	4.6	-	-0.10	-0.16	-0.06	-	-0.32
現場研究者	15	94	180	269	235	240	72	1,090	5.0	3.2	5.1	7.0	5.3	5.1	5.1	5.0	-	-0.14	-0.07	-0.02	-	-0.23
大規模Pの研究責任者	2	4	21	18	27	18	4	92	5.0	3.2	5.0	6.9	4.8	4.9	5.0	5.0	-	0.14	0.12	-0.01	-	0.25
国立大学等	6	40	99	90	81	54	11	375	4.2	2.7	4.3	6.2	4.8	4.6	4.4	4.2	-	-0.25	-0.21	-0.16	-	-0.62
私立大学	3	12	39	45	62	67	19	244	5.6	3.8	5.9	7.5	5.8	5.7	5.7	5.6	-	-0.08	0.04	-0.18	-	-0.21
第1グループ	8	29	57	84	78	72	22	342	5.0	3.3	5.2	7.0	5.4	5.3	5.1	5.0	-	-0.10	-0.23	-0.07	-	-0.40
第2グループ	4	43	84	89	90	60	18	384	4.5	2.8	4.6	6.4	4.8	4.6	4.5	4.5	-	-0.16	-0.07	-0.06	-	-0.29
第3グループ	8	52	112	148	99	96	21	528	4.5	2.8	4.4	6.5	4.7	4.6	4.5	4.5	-	-0.19	-0.04	0.00	-	-0.23
第4グループ	8	23	24	42	48	46	13	196	5.1	3.2	5.4	7.1	5.6	5.4	5.2	5.1	-	-0.21	-0.21	-0.05	-	-0.47
理学	5	39	94	109	81	74	22	419	4.6	2.9	4.7	6.6	4.9	4.8	4.7	4.6	-	-0.08	-0.08	-0.13	-	-0.29
工学	2	25	38	52	29	26	7	177	4.2	2.5	4.2	6.2	4.5	4.3	4.2	4.2	-	-0.27	-0.03	-0.07	-	-0.37
農学	5	31	79	78	88	79	29	384	5.0	3.0	4.9	7.1	5.5	5.2	5.0	5.0	-	-0.25	-0.18	-0.02	-	-0.45
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし/分らない	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	32	167	350	457	416	360	101	1,851	4.8	3.1	4.9	6.8	5.1	5.0	4.9	4.8	-	-0.15	-0.09	-0.06	-	-0.30

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q205. (意見の変更理由)組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

2018	2019	差	
1	1	4	3 研究設備共用化制度がスタートした(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
2	2	5	3 共用機器センターが設置され,学内の機器共用化がすすんでいる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,女性)
3	2	4	2 共用施設が積極的に研究者目線に立とうとしている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
4	1	3	2 Webを使った機器の予約などの利用を促す新たな仕組みができてきました。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	1	3	2 学内において共用化が進んでいるため。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
6	2	4	2 整備を進めております。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
7	3	4	1 ・機器共用システムが構築され稼働している。・最近少し改善がみられますが,なかなか共通利用できる仕組みができていないです。特にメンテナンスができる技官などが配置されないと難しい。・大型機器については学内外での共用が行われているが,研究室単位で維持できる程度の機器についても共用を進めることで研究スペースと維持に必要な人的資源の効率利用を図ることが可能と思われる。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
8	4	5	1 過度の共用化は,イノベーションを弱めることも危惧される。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
9	3	4	1 整備しつつある(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
10	2	3	1 一部の研究者は,高価な装置を独占せず,誰もが使えるようにしている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1 計算機システム更新に際して,クラウド利用を推進する。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1 少しだけ改善がみられる(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	2	3	1 学内の共通機器を使いやすくする取り組みが始まったため。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
14	3	4	1 各種機器共同利用のための組織,およびその組織への資金の重点配分のしきみを持っている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
15	1	2	1 ルールがどこまで整備されて,どこまで順守されているかは不明ですが,仕組みはあります。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
16	4	5	1 学院の共用化の取組は昨年度よりも進展している。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
17	3	4	1 全学的な取り組みがある。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	4	5	1 大学内でプラットフォーム構築が積極的に進められている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
19	2	3	1 機器予約システムの運用が始まった。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	3	4	1 機器の共用に関して,MX等を用いた機器の使用方法等の教育準備を進めている。また,3機関での機器の共用システムを開発中(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
21	1	2	1 研究設備共用化のための組織(センター)が構築された。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
22	4	5	1 先端研究基盤共用促進事業を活用し,共用化のためのデータベースが整備された。これを契機に,これまで研究グループで固有の機器の共有化に向けた動きが今後期待される。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
23	4	5	1 国の予算がついて整備が進んだ(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
24	1	2	1 取組もうとしている様子は見られる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	1	2	1 取組がなされている段階である。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	3	4	1 センター内の機器予約表の整備など,共有する仕組みが改善されている。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
27	1	2	1 少しずつですが学部等の壁が低くなってきました。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
28	3	4	1 向上の努力がみられる(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
29	3	4	1 質量分析や次世代シーケンサーの受託などが始まり,一定の仕組みができてつつある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	5	6	1 設備サポートセンター整備事業及び先端研究基盤共用促進事業により,学内及び学外の設備共用システムの構築が出来た。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
31	3	4	1 共通機器センターを整備し,うまく稼働しだしている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
32	4	5	1 各研究室の機器が以前より共用出来やすくなっている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
33	2	3	1 機器を使うために大学に支払う必要がある。また,メンテナンスも利用者負担で研究費がないと利用できない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
34	4	5	1 テクニカルイノベーション共創センターとして,機器の学内外者の共用を明確にうたえる仕組みを構築しました。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
35	1	2	1 共通機器の情報がウェブで共用されるようになった。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
36	2	3	1 共有はしやすい(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
37	2	3	1 設備共用に関するシステムは比較的よく整備されている。しかし,分散型キャンパスで公共交通機関がないため,定常的な共同利用に困難あり。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
38	1	2	1 大学内で少しずつ研究施設・設備・機器を共用化を進め始めた。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	4	1 共同研究センターは充実してきているが,いまだ十分ではない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
40	3	4	1 新規な共通機器が導入された。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

41	2	3	1	共同利用制度は進んでいる。機器の維持の予算確保が難しい。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
42	3	4	1	このことについては意識の向上が見られる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
43	3	4	1	共用を促進する制度を整備しても,管理者のマインドが変わらない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
44	3	4	1	共用の仕組みと,共用する設備の維持費の考え方を整理した。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
45	3	4	1	スペースの共有などは進んだ。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
46	3	4	1	整備は進んでいるが,部署ごとに手続きが異なり,分かりにくい(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
47	2	2	0	利用料金が低い(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
48	5	5	0	他機関と比べて,共通設備は充実しているように思えます(自分達は研究分野が異なるためほとんど使用していないためはっきりとは分かりませんが)。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	4	4	0	ただし,設備が老朽化してきている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
50	6	6	0	弱者なりに頑張っているところが多い(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
51	1	1	0	共有する仕組みがなく,利用できない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
52	3	3	0	ようやく今年度に建物の改修工事が進むので,来年度には評価があることを期待している。文部科学省の先端研究基盤共用促進事業の予算もいただき,共用化の取り組みは,加速している。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
53	2	2	0	リストでの共有のみされている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	4	4	0	共有機器など利用を積極的に行っているため仕組みは整いつつある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
55	2	2	0	(意見は不変だが,"2.3"くらいの気持ち)共用したいという現場の空気は伝わり始めたが,仕組み作りには至っていない。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	1	1	0	人手が不足しており,共用は不可能な状況です。研究員への負担も大きな問題です。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
57	2	1	-1	研究費の単目的化を促す省庁の動きが強まり,結果として共用可能な機器の調達自身ができなくなっている。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
58	4	3	-1	古くからある共用機器は当然のように更新されるが,新規設備を共用機器とすることが非常に難しい(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
59	4	3	-1	共用施設の維持,管理,新人学生へのオペレーショントレーニングを担当する人材に,定年制職員を雇用できない。(人員枠が無いため)その結果,最長の雇用期間は5年に制限され,良いと思う人ほど早く異動してしまう,という困難がある。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	4	3	-1	機器は十分に存在しても,それを共用に使うための人材がいない。教員に対処させていることはこの様な仕組みが整備されていないと言ってよい。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
61	3	2	-1	制度はあるが形骸化している(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
62	4	3	-1	共有の大型計算リソースがなく,個人で購入しても設置場所がない。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
63	3	2	-1	私立大学では,年々大型装置を購入するための文部科学省の補助金が少なくなっているため,NMRなどの研究に必須な大型装置の更新が難しい環境にある。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
64	3	2	-1	仕組みを作っても,予算がないために,共通機器は老朽化等で整備状態が悪くなっている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
65	4	3	-1	全学を通した研究施設・設備・機器に関するデータベースを構築する必要があるため。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
66	2	1	-1	共通機器のオペレーションを行う人材を十分に雇い入れる予算の確保に苦慮している。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
67	5	4	-1	機器の使用をサポートしてくれる技官職が増えてくれると,研究の促進にとってもプラスになる。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
68	2	1	-1	全くないようなもの。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
69	3	2	-1	研究室所有の機器まで共用できる仕組みが必要。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
70	3	2	-1	施設・設備の老朽化が進んでいる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
71	3	2	-1	共用の分析機器に耐用年数(15年以上)の機器が多い(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
72	2	1	-1	老朽化が進んでも更新の予算がない(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	2	1	-1	全体の効率よりも面倒が起こることを嫌い,設備や機器の共用に反対する意見が強くなる。意識改革が必要である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
74	6	5	-1	機器類の共用については,先進的なシステムが構築され効率的に運用されているが,一方でスペースチャージを伴う共用部分が効果的に機能していない面があるまま,共用面積だけが増える傾向にあり,個別設備・スペースの不足が経常的な研究の実施に支障をきたし始めている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
75	2	1	-1	新しい機器の購入はあきらめている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
76	6	5	-1	資金面の問題で壊れた共通機器の更新が出来ない(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	4	3	-1	仕組みはあるが周知されていない(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
78	3	2	-1	共用の仕組みと同時に,整備更新のための仕組みが必要だが不足。研究者の意識改革も必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
79	4	3	-1	設備,機器の老朽化がはげしく共用設備の整備もままならなくなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
80	2	1	-1	共有機器を維持するための予算さえ削減された。目先の成果を欲しがる経営者は,基盤研究を支える機器の維持の重要性が全く分かっていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

81	2	1	-1	共用設備を所有する複数の部署のページを別々に調べなければならず,非常に非効率.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
82	5	3	-2	先端機器の設置が周知されていないことが明らかになった(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
83	4	2	-2	共用化の仕組みや制度がまだ不十分であることがわかった(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
84	6	4	-2	文科省の共用化予算が打切られ,自立を求められており,支援員雇用などに支障を生じている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
85	3	1	-2	共用設備の管理者に負担が多すぎる.整備費等の費用の捻出も研究者に依存している。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
86	3	1	-2	所属機関の変更(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
87	4	2	-2	職場が国立から私立大学に変わったため。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	5	3	-2	出口を注目しすぎ,上層部は老朽化から目を背く。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
89	4	2	-2	施設の利用料金の課題があるのではないかと考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
90	5	2	-3	技官などが不足しているため,継続的な活動が困難(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	5	2	-3	仕組みはあるが機器が充実していないので使用実績がまばらない状態であるのが残念。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
92	5	2	-3	設備の老朽化に伴い,共用のインセンティブも失われつつある(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
93	5	1	-4	部署が異なるため使えない機器があった。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
94	6	1	-5	所属部局には,共用設備がない。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)

Q206. 我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。

回答者グループ	2019年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分から ない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 四分 点	中央値	第3四 分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最 新年	
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	78	270	541	501	334	140	19	1,805	3.5	2.3	3.8	5.4	4.1	3.9	3.7	3.5	-	-0.22	-0.19	-0.16	-	-0.57
大学等	64	238	464	410	269	119	16	1,516	3.5	2.3	3.8	5.4	4.1	3.9	3.7	3.5	-	-0.22	-0.19	-0.20	-	-0.61
公的研究機関	14	32	77	91	65	21	3	289	3.8	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	3.8	-	-0.22	-0.16	0.02	-	-0.36
イノベーション俯瞰グループ	47	31	170	155	118	48	4	526	4.0	2.8	4.2	5.7	4.6	4.3	4.1	4.0	-	-0.25	-0.18	-0.15	-	-0.59
大企業	14	4	49	58	25	21	0	157	4.1	2.9	4.1	5.4	4.6	4.4	4.2	4.1	-	-0.25	-0.21	-0.03	-	-0.49
中小企業・大学発ベンチャー	16	9	37	31	30	6	0	113	3.8	2.6	4.1	5.6	4.5	4.3	4.0	3.8	-	-0.21	-0.30	-0.20	-	-0.70
中小企業	8	5	23	18	14	2	0	62	3.5	2.6	4.0	5.4	4.4	4.3	3.8	3.5	-	-0.13	-0.51	-0.30	-	-0.93
大学発ベンチャー	8	4	14	13	16	4	0	51	4.1	2.6	4.2	5.8	4.5	4.2	4.1	4.1	-	-0.29	-0.07	-0.06	-	-0.42
橋渡し等	17	18	84	66	63	21	4	256	4.0	2.7	4.3	5.8	4.6	4.3	4.2	4.0	-	-0.28	-0.10	-0.22	-	-0.59
男性	111	272	633	588	410	174	18	2,095	3.7	2.4	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	3.7	-	-0.22	-0.18	-0.16	-	-0.57
女性	14	29	78	68	42	14	5	236	3.6	2.4	3.8	5.3	4.2	3.9	3.7	3.6	-	-0.26	-0.21	-0.14	-	-0.62
社長・役員、学長等クラス	16	28	148	130	63	19	2	390	3.5	2.6	3.8	5.1	4.0	3.8	3.7	3.5	-	-0.21	-0.09	-0.23	-	-0.53
部長、教授クラス	53	137	311	262	191	67	3	971	3.5	2.4	3.8	5.3	4.1	3.9	3.7	3.5	-	-0.16	-0.22	-0.22	-	-0.60
主任研究員、准教授クラス	36	94	169	187	134	65	11	660	3.8	2.4	3.9	5.6	4.3	4.0	3.9	3.8	-	-0.29	-0.19	-0.04	-	-0.51
研究員、助教クラス	11	38	65	61	51	28	7	250	3.9	2.4	4.2	6.1	4.5	4.2	4.1	3.9	-	-0.25	-0.16	-0.18	-	-0.59
その他	9	4	18	16	13	9	0	60	4.2	3.0	4.1	5.2	4.4	4.2	4.0	4.2	-	-0.25	-0.15	0.13	-	-0.27
雇用形態	26	71	228	213	135	56	5	708	3.7	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.9	3.7	-	-0.19	-0.16	-0.19	-	-0.54
任期あり	99	230	483	443	317	132	18	1,623	3.6	2.4	3.8	5.5	4.2	4.0	3.8	3.6	-	-0.25	-0.20	-0.14	-	-0.59
任期なし	0	5	50	52	14	1	1	123	3.3	2.6	3.6	4.6	3.6	3.5	3.3	3.3	-	-0.05	-0.05	-0.15	-	-0.25
業務内容別	10	14	61	46	21	3	0	145	3.1	2.4	3.4	4.6	3.6	3.4	3.3	3.1	-	-0.20	-0.12	-0.13	-	-0.44
学長・機関長等	65	227	378	375	266	124	17	1,387	3.6	2.3	3.9	5.6	4.2	4.0	3.8	3.6	-	-0.24	-0.20	-0.17	-	-0.61
マネジメント実務	3	24	52	28	33	12	1	150	3.5	2.2	3.6	5.5	4.0	3.8	3.6	3.5	-	-0.19	-0.20	-0.14	-	-0.52
現場研究者	42	185	313	281	181	89	14	1,063	3.5	2.2	3.7	5.4	4.1	3.9	3.7	3.5	-	-0.23	-0.21	-0.19	-	-0.63
大規模Pの研究責任者	4	11	42	21	10	6	0	90	3.1	2.2	3.3	4.7	3.5	3.3	3.3	3.1	-	-0.14	-0.06	-0.19	-	-0.39
国立大学等	18	42	109	108	78	24	2	363	3.7	2.6	4.0	5.4	4.3	4.1	3.9	3.7	-	-0.22	-0.18	-0.21	-	-0.62
公立大学	11	31	56	60	53	29	7	236	4.1	2.4	4.1	6.0	4.5	4.2	4.0	4.1	-	-0.33	-0.15	0.07	-	-0.41
私立大学	15	49	98	78	75	34	1	335	3.7	2.5	4.0	5.8	4.4	4.3	4.0	3.7	-	-0.12	-0.30	-0.25	-	-0.67
第1グループ	9	64	139	100	56	16	4	379	3.1	2.1	3.3	4.8	3.8	3.5	3.2	3.1	-	-0.31	-0.24	-0.12	-	-0.66
第2グループ	26	84	159	150	79	35	3	510	3.3	2.3	3.8	5.2	3.9	3.7	3.6	3.3	-	-0.14	-0.10	-0.29	-	-0.54
第3グループ	12	41	45	52	37	14	3	192	3.4	2.0	3.9	5.6	4.2	3.9	3.7	3.4	-	-0.35	-0.21	-0.23	-	-0.80
第4グループ	16	78	122	96	69	37	6	408	3.4	2.2	3.7	5.5	4.2	3.9	3.7	3.4	-	-0.26	-0.28	-0.24	-	-0.78
工学	7	32	46	42	33	17	2	172	3.6	2.3	3.8	5.6	4.2	3.9	3.7	3.6	-	-0.26	-0.18	-0.17	-	-0.61
農学	15	39	116	106	76	34	3	374	3.8	2.5	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	3.8	-	-0.16	-0.19	-0.06	-	-0.41
保健	27	27	136	123	102	40	4	432	4.0	2.8	4.2	5.8	4.6	4.3	4.2	4.0	-	-0.26	-0.13	-0.19	-	-0.58
産学官連携活動あり(過去3年間)	20	4	34	32	16	8	0	94	3.8	2.6	3.8	5.1	4.4	4.1	3.7	3.8	-	-0.22	-0.40	0.05	-	-0.56
なし	9	6	72	54	44	19	0	195	4.0	2.9	4.2	5.6	4.6	4.4	4.2	4.0	-	-0.18	-0.26	-0.17	-	-0.60
産学官連携活動あり(過去3年間)	34	10	52	63	32	15	0	172	3.9	2.6	3.9	5.3	4.6	4.1	3.9	3.9	-	-0.42	-0.25	-0.02	-	-0.68
なし・分からない	125	301	711	656	452	188	23	2,331	3.6	2.4	3.9	5.5	4.2	4.0	3.8	3.6	-	-0.23	-0.19	-0.16	-	-0.58
全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもとの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q206. (意見の変更理由)我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。

	2018	2019	差	
1	1	3	2	前回の選択は評価が低すぎた。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
2	1	3	2	ID,パスワードが多すぎます。ほかの研究者が覗けない範囲内で統一して頂きたいです(文部科学省と厚生労働省等)。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	2	4	2	これらの基盤投資は劇的に良くなっている。一方で、個別の研究費が下がっている。基盤だけに投資しても意味が無い。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
4	2	4	2	大学でもその不満は余り聴こえない。知的基盤に、研究だけでなく経済基盤などの情報も入手し易い。経済的課題の記載が陳腐。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
5	2	4	2	国立大学での調査結果で判断(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	3	4	1	少しずつ良くなっているように感じるが、諸外国と比較すると、後退してるかもしれない。(大学,社長・学長等クラス,男性)
7	3	4	1	情報基盤が向上してきていると感じる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	環境整備が進んだと思うので。(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	2	1	データベースについて近年、徐々には増加していることを勘案して2としました。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	3	4	1	図書館での科学雑誌電子検索,pdf化などかなり広くカバーできている。一方,大学はその予算確保に苦勞している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	ネット上での講義など,情報システムが徐々に充実してきている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1	徐々によくなってきている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
13	4	5	1	よくなっているのではないのでしょうか。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	研究セキュリティについては不十分。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
15	2	3	1	各方面での国の基盤づくりが進んでいる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
16	1	2	1	researchmapの義務化は負担もあるが良い取り組みだと思う。一方でデータベースが乱立している印象も受ける。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
17	3	4	1	データベースや研究情報へのアクセス方法は改善されている。論文等へのアクセスは,世界的には良くなっている。日本語論文の翻訳公開が望まれる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
18	2	3	1	知財部を中心に企業においてもある程度通用する基盤が整えられつつある。一方で,基礎研究についてはそのプライオリティ確保の重要性を十分に理解していない教員が多いことが悔やまれる。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	3	4	1	論文のオンラインサービスなどがいろいろな学会で充実してきた(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
20	2	3	1	J-Stageの整備など,国内雑誌に関しては研究情報基盤が整備されている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
21	2	3	1	改善している。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
22	2	3	1	少し改善しつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
23	1	2	1	すでに取り組みがなされており,大型資金でもこのような観点で取り組みが始まっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
24	2	3	1	知財関係の支援が充実してきた。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	3	3	0	農水省所管の遺伝資源やデータベースの利用を有料にしているが,産業利用面を重視しすぎていないか。(大学,部長・教授等クラス,男性)
26	2	2	0	教育への支出が継続的にGDP比で減っている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	前回と変わらないどころか,さらに悪化している。特に,電子ジャーナルなどの購読が予算削減や価格の高騰により困難になっており,悪化していると考えられる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
28	3	3	0	・大学図書館のネットワークや共同でのデータベース購入など,やるべきことは非常に多い。特に,文系論文のデータ化。・現在様々な取り組みがあるが総じてまだ不十分と感じる。・高騰する電子ジャーナルやデータベースへのアクセスについて,欧州での事例のように国内の大学・研究機関がコンソーシアムを組んで価格交渉を行う時期に来ているのではないか?(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
29	5	5	0	国力相応(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	中途半端な電子化が招く無用な労働を現場が自己犠牲の上になす状況に変化なし(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
31	2	2	0	活用方法の認知度が低い(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
32	1	1	0	論文へのアクセスが年々できなくなっています。深刻な問題です。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,女性)
33	2	2	0	情報はあっても,情報を買うだけ資金は研究者に委ねられており,大学からの研究費ではとてもこれを賄えない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	3	3	0	無料で閲覧可能な論文が少ない。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
35	2	2	0	オンラインジャーナルの購読費の高騰は何とかしなければならぬ状況である。欧米のように,国全体で働きかけが必要である。国立大学の図書館は,一括契約をするなどの手法も有効かもしれません。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
36	1	1	0	メンテナンスも利用者負担で研究費がないと利用できない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
37	1	1	0	図書館の蔵書が先進国の中で著しく乏しい。これでは十分なサーベイもできない。どこかで一律管理して全員がそこにアクセスするような仕組みが望ましい。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

38	1	1	0	学術論文誌が一部の雑誌社に独占されており、そこと契約しない情報が取得できない現状は明らかに異常。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
39	1	1	0	電子ジャーナルを読めない組織はもはや研究機関とは言えない(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
40	1	1	0	論文へのアクセスはますます難しくなっている。これは出版社側の問題もある。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
41	1	1	0	研究論文にほとんどアクセスできなくなった。大学の費用も負荷がかかり続けている。論文の価値は引用数でできり、いかに新しい論文が入手できたかによる。このままの状況では国際競争の差はさらに広がる。このままでは学術論文の全体的なレベルが落ちてしまわない環境である。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
42	3	3	0	私立大学では、研究論文へのアクセスが難しくなっています。国費で研究論文へのアクセスを支援する制度を用意いただけないでしょうか。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
43	2	2	0	知的基盤では標準化への意識不足,研究情報基盤では情報へのアクセスや情報ネットワーク活用,セキュリティなど無形の部分で大いに不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
44	1	1	0	計量標準への予算配分が、まったく不足している。〇〇〇の電磁波標準研究グループでは、研究者一人の年間予算が15万円らしい。パソコンの交換すらできない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
45	3	3	0	依然として偏りがある(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
46	3	2	-1	研究情報に関するアクセスコストが高騰し,研究情報環境は悪化していると感じる。国として,商業誌の値上げ要求に対抗する施策や情報の一元管理とアクセスの自由度改善に尽くして欲しい。セキュリティ管理のコストが毎年増えている。研究者の情報環境を守ることに限定予算をつけるなど支援が必要と感じる。(大学,社長・学長等クラス,男性)
47	4	3	-1	企業活動における工業・工学分野の競争力が明らかに低下しています。(大学,部長・教授等クラス,男性)
48	3	2	-1	個人情報保護法が研究推進の足かせになるケースが増えてきた(大学,部長・教授等クラス,男性)
49	2	1	-1	文献の利用環境の悪化一部の出版者による営利目的の行き過ぎによる購読料の高騰は大問題です。(大学,部長・教授等クラス,男性)
50	2	1	-1	経営学に必要な企業データベース(民間企業提供)は高額すぎ,購入が不可能である点是对応策が欲しい(大学,部長・教授等クラス,女性)
51	4	3	-1	他国の変化についていっていない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
52	3	2	-1	欧米と比べ物にならないくらい弱いと思います。データベースに入れるところまでを論文執筆作業として定義付けて,学生の協力をお願いするのが実際の手法である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
53	4	3	-1	図書費の削減で論文等の研究情報へのアクセスが制約されるようになっている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
54	4	3	-1	運営費交付金の減少により,論文雑誌へのアクセスがますます困難になってきている。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
55	2	1	-1	ジャーナル(論文雑誌)購入費の値上がりによるタイトル数の削減が目立っている。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	3	2	-1	基盤的経費で措置すべき,論文誌購読などの費用が,予算不足で次々削られている。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	3	2	-1	実際にやろうとすると研究者自身の負担が多すぎる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	3	2	-1	専門誌等は現状個々の大学の予算で購読しているが,年1割内外に達する購読料の高騰もあり減らざるを得ない状況。またオープンアクセス化等,追加的な費用項目もある。従って個々の大学の努力に任せるだけでは,論文アクセス・発信双方で将来的に我が国が遅れを取る可能性は十分ある。その他,必ずしも私の分野ではないが,我が国の文教予算が元々少ない事に加え,長引く経済停滞から,あらゆる領域でアーカイヴィングの体制が崩壊してきている事を危惧している。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
59	2	1	-1	大学図書館において,電子ジャーナルの高騰に伴い,購読可能なタイトルが激減している。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	4	3	-1	海外の遺伝子改変動物が手に入りにくいのがつらいです。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
61	4	3	-1	アクセスできる論文に制限が大きい。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
62	3	2	-1	劣化している(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
63	5	4	-1	学術ジャーナルの益々の高騰により,論文などの研究情報へのアクセスがしにくくなりつつある。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
64	3	2	-1	最新の論文がすぐに見れない(データのサービス遅延),学術雑誌の継続購読が財源不足により常に課題である。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
65	2	1	-1	インフラが十分でない(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
66	3	2	-1	予算不足により所属大学の閲覧契約ジャーナル数がかなり減ったから(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
67	3	2	-1	アクセス出来る電子ジャーナルが減っている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	2	1	-1	大学が悪いわけではないが,アクセスできる学術雑誌の数が減った(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	3	2	-1	試料の保管に問題が出つつある(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
70	2	1	-1	本学のAI,ICTに関する具体的な研究開発の戦略が弱いと感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
71	2	1	-1	昨年まで読めた論文が読めなくなっている(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	6	5	-1	電子ジャーナルの費用高騰に対する組織連携的な取り組みが,みえる化されていないように感じる(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
73	3	2	-1	購読可能な論文誌が減っています(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
74	4	3	-1	経費削減のためにアクセスできる論文(出版社)の数が減った。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	2	1	-1	論文のパッケージ価格の高騰と図書館の予算不足により,研究情報のアクセスが悪化した。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)

76	3	2	-1	洋雑誌の高騰と予算不足で、図書館で十分な雑誌が閲覧できない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
77	5	4	-1	論文購入費用増加に伴う論文情報へのアクセスの悪化(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
78	4	3	-1	予算の削減と雑誌の高騰により、図書館で購入する雑誌類の削減を毎年行うなど、研究環境基盤が劣化してきている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
79	2	1	-1	以前に比べて論文雑誌の契約費が高騰し、どの機関・どの分野においても十分に論文を閲覧できなくなっている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
80	3	2	-1	購読雑誌が減るなど図書館機能が低下している。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
81	4	3	-1	資金がないためか掛け声倒れの傾向がある(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
82	2	1	-1	学術誌の購読予算が逼迫して、読める学術誌の数が年々減少している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
83	2	1	-1	図書館の機能が縮減されており、図書館が危機感を持たないために、改善の見込みがない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
84	4	3	-1	前回時と比べて大きな変化とは思わないが詳細核心的研究情報へのアクセスが気持ち複雑化してきているように感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
85	3	2	-1	ネットワークシステムがさらに高度化しているため、データベース化とアクセスのし易さは、非常に重要である。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
86	3	2	-1	十分に活用できていないように思います(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
87	4	3	-1	AIに強い人材の確保が遅れている(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
88	4	3	-1	十分ではないという情報を、以前と異なり多く見聞きするようになったため。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
89	3	2	-1	バイオメティクスに関する国のデータベースがない。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
90	3	2	-1	情報基盤は充実してきているが、研究情報の取得にかかる経費が肥大している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
91	4	2	-2	欧米の研究情報基盤に比べ、情報公開が遅れている。公開のための資金も不十分である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
92	3	1	-2	運営費の削減でアクセス出来る論文誌がどんどん減っている。代わりとなる制度もあるが、(ほとんど無い)運営費でしか支払えないなど、使い難い。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
93	3	1	-2	〇〇〇〇問題に対して対処できていない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
94	6	4	-2	大学による論文雑誌の購読中止が増え、入手しにくくなった。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
95	5	3	-2	電子ジャーナル購読費用が縮小され、閲覧できるジャーナルが減少し続けている(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,女性)
96	5	3	-2	情報セキュリティ,電子ジャーナルにかかる費用の上昇が、研究環境にかかる予算の減少につながっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
97	5	3	-2	全国的な問題だと思うが、資金不足から大学が購読を取りやめたために読むことのできない論文が多すぎる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
98	4	2	-2	学内ネットワーク利用が有料になり、ただでさえ少ない研究予算がさらに減った(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
99	3	1	-2	研究基盤費の削減で電子ジャーナルの閲覧が廃止されるため。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
100	3	1	-2	大臣によって悪くなっている印象を受ける。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
101	3	1	-2	世界全体の状況に比べて我が国の状況は貧弱である(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
102	3	1	-2	海外に比べると貧弱ではないか。量子コンピュータ,AIなど(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
103	5	2	-3	大学が論文購読を辞める傾向が強くなりすぎた。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
104	4	1	-3	この分野の情報の多様性と莫大な量を処理する方法が研究の発展に追いついていないと感じます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
105	5	2	-3	積極的なオープンソース化と、その一方で知的財産保護のバランスが大きな課題と考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
106	6	2	-4	大学図書館は予算削減のために研究で必要となる学術雑誌が読めない状況にあり、研究情報基盤が十分であるとは言えないため。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)

Q207. 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)はどうか。

回答者グループ	2019年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分からない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	298	172	413	480	351	136	33	1,585	4.0	2.6	4.1	5.7	4.3	4.2	4.0	4.0	-	-0.14	-0.12	-0.09	-	-0.34	
大学等	246	151	361	398	282	115	27	1,334	3.9	2.6	4.1	5.7	4.2	4.1	4.0	3.9	-	-0.13	-0.14	-0.08	-	-0.35	
公的研究機関	52	21	52	82	69	21	6	251	4.3	3.1	4.5	5.9	4.6	4.4	4.4	4.3	-	-0.16	-0.01	-0.14	-	-0.31	
イノベーション俯瞰グループ	96	23	132	135	131	50	6	477	4.3	2.9	4.3	5.8	4.2	4.2	4.3	4.3	-	-0.02	0.07	0.03	-	0.07	
大企業	27	1	30	42	51	17	3	144	4.9	3.4	4.6	6.0	4.5	4.6	4.6	4.9	-	0.09	0.03	0.26	-	0.37	
中小企業・大学発ベンチャー	21	7	29	33	29	8	2	108	4.1	2.7	4.2	5.7	4.1	3.9	4.1	4.1	-	-0.21	0.20	0.08	-	0.07	
中小企業	11	4	15	15	18	5	2	59	4.4	2.9	4.5	5.9	4.4	4.1	4.4	4.4	-	-0.25	0.27	-0.03	-	-0.01	
大学発ベンチャー	10	3	14	18	11	3	0	49	3.9	2.4	3.9	5.3	3.8	3.6	3.7	3.9	-	-0.18	0.09	0.17	-	0.08	
橋渡し等	48	15	73	60	51	25	1	225	4.0	2.7	4.2	5.8	4.1	4.1	4.1	4.0	-	-0.01	0.02	-0.11	-	-0.11	
男性	334	174	492	555	450	168	33	1,872	4.0	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	4.0	-	-0.11	-0.08	-0.05	-	-0.24	
女性	60	21	53	60	32	18	6	190	3.9	2.6	4.1	5.8	4.2	4.1	4.1	3.9	-	-0.06	-0.07	-0.15	-	-0.28	
社長・役員、学長等クラス	44	20	87	128	98	27	2	362	4.2	3.0	4.4	5.8	4.3	4.2	4.3	4.2	-	-0.07	0.05	-0.08	-	-0.10	
部長、教授クラス	149	71	256	248	213	75	12	875	4.0	2.7	4.1	5.6	4.2	4.2	4.0	4.0	-	-0.02	-0.14	-0.03	-	-0.18	
主任研究員、准教授クラス	134	69	134	162	129	53	15	562	4.0	2.7	4.3	5.9	4.4	4.1	4.2	4.0	-	-0.28	0.06	-0.15	-	-0.37	
研究員、助教クラス	50	33	51	60	34	23	10	211	3.9	2.4	4.0	5.6	4.3	4.2	3.9	3.9	-	-0.04	-0.36	0.05	-	-0.36	
その他	17	2	17	17	8	8	0	52	4.1	2.7	4.2	5.8	4.7	4.2	4.2	4.1	-	-0.56	0.08	-0.13	-	-0.60	
雇用形態	103	59	158	199	145	59	11	631	4.1	2.7	4.2	5.7	4.2	4.1	4.1	4.1	-	-0.09	-0.07	-0.02	-	-0.17	
任期あり	291	136	387	416	337	127	28	1,431	4.0	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	4.0	-	-0.12	-0.08	-0.08	-	-0.28	
任期なし	2	6	26	45	38	6	0	121	4.2	3.4	4.6	5.8	4.3	4.2	4.4	4.2	-	-0.11	0.24	-0.21	-	-0.08	
業務内容別	25	2	34	53	33	5	3	130	4.2	3.0	4.2	5.3	4.2	4.1	4.1	4.2	-	-0.08	-0.07	0.14	-	-0.01	
学長・機関長等	257	146	324	341	247	110	27	1,195	3.9	2.5	4.1	5.7	4.3	4.1	4.0	3.9	-	-0.16	-0.14	-0.10	-	-0.40	
マネジメント実務	14	18	29	41	33	15	3	139	4.1	2.8	4.5	5.9	4.5	4.5	4.2	4.1	-	0.01	-0.26	-0.11	-	-0.37	
現場研究者	154	107	226	283	224	89	22	951	4.1	2.7	4.2	5.8	4.4	4.3	4.1	4.1	-	-0.14	-0.15	-0.08	-	-0.37	
大規模Pの研究責任者	16	4	28	27	8	9	2	78	3.9	2.8	4.0	5.3	4.1	4.1	4.0	3.9	-	-0.04	-0.06	-0.10	-	-0.20	
国立大学等	76	40	107	88	50	17	3	305	3.4	2.2	3.5	5.0	3.6	3.5	3.4	3.4	-	-0.12	-0.06	-0.05	-	-0.24	
私立大学	28	18	41	61	61	29	9	219	4.6	3.0	4.6	6.2	4.8	4.7	4.5	4.6	-	-0.07	-0.17	0.10	-	-0.14	
大学グループ	57	28	69	87	71	32	6	293	4.2	2.8	4.4	6.0	4.5	4.4	4.3	4.2	-	-0.06	-0.14	-0.08	-	-0.29	
第1グループ	54	56	107	102	48	19	2	334	3.2	2.2	3.6	4.8	3.8	3.5	3.4	3.2	-	-0.31	-0.11	-0.13	-	-0.56	
第2グループ	103	46	139	133	81	28	6	433	3.6	2.4	3.9	5.4	3.9	3.9	3.8	3.6	-	-0.06	-0.08	-0.12	-	-0.26	
第3グループ	32	17	39	49	40	20	7	172	4.3	2.9	4.5	6.2	4.9	4.7	4.4	4.3	-	-0.19	-0.23	-0.12	-	-0.54	
第4グループ	70	43	98	93	74	39	7	354	3.9	2.5	4.0	5.8	4.3	4.2	4.0	3.9	-	-0.04	-0.23	-0.05	-	-0.31	
工学	38	23	35	47	23	11	2	141	3.6	2.4	4.0	5.6	4.2	3.8	3.8	3.6	-	-0.36	0.02	-0.28	-	-0.61	
農学	70	44	111	88	50	23	3	319	3.4	2.3	3.6	5.1	3.8	3.6	3.5	3.4	-	-0.17	-0.11	-0.08	-	-0.36	
保健	64	19	113	110	105	43	5	395	4.3	3.0	4.5	5.9	4.2	4.2	4.4	4.3	-	-0.02	0.18	-0.09	-	0.07	
産学官連携活動あり(過去3年間)	32	4	19	25	26	7	1	82	4.4	2.6	3.9	5.1	4.3	4.3	3.7	4.4	-	-0.08	-0.56	0.69	-	0.04	
なし	25	7	52	43	54	20	3	179	4.4	2.9	4.3	5.8	4.4	4.2	4.2	4.4	-	-0.14	0.01	0.19	-	0.05	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	47	8	38	49	48	14	2	159	4.4	2.9	4.4	5.9	4.0	4.0	4.3	4.4	-	0.07	0.27	0.04	-	0.38	
なし・分からない	394	195	545	615	482	186	39	2,062	4.0	2.7	4.2	5.7	4.3	4.2	4.1	4.0	-	-0.11	-0.08	-0.06	-	-0.25	
全回答者(属性無回答を含む)																							

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(利用しにくい)~6(利用しやすい))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものの。指数の範囲は0.0ポイント(利用しにくい)~10.0ポイント(利用しやすい)となる。

Q207. (意見の変更理由)公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手续、サポート体制、利用料金等)はどうか。

	2018	2019	差	
1	1	4	3	昨年,初めて〇〇大学の大型共用研究施設を使用させていただき,良い印象を持ちました。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	3	5	2	利用料金設定について詳しく知って,外部受託料金と比較して格安であることを知ったため。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
3	2	4	2	具体的な困窮した事例を聴かない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
4	3	5	2	広島県は比較的進んで来ていると思われます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
5	3	4	1	各種の共同利用の制度が整いつつある。(大学,社長・学長等クラス,男性)
6	3	4	1	大型機器の共同利用が本学においても進みつつある(大学,社長・学長等クラス,男性)
7	4	5	1	学内のシステムが整ってきた(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	3	4	1	・利用のしやすさは問題ではない。研究者ならどんなものでも利用する。問題は,利用できないものがあること。・計算資源やネットワーク接続等の整備は価格がまだ高いと感じる。手続きも簡略化すべき。・大型施設について,研究成果を公表することを条件に利用料をとらず,利用課題はピアレビューによる審査を経て採択される,という仕組みは先進国で標準とされる方法であり,海外のすぐれた研究者を日本に引き込む一つのきっかけとして機能している。以前,イギリスの CLRC が「チケット制」を導入して研究活動が他国に流出する結果になったことを鑑み,現在の仕組みを維持すべきと考える(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
9	1	2	1	徐々によくなってきている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	良くなりつつある(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
11	2	3	1	やりやすいものが少しずつ増えていると感じる(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
12	4	5	1	オープンファシリティ制度なので使いやすくなっているが,同じ大学内でも初期講習料および使用料が高すぎる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	1	2	1	スパコンなどは改善されている(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
14	4	5	1	コストを抑えるための努力を十分にしてくれている印象がある。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	3	4	1	仕組みは出来上がっていると思うが,実際に利用するとどんな成果が出るかが不明で,成果が出ないと貴重な時間をつぶしたとの批判が出るので,ためらっている研究者も多い。このため,大型になればなるほどユーザーが固定化され,若手や新しいアイデアを持った研究者が出てこない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
16	2	3	1	国の予算が増えている(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
17	3	4	1	最近固体NMRの外部装置との利用料を比較する機会を得,自大学では料金が格安であることを知った(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
18	3	4	1	ウェブサイトの充実がみられる。課金制度も使いやすくなってきている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
19	5	6	1	設備サポートセンター整備事業及び先端研究基盤共用促進事業により,学内及び学外の設備共用システムの構築が出来た。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
20	3	4	1	大学連携研究設備ネットワークに加入し体制構築を行ったため(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
21	4	5	1	WEBシステムでの確認が容易になっている。施設間で手続きの共通化や,簡略化が望まれる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
22	2	3	1	施設の紹介や宣伝を見る機会が増えた(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
23	4	5	1	大型共用研究施設の利用の機会が増えたが,問題は無かった。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
24	2	3	1	最近,少しづつだが,地元企業にも装置等を利用できやすくするように工夫をしている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	2	3	1	環境は改善されているが,利用するだけの予算をもたない研究者が多い。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
26	2	3	1	施設共用が浸透しつつある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
27	2	3	1	以前より開放的になったと思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
28	3	4	1	最近よく活用させてもらっていて,問題なし(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
29	2	3	1	相談窓口などが整備されつつある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	3	4	1	比較的安価での利用が可能(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	4	5	1	学内ヒアリングをした際,学外者でも使用可能な設備等がそれなりにあるとわかったため。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
32	2	3	1	改善されていると思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
33	3	4	1	最先端ではないかもしれないが,公的機関の測定は容易に依頼できる(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
34	5	6	1	文科省およびAMED等の施策には,大型共用研究施設・設備利用促進策が加味されている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
35	2	3	1	設備保有状況が以前より公開されてきた(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
36	3	4	1	公的機関の設備を使う機会があり,助かりました。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	3	4	1	大学を含めた公的な研究機関が産学連携を掲げて,研究施設や研究設備を利用し易い環境が整備されて来ていると感じます。(民間企業等,その他,男性)
38	2	3	1	共用施設・設備の利用は進展している。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

39	3	3	0	大学の研究者の施設使用に関して、格安な料金設定と他機関利用に関する国の補助金制度を導入すべきである。日本の研究力の維持の為に大切な政策である。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
40	3	3	0	改善が始まろうとしていることは認識するがまだまだである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
41	2	2	0	最先端であればあるほど囲い込んでしまい、共有性はない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
42	3	3	0	一部の大型研究施設では、お試しなどの仕組みもできており、利用しやすくなっていると思う。一方、なかなか地方までには、利用についてのメリットが波及しておらず、前回と変更無しとした。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
43	2	2	0	アクセスしにくいように思います。(大学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
44	1	1	0	情報が不明。(大学, 第3G, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
45	1	1	0	距離の問題がある。サテライト的な施設が必要。(大学, 第3G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
46	2	2	0	地方の研究者は使えない(大学, 第3G, 農学, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
47	4	4	0	学内ではないが、ABiSなどの取り組みは、高く評価できる。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
48	1	1	0	他の公的機関の装置に関しては、使用のための手続きが煩雑なため利用しようとは思わない。(大学, 第3G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
49	3	3	0	有難く使わせてもらっている(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
50	1	1	0	メンテナンスも利用者負担で研究費がないと利用できない。(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
51	6	6	0	大型機器を利用させて頂いている(大学, 第4G, 理学, 研究員・助教クラス, 女性)
52	5	5	0	不満はない(大学, 第4G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
53	5	5	0	今は不自由は感じていないが、ラボのPIがコネクションがあるからなのかもしれない。独立後に共同研究申請をした時にどれくらい採択してもらえるかは不明・不安。(大学, 第4G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
54	4	4	0	全国の研究者への周知がまだ不十分(大学, 大学共同利用機関, 部長・教授等クラス, 男性)
55	1	1	0	設備はあっても、対応する人間がいません。(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
56	2	2	0	手続きが煩雑(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
57	3	2	-1	設備の設置予算はある程度確保されているが、運営のための人件費、設備更新費用などを維持できるまでには至っていない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
58	3	2	-1	海外の共同利用研究機関を利用する機会が増え、日本のサポート体制はまだ不十分と感じるに至った(大学, 部長・教授等クラス, 女性)
59	3	2	-1	研究設備は基本的に共同利用には無理がある。(大学, その他, 男性)
60	4	3	-1	システムを認知することが難しい。(大学, 第2G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
61	3	2	-1	共用研究施設の専門が個々の研究者のニーズに合致していないように思われる(大学, 第2G, 工学, 研究員・助教クラス, 男性)
62	3	2	-1	大型計算機等は、派閥が分かれて独占的な傾向が見られており、広く多分野の研究に配分する傾向が弱まっている。(大学, 第3G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
63	3	2	-1	公的機関の施設や設備の情報が無い。(大学, 第3G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
64	3	2	-1	施設利用に関する広報が十分とは言えない。(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
65	3	2	-1	公的研究機関が持つ大型機器の情報は私立大学には入ってこない(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
66	4	3	-1	実際に○○○の設備を使用して手続きの煩雑さ、サポート体制の悪さを感じたため評価を落とした。(大学, 第4G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
67	4	3	-1	ナフテプラットフォームなど、共用施設の整備は一定の成果を上げているように見える。ただ、成果報告など、デューティーが多い。(大学, 第4G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
68	4	3	-1	利用料金がまだ高い。共同研究の場合の費用負担の見直しがより必要である。(大学, 第4G, 工学, 研究員・助教クラス, 男性)
69	5	4	-1	利用料金が研究費を圧迫しすぎている感がある。(利用料金が高いのではなく、研究費の少ないことが問題。)(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
70	2	1	-1	特に地域では老朽化が目立つ。維持費も確保できていない。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
71	4	3	-1	大規模なところは手厚いが、中規模なところは資金・人員不足で不十分である。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
72	5	4	-1	最先端の機器は3年もたてばスペックは落ちている、なかなか毎年、補充、開発するのは難しく、維持だけで手いっぱいではないか。(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
73	5	4	-1	分析に関して言えば、自身が研究施設に行って分析する以外に、民間の分析センターの様に依頼で分析をお願いすることができれば、益々利用が促進されると思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
74	3	2	-1	手続きに時間がかかるのでは(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
75	5	4	-1	情報発信が不足している部分もあると感じる(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
76	3	2	-1	比較的余裕がないと時間的なマッチングができない。(民間企業等, その他, 男性)
77	4	2	-2	本学の分析装置の共用設備組織については、利用料金が低い。最近その理由を知る機会があったが、例えば、年度末の配当予算消化のために本当に必要かどうか不明な消耗品をどんどん買うならば、その原資となる利用料金を下げられるはずで、この悪い意味での役所的な仕組みを変えないと、利用料金は不合理に高いままになると思う。(大学, 第2G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
78	4	2	-2	研究所の共通機器の更新が行われない。(大学, 第3G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
79	4	2	-2	最近、利用することがあったが、目的や義務など「しぼり」がキツ過ぎ、もっと自由度をあげ、報告などの負担は抑えるべき。(大学, 第4G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
80	5	3	-2	利用料金の設定の課題が表面化しているのではないかと。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)

81	5	3	-2	制限が多く、また、利用料も高額である場合もあり、一律に利用のしやすさとの観点では、まだまだの感がある。(公的研究機関、部長・教授等クラス,男性)
82	4	1	-3	地方大学から利用することについて、情報量の不利と、学生などを同行させる旅費面の不利が存在する。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)

Q208. 公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。

回答者グループ	2019年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4 分点	中央値	第3 分点	各年の指数				指数の変化							
		1	2	3	4	5	6					2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
大学・公的研究機関グループ	103	150	426	574	417	174	39	1,780	4.2	2.9	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.06	-0.09	-0.06	-	-0.21
大学等	83	128	364	479	345	148	33	1,497	4.2	2.8	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.04	-0.11	-0.06	-	-0.21
公的研究機関	20	22	62	95	72	26	6	283	4.3	3.0	4.4	5.9	4.5	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	-0.14	0.00	-0.09	-	-0.22
イノベーション俯瞰グループ	39	33	141	187	122	49	2	534	4.1	2.8	4.2	5.6	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	-0.03	-0.03	-0.01	-	-0.07
大企業	14	3	42	55	41	16	0	157	4.3	2.9	4.2	5.6	4.1	4.1	4.1	4.3	3.6	3.6	0.01	0.04	0.20	-	0.25
中小企業・大学発ベンチャー	8	14	34	45	21	7	0	121	3.6	2.5	3.9	5.2	3.7	3.5	3.7	3.6	3.6	3.6	-0.22	0.18	-0.16	-	-0.19
中小企業	5	7	20	23	10	5	0	65	3.6	2.6	3.9	5.4	4.0	3.8	3.9	3.6	3.6	3.6	-0.16	0.10	-0.34	-	-0.40
大学発ベンチャー	3	7	14	22	11	2	0	56	3.5	2.4	3.8	5.1	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	-0.25	0.21	0.04	-	0.00
橋渡し等	17	16	65	87	60	26	2	256	4.2	2.9	4.3	5.8	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	0.04	-0.19	-0.09	-	-0.24
男性	128	163	509	677	494	200	35	2,078	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.05	-0.06	-0.05	-	-0.16
女性	14	20	58	84	45	23	6	236	4.1	2.9	4.2	5.7	4.5	4.4	4.2	4.1	4.1	4.1	-0.12	-0.18	-0.09	-	-0.38
社長・役員、学長等クラス	15	28	108	139	93	23	0	391	3.9	2.8	4.1	5.4	3.9	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	0.06	-0.04	-0.09	-	-0.07
部長、教授クラス	63	67	263	320	211	88	12	961	4.1	2.8	4.2	5.6	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	-0.01	-0.10	-0.03	-	-0.14
主任研究員、准教授クラス	40	63	136	206	159	74	18	656	4.3	3.0	4.5	6.1	4.6	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	-0.15	-0.02	-0.15	-	-0.33
研究員、助教クラス	14	22	48	71	64	32	10	247	4.5	2.9	4.5	6.0	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	-0.09	-0.04	0.15	-	0.02
その他	10	3	12	25	12	6	1	59	4.3	2.8	4.0	5.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	0.02	-0.42	0.31	-	-0.09
任用あり	28	57	170	236	174	62	7	706	4.1	2.9	4.2	5.7	4.2	4.2	4.3	4.2	4.1	4.1	-0.06	-0.12	-0.05	-	-0.11
任用なし	114	126	397	525	365	161	34	1,608	4.2	2.8	4.3	5.8	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	0.11	-0.05	-0.05	-	-0.22
業務内容別	1	5	33	42	36	6	0	122	4.1	3.1	4.2	5.3	3.8	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	0.23	0.02	0.03	-	0.28
学長・機関長等	12	11	40	50	34	8	0	143	3.8	2.8	4.0	5.1	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	0.00	-0.18	0.02	-	-0.15
マネジメント実務	80	121	316	439	316	142	38	1,372	4.2	2.8	4.3	5.9	4.5	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	-0.10	-0.09	-0.06	-	-0.25
現場研究者	10	13	37	43	31	18	1	143	4.1	2.9	4.4	6.0	4.4	4.4	4.4	4.3	4.1	4.1	0.01	-0.09	-0.23	-	-0.32
大規模Pの研究責任者	53	94	248	328	246	109	27	1,052	4.2	2.8	4.3	5.9	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.08	-0.12	0.00	-	-0.20
国立大学等	6	8	31	27	16	5	1	88	3.6	2.6	3.9	5.3	4.0	3.9	3.8	3.6	3.6	3.6	-0.07	-0.13	-0.20	-	-0.41
私立大学	24	26	85	124	83	34	5	357	4.2	3.1	4.4	5.8	4.3	4.4	4.4	4.2	4.2	4.2	0.09	-0.06	-0.20	-	-0.17
第1グループ	10	21	42	68	62	37	7	237	4.6	3.2	4.7	6.2	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	-0.03	-0.13	0.01	-	-0.15
第2グループ	15	16	79	111	80	39	10	335	4.5	3.0	4.4	6.0	4.6	4.6	4.4	4.5	4.5	4.5	0.00	-0.18	0.02	-	-0.16
第3グループ	19	47	98	124	70	24	6	369	3.7	2.6	4.0	5.3	4.1	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	-0.23	-0.03	-0.09	-	-0.36
第4グループ	34	39	135	158	120	40	10	502	4.1	2.8	4.2	5.7	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	0.05	-0.07	-0.09	-	-0.11
理学部	12	16	44	60	46	24	2	192	4.3	2.8	4.5	6.1	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	-0.10	-0.16	-0.13	-	-0.39
工学部	25	38	98	119	91	39	14	399	4.2	2.7	4.2	5.9	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.16	-0.09	0.01	-	-0.24
農学部	8	16	36	50	43	23	3	171	4.4	3.1	4.5	5.9	4.6	4.5	4.3	4.4	4.4	4.4	-0.12	-0.15	0.02	-	-0.25
保健学部	18	30	90	128	78	32	13	371	4.2	2.9	4.3	5.8	4.4	4.4	4.3	4.3	4.2	4.2	-0.01	-0.08	-0.10	-	-0.19
産学官連携活動あり(過去3年間)	22	24	114	146	108	43	2	437	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	0.00	0.02	-0.04	-	-0.03
なし	17	9	27	41	14	6	0	97	3.6	2.4	3.5	4.8	3.8	3.7	3.4	3.6	3.6	3.6	-0.16	-0.25	0.21	-	-0.20
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	12	11	51	59	52	19	0	192	4.2	2.8	4.1	5.5	4.0	4.0	4.0	4.2	4.2	4.2	0.02	0.00	0.16	-	0.18
なし・分からない	23	15	52	76	27	12	1	183	3.7	2.6	3.9	5.4	4.0	3.8	3.9	3.7	3.7	3.7	-0.22	0.10	-0.16	-	-0.28
全回答者(属性無回答を含む)	142	183	567	761	539	223	41	2,314	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	-0.05	-0.08	-0.05	-	-0.18

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したもとの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q208. (意見の変更理由)公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。

2018	2019	差	
1	2	4	2 所属する学会で,そのような共通データベースの整理が進んできた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
2	1	3	2 機関レポジトリの取組みが進みつつある(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
3	2	4	2 省庁など,国の各種関係機関において,このような取組みが進行中であるため。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
4	2	4	2 こういう取組みは本当に意味があるのかよく分からない。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
5	3	5	2 中国等への情報拡散を考えると,もっと秘匿すべきものも多いかもしれないので,吟味すべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
6	1	3	2 大学の知財などが広報活動に積極的に力を入れはじめてきたため,状況はよい方向に変わりつつある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
7	3	5	2 オープンサイエンスに向けた具体的な取組みが始まっていると感じる(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	4	2 当研究所でも運用が開始された。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	1	3	2 論文のオープンアクセスは大きく進展.コホート研究のデータの共有化も,いろいろな試みが進んでいる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
10	4	5	1 プレスリリースを含め,研究報告書など本学においても意識付けが進んできた(大学,社長・学長等クラス,男性)
11	3	4	1 研究成果のデータベース化や公開が徐々に進展しつつある。(大学,社長・学長等クラス,男性)
12	3	4	1 データ公開に向けての動きが少しずつ高まってきている(大学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1 成果の公開はそれなりに進んできた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1 徐々によくなってきている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1 進みつつある(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
16	5	6	1 こういったことはあとからついてくるものなので,とにかく運営費,基盤研究経費を増やしてください。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
17	2	3	1 機関レポジトリが良く機能している.ただ実際は機関ごとではなく,国家的な大きな組織が取りまとめるのが無駄がなく良いと思われる。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
18	2	3	1 多少改善されているかも。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
19	4	5	1 オープンアクセス誌や,arXivなどの利用が増えた(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	3	4	1 研究成果の公開・共有に関して,FDを通じて周知している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
21	3	4	1 論文のオープンアクセス化を支援しているため(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
22	3	4	1 公的研究資金を用いた研究成果や研究データは公開されている.ただ内容は情報が少ないため投稿論文などの自動追加が必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
23	3	4	1 データベースシステムの更新が行われ利用しやすくなった(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
24	1	2	1 論文雑誌はオープンアクセスが主流になりました.文部科学研究費で,オープンアクセス雑誌での論文の刊行にかかる費用を競争的資金として提示されるか,新たに国が刊行費用の何割かを負担する(国民健康保険のように),ということがあると日本からの論文刊行物が増えるかもしれません.刊行費用はあまりに高額で,過半数の研究者が業績を出す障害になっています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	2	3	1 改善化されているがまだ不十分(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
26	3	4	1 組織として対応している(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
27	1	2	1 オープンアクセス,データなどの取組みは始まっており,また外部資金の中にも積極的に進めるべきとされている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
28	3	4	1 かなり,各組織でも学会でもオープンになってきており,整備もされてきている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
29	3	4	1 計画段階を含めて,情報公開が行われている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
30	2	3	1 TRAMIでようやく少し基盤が出来て来た(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	2	3	1 以前よりは改善されている(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
32	4	5	1 データシェアリングを含めたオープンアクセス化が加速されつつある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
33	2	3	1 ナノセルロースフォーラムで実施(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
34	4	5	1 オープンソース化の動きは高まり,顕在化している(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
35	3	4	1 所属する地盤工学会を始め多くの学会で,論文等へオープンアクセス化が進展していると,肌で感じることができます。(民間企業等,その他,男性)
36	4	5	1 自身の専門分野ではデータ共有の情報基盤が整備された(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
37	3	3	0 大学の知的財産の社会実装への要求をしつつ,一方で早期の情報公開を求めるといふ,相反する要求に対してどのようにバランスをとって対応すべきかについてのガイドラインがない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
38	2	2	0 情報公開の前提となる権利確保への取組みが足りないように思う。(大学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	3	0 公開よりも活用力が問題。(大学,その他,男性)

40	3	3	0	データベースを保護するしきみがないので、なかなか公開共有が難しい。国レベルで考えるべき課題かと思います。・人文学系はこの点に関しては非常に劣っており、大きな憂慮を感じる。・以前に比して環境は整いつつあるがまだ不十分と感じる(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
41	1	1	0	データ保全,活用に関する取り組み,基盤整備の遅れが顕著(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
42	2	2	0	投稿論文のオープンアクセス化を文科省自身が雑誌会社などと交渉して推進すべきである。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
43	1	1	0	これからはこの部分を強化しないと日本の競争力は壊滅的打撃を受ける。この辺で発想を入れ替えるべきである。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
44	3	3	0	206でも述べたが,論文のオープンアクセス化を個々の研究者や大学の努力に頼るのには限界があると思われる。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
45	1	1	0	論文のオープンアクセス化は最も身近な例だが,これをそのまま進めると研究資金が潤沢でなければ論文発表すらできないことになりかねない。逆に論文発表に資金がかかりすぎて研究本体の運営に影響を及ぼしかねない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
46	2	2	0	国はベンチャーのIPOに対する制度の緩和などを行っているようだが,形骸化していないか。実例を作っていく気はあるのか。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	2	2	0	オープンアクセス化するとさらに出版費用がかかるという理由でオープンアクセス化をしない場合も見受けられる。研究費を配るJSTやJSPSが出版社と交渉をして,これらの科研費を使った研究は自動的にオープンアクセスにする,などの対策が必要と考えられる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
48	1	1	0	同じような提案が採択されているケースが散見される。研究成果,プログラム,データを共有する仕組みが用意されていない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
49	1	1	0	オープンアクセス化の費用が科研費の基盤研究Cの配分の半年から1/4年分に相当する学術誌も多い。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
50	2	2	0	特にデータ公開においてインセンティブを考える必要がある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
51	5	5	0	制度としては整っていると思うが,実際に活用されているかどうかは分からない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
52	3	3	0	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブはこの20年間不明確(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	1	1	0	政府が実施しはじめた努力は認めるが,現場の負担が増えるばかりでメリットが享受できない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	1	1	0	研究データは整理された情報である場合が多く,統計学的な処理を含めて信頼性に疑問がつくことが多い。リアルワールドの情報共有される体制が望まれると感じます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
55	3	3	0	「公的研究資金(含 額)」と「それから得た成果」を一括して公開すべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
56	2	2	0	公表は増えているように思いますが伝わらない(知っている人しか知らない)ように思います(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
57	3	2	-1	論文のオープンアクセス化を前提とする学会誌の国費支援を増やす事が日本の学術のレベルアップに繋がる。学会誌が激減して商業誌に変わったことで経費が増加し,研究費減少の原因になっている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
58	3	2	-1	オープンアクセスの論文への投稿費が高く研究費を圧迫している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
59	3	2	-1	論文のオープンアクセスには相当の予算が必要であり,容易ではない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
60	2	1	-1	前回よりも公開性は悪くなっている。税金の意味を忘れていないか。(大学,部長・教授等クラス,男性)
61	3	2	-1	欧米の研究情報基盤に比べ,公開のための資金も不十分である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
62	2	1	-1	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブ付与が,進んでいないので,前回よりも評価を下げた。(大学,部長・教授等クラス,男性)
63	2	1	-1	なかでも医療系の情報共有(データベース化も含む)には技術的な面で深刻な問題があると思います。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
64	4	3	-1	他国の変化についていけない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
65	5	4	-1	システムとしてはあるのだが,わかりにくい。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	2	1	-1	新たな取り組みが無い。オープン可能な研究成果の公表に関して,大きな枠組みがあった方が良いと思います。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
67	2	1	-1	外国雑誌の契約を中止し,読めなくなる予定。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
68	3	2	-1	論文をオープンアクセス化するには余分な投稿費が掛かってしまい,現状の研究資金だと困難なため(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	4	3	-1	教員に時間的余裕がない(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	3	2	-1	大学の図書費用の削減が続いています。由々しき事態と考えます。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
71	3	2	-1	論文のオープンアクセスには費用がかかるが,現状は研究者で負担している。オープンアクセスを推奨されても予算的に対応できない。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	3	2	-1	学内の検討が十分になされていない(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
73	3	2	-1	Research Mapは科研費データベースからのデータ取り込みを早急を実施すべき(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	Nature communicationsで70万円です。誰がそんな金を出してくれるのですか。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
75	3	2	-1	オープンアクセス化を推進するのは良いが,それが逆に研究費を圧迫している面がある。間接経費の使用や大学負担を奨励すべき。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
76	4	3	-1	論文アクセスに対する制限が,まだ強いと思います。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)

77	3	2	-1	海外学術雑誌の購入価格の高騰への対策として、論文のオープンアクセス化が一層急がれる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	4	3	-1	議論は始まっているが、動きが遅く、欧米等の後追いになりそう。主導権を取れるタイミングを逃した感じがある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
79	4	3	-1	公開された研究成果や研究データは一般の人が理解できるような形になっていない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
80	3	2	-1	論文投稿の際に要求されるデータセットを保存するための国内データサーバーの整備が遅れている。また、これまで認識していなかったが、機関内での論文リポジトリの整備もまだである。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
81	4	3	-1	データだけではなく、データを分析・統合するアプリケーションに関しても、整備が望まれる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
82	3	2	-1	データ公開の圧力はかけるが、国策としてどのような戦略でデータ公開をするべきなのかの議論がない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
83	6	5	-1	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブ付与が不足している(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
84	3	2	-1	研究データを公開・共有化の重要性は認識されつつあるが、プラットフォーム構築がまだ進んでいない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	2	1	-1	各機関が持つTLO組織が閉鎖的。横並びで機関別の特徴が全く感じられない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
86	4	3	-1	単純に公開すればいいというものでもない。日本の競争力を上げるためであれば、必要とする人に成果が届けられる仕組みが必要かと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
87	4	3	-1	もっと見開きしておかしくないのに、と感じるようになった。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
88	4	2	-2	論文オープンアクセス費用の高騰化に対応できていない。(大学,社長・学長等クラス,男性)
89	5	3	-2	研究データを公開・共有する研究者へのインセンティブは聞いたことがありません。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
90	4	2	-2	評価者交代による見解の相違。公的研究資金を用いた研究データ整備事業そのものが貧弱。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
91	4	2	-2	開発したプログラムを公開する仕組みがなく、国内で開発されたプログラムが活かされていないと感じます。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
92	5	3	-2	産学連携を実際に始めてみると、自身が研究で開発した実験装置やシミュレーションコードの取扱い等に、理にかなった取扱いルールが定められておらず、また企業から権利を守る体制も整っていないと実感した。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
93	4	2	-2	論文のオープンアクセス化は進んでいいが、投稿料が高すぎる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
94	4	2	-2	研究者個人個人に任せすぎ。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
95	4	2	-2	公的コンソやプログラムなどの成果物のオープン状況が、複数の研究者にまたがっていると活用しにくい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
96	5	2	-3	オープンアクセスの増加とともに公開に関わる費用の高騰があり、論文投稿にも支障が出来ることが懸念される。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
97	6	3	-3	研究者は多忙で、インセンティブ付与が不十分(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q209. 科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

回答者グループ	2019年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回数者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	38	914	580	232	73	35	11	1,845	1.6	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	1.6	-	-0.25	-0.19	-0.09	-	-0.53
大学等	31	786	484	189	56	27	7	1,549	1.5	0.9	1.8	3.0	2.0	1.8	1.6	1.5	-	-0.25	-0.18	-0.10	-	-0.53
公的研究機関	7	128	96	43	17	8	4	296	1.9	1.0	2.1	3.3	2.4	2.2	2.0	1.9	-	-0.25	-0.22	-0.03	-	-0.50
イノベーション俯瞰グループ	28	183	223	86	29	19	5	545	2.1	1.2	2.3	3.5	2.7	2.4	2.2	2.1	-	-0.31	-0.15	-0.08	-	-0.54
大企業	5	34	81	32	12	7	0	166	2.5	1.6	2.5	3.6	2.7	2.6	2.4	2.5	-	-0.12	-0.24	0.16	-	-0.20
中小企業・大学発ベンチャー	10	40	51	16	8	1	3	119	2.1	1.5	2.5	3.9	2.8	2.5	2.1	2.1	-	-0.33	0.01	-0.40	-	-0.72
中小企業	5	24	30	8	2	0	1	65	1.8	1.5	2.5	3.8	3.1	2.7	2.4	1.8	-	-0.39	-0.28	-0.63	-	-1.30
大学発ベンチャー	5	16	21	8	6	1	2	54	2.6	1.6	2.6	4.0	2.6	2.4	2.7	2.6	-	-0.27	0.29	-0.10	-	-0.07
橋渡し等	13	109	91	38	9	11	2	260	1.9	1.0	2.1	3.3	2.6	2.1	2.0	1.9	-	-0.45	-0.15	-0.06	-	-0.66
男性	55	981	726	287	92	50	15	2,151	1.7	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	1.7	-	-0.27	-0.17	-0.09	-	-0.53
女性	11	116	77	31	10	4	1	239	1.6	0.9	1.8	3.2	2.2	2.0	1.7	1.6	-	-0.22	-0.28	-0.10	-	-0.60
社長・役員、学長等クラス	12	176	139	52	15	9	3	394	1.7	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	1.7	-	-0.29	-0.18	-0.06	-	-0.53
部長、教授クラス	13	469	362	126	33	17	4	1,011	1.6	0.9	1.9	3.0	2.1	1.8	1.7	1.6	-	-0.28	-0.17	-0.08	-	-0.53
主任研究員、准教授クラス	24	317	199	92	40	18	6	672	1.8	0.9	2.0	3.3	2.3	2.1	1.9	1.8	-	-0.20	-0.12	-0.14	-	-0.46
研究員、助教クラス	9	117	75	37	12	8	3	252	1.8	0.9	1.9	3.3	2.4	2.2	1.9	1.8	-	-0.23	-0.29	-0.03	-	-0.55
その他	8	18	28	11	2	2	0	61	2.1	1.2	2.5	4.0	3.0	2.3	2.2	2.1	-	-0.62	-0.17	-0.07	-	-0.86
任用あり	18	318	250	97	38	11	2	716	1.7	1.0	2.0	3.2	2.3	2.1	1.8	1.7	-	-0.31	-0.26	-0.14	-	-0.57
任用なし	48	779	553	221	64	43	14	1,674	1.7	0.9	1.9	3.1	2.2	1.9	1.8	1.7	-	-0.17	-0.14	-0.07	-	-0.52
業務内容別	0	59	49	12	3	0	0	123	1.3	0.9	1.7	2.8	1.7	1.6	1.4	1.3	-	-0.16	-0.22	-0.03	-	-0.40
学長・機関長等	2	67	59	25	1	1	0	153	1.5	1.1	2.1	3.1	2.0	1.8	1.7	1.5	-	-0.19	-0.14	-0.15	-	-0.48
マネジメント実務	35	713	421	179	65	29	10	1,417	1.6	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	1.6	-	-0.27	-0.19	-0.08	-	-0.54
現場研究者	1	75	51	16	4	5	1	152	1.6	0.9	1.9	3.1	2.1	1.9	1.7	1.6	-	-0.18	-0.19	-0.16	-	-0.54
大規模Pの研究責任者	16	590	314	123	39	17	6	1,089	1.4	0.8	1.6	2.9	2.0	1.7	1.5	1.4	-	-0.26	-0.18	-0.12	-	-0.56
国立大学等	5	34	36	14	2	3	0	89	1.8	1.1	2.2	3.3	2.2	2.1	2.0	1.8	-	-0.11	-0.13	-0.11	-	-0.36
私立大学	10	162	134	52	15	7	1	371	1.7	1.0	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	1.7	-	-0.24	-0.18	-0.08	-	-0.50
大学グループ	2	134	68	25	10	7	1	245	1.5	0.8	1.6	2.9	2.2	1.9	1.5	1.5	-	-0.35	-0.34	-0.04	-	-0.73
第1グループ	5	182	103	41	12	6	1	345	1.4	0.9	1.7	3.0	1.9	1.7	1.6	1.4	-	-0.18	-0.15	-0.13	-	-0.46
第2グループ	11	196	110	47	14	7	3	377	1.5	0.8	1.7	3.1	2.0	1.8	1.6	1.5	-	-0.25	-0.11	-0.11	-	-0.47
第3グループ	13	245	181	70	18	7	2	523	1.6	1.0	1.9	3.0	2.0	1.8	1.7	1.6	-	-0.20	-0.16	-0.10	-	-0.46
第4グループ	3	113	56	19	5	7	1	201	1.4	0.7	1.5	3.0	2.0	1.8	1.6	1.4	-	-0.24	-0.20	-0.16	-	-0.60
大学部局分野	12	213	109	61	14	10	5	412	1.6	0.9	1.8	3.1	2.1	1.9	1.7	1.6	-	-0.28	-0.16	-0.05	-	-0.49
工学	5	95	47	17	13	1	1	174	1.5	0.8	1.6	2.9	1.8	1.6	1.5	1.5	-	-0.27	-0.01	-0.07	-	-0.35
農学	8	179	134	48	14	6	0	381	1.6	0.9	1.9	3.1	2.1	1.9	1.6	1.6	-	-0.20	-0.27	-0.09	-	-0.56
保健	15	148	179	73	23	18	3	444	2.2	1.2	2.4	3.6	2.7	2.3	2.2	2.2	-	-0.35	-0.11	-0.07	-	-0.53
産学官連携活動あり(過去3年間)	13	35	44	13	6	1	2	101	2.0	1.2	2.3	3.3	2.6	2.5	2.1	2.0	-	-0.10	-0.34	-0.11	-	-0.55
なし	3	48	97	38	10	7	1	201	2.3	1.4	2.4	3.5	2.7	2.6	2.2	2.3	-	-0.08	-0.40	0.14	-	-0.35
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	23	60	73	29	12	6	3	183	2.3	1.5	2.5	3.9	2.9	2.4	2.5	2.3	-	-0.48	0.12	-0.30	-	-0.65
なし・分からない	66	1,097	803	318	102	54	16	2,390	1.7	0.9	2.0	3.1	2.2	2.0	1.8	1.7	-	-0.26	-0.18	-0.09	-	-0.53
全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q209. (意見の変更理由)科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

2018	2019	差		
1	2	4	2	数年前までは、自分自身が政府の戦略がどうなのかを知るすべがなかったが(あるいは知識が不足していた)、戦略目標などを知る機会が増え、考えが変わった。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	3	2	予算の配分が拙い(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	予算額はそれなりにあると感じるに至った。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	やや改善されてきたと思われるが研究の技術補助などの技術員の雇用の予算などまだ十分とは言えない印象を受ける(大学,社長・学長等クラス,男性)
5	1	2	1	不十分であると同時に,適正な配分のための方策が行き詰まっている.研究費申請に対するpeer reviewの制度にも問題がある.(大学,部長・教授等クラス,男性)
6	1	2	1	改善されつつあると思います(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	3	1	国力相応.(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1	十分ではないけれども,国の財政健全化の状況からみて仕方がないかと思う.(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
9	2	3	1	全予算額は十分だと思えるが,配分が一部の大学に偏りすぎている.(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	年々増加しており,科学技術に対する予算は見直されている感じる.政府予算のみならず,企業からの投資額も増加するように科学技術に対する投資の啓もう活動が重要だと感じる.(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
11	1	2	1	十分ではないが,今の国家予算の状況から考えると仕方ないと思う.(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
12	1	2	1	基盤経費(連交金)は減っているが,外部資金は増えているので.(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	科学技術予算は増額傾向にあるが,GDP費に占める割合からはさらに増額しても良い.(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
14	3	4	1	科研費の増額,各事業での若手枠追加,ムーンショットなど既存のものに更に予算が増えており,日本のGDP規模からみればかなりいい方だと感じる.(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
15	1	2	1	GDP比1%を目標にしてほしい.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	2	3	1	財政を考慮するとリサーチ部分で4%は一つの目安かもしれない.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	2	3	1	絶対額ではなく配分の問題と思えるようになったので(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	2	3	1	費用も少ないが,使う方も無駄使いが多いように思える.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
19	2	3	1	徐々に増えているが,適正配分がなされていないように見える(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
20	1	2	1	米国に比較して,国の科学技術予算は少ないと思うが,統合イノベーション会議などを通じて,重点戦略,省庁間で重複研究が少なくなっており,1テーマに大きな予算がつくようになっていいるとは思ふ.(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
21	1	1	0	日本の将来を左右する科学技術予算としては不十分です.企業の基礎研究力が低下している今こそ,科学技術予算を増やすべきである.オリジナリティーのある基礎学問を支援する運営費交付金を増やすべきである.競争的資金と運営費交付金のバランスが大切である.(大学,社長・学長等クラス,男性)
22	2	2	0	若干の増加傾向がみられるものの,科学技術立国を標榜する我国としては国家予算に占める割合は諸外国と比較して充分でない.(大学,社長・学長等クラス,男性)
23	2	2	0	学術的な投資という意味では劣っている.目先の目立つ研究テーマにのみ重点的に資金配分する事は将来への適応という観点から見て失敗である.(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	1	1	0	政権が次世代に残すべきは,道路や橋ではなく教育です.将来の日本のことが大変心配です.(大学,部長・教授等クラス,男性)
25	1	1	0	予算額で見るとはなくどのような使用仕様になっているのか,精査すべきである.まずCSTI委員が産業界に偏りすぎており,基礎研究に対する価値観がない.(大学,部長・教授等クラス,男性)
26	1	1	0	OECD各国の中で最も低い.(大学,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	前回よりも,状態は悪化していると考えている.さらに予算配分の不公平感は増していると感じている.(大学,部長・教授等クラス,男性)
28	2	2	0	・基礎研究の予算配分が少ない.・ある意味十分であるが,省庁によって差があるのが問題です.具体的には内閣府はバブっているのに文科省は貧乏です.・科学技術における国際競争力を維持する上で強化すべきと考える.これまででは,産業界は自社内の研究所等を通して研究開発に投資し,産業界と大学・公的研究機関は研究内容を棲み分けてきた経緯があり,そのことが(国の)科学技術予算のGDP比率の低さに表れている.現在,大学・研究機関に産応用を担う研究をより強化することが求められているのだとしたら,その分の予算は別に増やさなくてはならないだろう.(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
29	1	1	0	大型予算は充実して来たが,0から始める研究の経常研究費が窮乏.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	大学のランキングにしろ,世界で競争するには,それだけの予算が必要.設備も予算も先進国からおいていわれている.(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	1	1	0	もう科学立国日本なんて言うのをやめればよい(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
32	1	1	0	他の先進国と比較すればこの問題は明らかであると思います.(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
33	5	5	0	配分の仕方に問題あり.有効に配分するシステムを検討すべき.(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
34	1	1	0	他の国からも指摘されているように,次なる目標をもって,科学技術を伸ばしてゆかないと,人材育成に支障が生じ,次なる生産基盤技術が生まれてこない.政府予算を増やすべきである.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
35	1	1	0	諸外国と比較し,極めて不十分.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

36	1	1	0	科学技術立国を目指すと言いながら、予算はきわめて貧弱.最低限,GDP比1%は必要.(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	1	1	0	日本の強みは何であるか、研究費を削減しているような状況では、今後はノーベル賞をとるような研究者は現れないのではないのでしょうか.(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
38	1	1	0	科学技術予算が、競争的資金になりすぎている.基盤的資金の不足が問題.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
39	1	1	0	他のOECD諸国に比べて、とても少ないと感じる.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
40	2	2	0	一部の大学に偏っている(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
41	2	2	0	博士院生への経済的支援制度は大いに不足.博士院生に給与を支払う制度が必要.(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
42	1	1	0	教員や事務員の人数が急激に減少している.研究をサポートする事務員さんなどの配置,研究を円滑に進めるための費用の配分,研究時間を確保するための教育業務の負担軽減のための教員増加させるための人件費用など必要.(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
43	1	1	0	バランスが悪い.一部の研究者に偏りすぎている.(大学,第3G,保健,社長・学長等クラス,男性)
44	2	2	0	ある特定の研究課題に集中しすぎているように思います.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
45	1	1	0	十分でないが、もはや増やせないのではないか.IPSに予算行きすぎでは.(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	1	1	0	改善されているとは思えない.(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
47	1	1	0	一部の研究機関に集中している.(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
48	1	1	0	本当は1よりも下げたいくらいです.(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
49	1	1	0	自然資源を持たない日本にとって、金額は不十分である.(大学,第4G,その他,男性)
50	1	1	0	全く不足.これでよいと考える政府は科学技術がどういものか全くわかっていない.25年後に成果が評価されるノーベル賞候補者は皆無になる.それは基盤研究がないがしろにされ,競争を強いられ,自由が奪われるからである(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
51	1	1	0	不十分なのは間違いないが、しかし財政状況を考えれば増やすことは不可能では?(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
52	1	1	0	危機的な状況.論文数,top10%論文でイタリアにも負けている.(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
53	1	1	0	IPS関係に偏り過ぎている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
54	1	1	0	相変わらず研究現場にお金が下りてこない.研究支援部門の人件費や経常費,ICT環境整備や引っ越し,ハコ物に使われており,4.2兆円の何パーセントを研究者が使っているのかを明らかにするべきである.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	1	1	0	全体として増えてきているのだろうが、特定の分野・応用への偏重の流れはある.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	1	1	0	政府の予算に含まれる内訳が不透明になっており,経時的な変化に関する議論が難しくなっている.(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
57	1	1	0	金額の大小の問題では無く,配分方法や国策(AMEDやNEDO)の仕組みに無理があります.(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
58	2	2	0	資源のない国で人口減少が顕在化しているのだから,無から有を生じるためには,勉強・研究をするしかない.カウントできる目先の研究成果がないとダメだという方向性は,これだけ多くの有力人が発言しているのに,変化が感じられない.アジアの中での相対的な位置づけは確実に下がっている.(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
59	1	1	0	資源が無い国,国としてのブランドや付加価値を十分に持っていない国としては,知にもっと投資するしかないのではないかと最近考えています.(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	2	2	0	日本経済の現状から仕方ないと思うが,将来,米国や中国と競争していくつもりであるならば,全く不十分である.ただし,お金のみの問題ではないようにも思われる.(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
61	2	2	0	科学技術の教育に関する予算は,競争資金とすべきでは無い.(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
62	1	1	0	科学技術を科学と技術に分けて,その配分額や配分方法をそれに合わせて実施するべきです.(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
63	1	1	0	GDP比率の低さは異常ではないか.OECD各国と比較して.(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
64	6	6	0	予算は十分である.だが,使い方に無駄が多い.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
65	1	1	0	少ない(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
66	1	1	0	米欧中の研究者との話の中で,予算を含む日本の研究環境は劣悪と言わざるを得ない状況と感じる.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
67	4	4	0	むしろ,予算の配分に問題がある.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	1	1	0	予算に上限があるので,重点化していく方向は仕方ないかもしれないが,重点化以外の研究にも研究費の最低保障はするべき.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	2	2	0	金額全体よりも配分の偏りが問題(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
70	1	1	0	総額も上げる必要があるし,選択と集中はやめるべき(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
71	3	3	0	予算の多寡ではなく,配分方法や評価方法の工夫が必要.AMEDはその点,存在意義を疑う(評価方法があまりにも稚拙)(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
72	2	2	0	戦う相手,領域の明確化が出来ているのか?が疑問な部分もある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
73	1	1	0	先進国で下位にあり,改善が急務(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
74	2	2	0	天然資源に乏しいわが国は知的資源にもっと力を入れるべきだと思います.(民間企業等,その他,男性)

75	1	1	0	人材の流出が止まらない現状を考えれば明らか。(民間企業等,その他,男性)
76	2	2	0	わが国が世界に生き残る生命線でありながら,予算投入が不足.特に人材育成。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
77	3	2	-1	昔のように予算を分散した配布なら十分であるが,現在のように集中させると,国立研究大学や機関しか研究が行えない(大学,部長・教授等クラス,男性)
78	2	1	-1	米中など諸外国に比べ額,比率共に少なすぎる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
79	2	1	-1	不足していることを共通認識すべき(大学,部長・教授等クラス,男性)
80	3	2	-1	ゆがんだ選択と集中は悪化しているのではないか(大学,部長・教授等クラス,女性)
81	5	4	-1	大型研究費で一部研究者に集中しすぎている。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
82	2	1	-1	分野間の不均衡が著しい.科学技術行政の方針決定のプロセスが民主的でない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
83	2	1	-1	特に,安定的に教員を雇用するための予算が定員削減の為に圧倒的に不足している。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
84	3	2	-1	少子高齢化が進み先細りとなる将来を考えたとき,現状では科学技術の振興をより強く支援する必要があると思う。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
85	3	2	-1	十分か,不十分かという結論を出す事は目標にもよるので一概には難しいが,現状維持にはやや足りないのが研究者で共有される認識であろう(人件費が足りていないから).急速に拡大する予算を背景に伸長する中国の大学群に抗してゆくべくもない事は,我々は皆日々感じている(優秀な研究者が日本からヘッドハントされる事例も既に珍しくはなくなった).そういう意味では,このまま縮退を是認するのか,それとももう少し維持を目論むのかは予算総額の増加にかかっており,予算分配方法の問題ではないと考えている。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
86	3	2	-1	予算不足のため,世界に先駆けている研究成果が得られていないと感じる。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
87	3	2	-1	子供の数が減っているとは言えど,基礎から初等教育に割く予算を上げなければ科学技術にも貢献しないことを理解すべきである。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	3	2	-1	諸外国に比べて十分とは言えない(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
89	2	1	-1	はなしにならない(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
90	2	1	-1	総額はわかりませんが配分の仕方に問題があると思います。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
91	2	1	-1	集中化によっても業績が上がらないのに,いつまでこれを継続するのか,愚かに思える。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
92	2	1	-1	国だけではなく,民間の資金が基礎研究に回るような政策が必要.日本は立ち遅れる一方である。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
93	2	1	-1	勤勉な国民性を活かせる分野であると思うので,もっと投資してよいと思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
94	3	2	-1	不十分さが様々指摘されている割には一向に改善に向かわないと感じます(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
95	2	1	-1	毎年の予算削減により,基本的な活動が困難になりつつある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
96	4	3	-1	予算配分に偏重があるのではないか(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
97	2	1	-1	不十分な上に,専門外の内閣府の査定でいびつな予算配分がなされている.研究費が多すぎて使い方に困る研究者もあれば,足りずに研究を十分に遂行できない研究者も多い。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
98	2	1	-1	防衛費用と同等5.3兆円.科学技術はわが国の防衛費という概念に通じる.但し,使い方に関してはさらに検討が必要。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
99	2	1	-1	どんどん悪化していると感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
100	4	3	-1	ある程度十分であると思うが,世界的な水準としては,地盤沈下が否めない.社会保障費(医療費)が国の財政を圧迫しているが,より増やしていく必要があると考える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
101	4	3	-1	諸外国に比べると見劣りする(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
102	3	2	-1	我が国の強みを活かすためには十分とは言えないのでは(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
103	3	2	-1	社会実装に近い部分を充実させるべきだと思います。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
104	4	3	-1	競合する諸外国の政府予算が増えているため(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
105	3	1	-2	政府予算というよりは配分の仕方が偏っていて,一般の研究者が研究者で無くなってしまっている現状が問題のように思いません。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
106	4	2	-2	昨今の世界的動向と比べて。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
107	4	2	-2	他国と比べると少ない(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
108	5	2	-3	短期間の予算ではなく,常勤職のポジションを増やさないと,研究職を目指す人材が増えない(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
109	5	1	-4	予算については拡充されているが,その配分方法が偏っていて,有効な活用がされていない.また,評価についても十分な検討がされていないと思う。(大学,その他,男性)
110	5	1	-4	競争的資金へのシフトが著しくなっており,獲得競争にも乗れない状況で,日々の研究費となる運営費も減少している。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
111	6	1	-5	人件費(交付金)が不十分(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

Q210. 政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。

回答者グループ	2019年度調査											各年の指数					指数の変化						
	分からない	6点尺度回答者数(人)						指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	168	362	432	429	241	162	89	1,715	3.6	1.9	3.6	5.6	4.0	3.8	3.7	3.6	-	-0.23	-0.10	-0.04	-	-0.37	
大学等	140	323	371	346	197	130	73	1,440	3.5	1.9	3.5	5.4	3.9	3.7	3.6	3.5	-	-0.20	-0.14	-0.04	-	-0.38	
公的研究機関	28	39	61	83	44	32	16	275	4.1	2.4	4.2	6.1	4.4	4.1	4.2	4.1	-	-0.36	0.13	-0.07	-	-0.29	
イノベーション俯瞰グループ	91	81	163	116	63	44	15	482	3.5	2.2	3.3	5.1	3.8	3.6	3.5	3.5	-	-0.15	-0.10	-0.04	-	-0.29	
大企業	39	14	51	42	11	11	3	132	3.4	2.3	3.2	4.6	3.5	3.4	3.4	3.4	-	-0.11	-0.01	0.06	-	-0.05	
中小企業・大学発ベンチャー	28	19	37	18	16	7	4	101	3.3	2.0	3.2	5.0	3.3	3.4	3.4	3.3	-	0.11	-0.04	-0.03	-	0.05	
中小企業	22	8	18	10	6	5	1	48	3.4	2.1	3.2	4.9	3.2	3.5	3.4	3.4	-	0.24	-0.04	-0.05	-	0.15	
大学発ベンチャー	6	11	19	8	10	2	3	53	3.3	1.9	3.2	5.2	3.4	3.4	3.3	3.3	-	0.02	-0.05	-0.01	-	-0.04	
橋渡し等	24	48	75	56	36	26	8	249	3.5	2.2	3.4	5.5	4.1	3.8	3.6	3.5	-	-0.30	-0.19	-0.11	-	-0.60	
男性	220	394	543	491	275	192	91	1,986	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	3.6	-	-0.20	-0.09	-0.03	-	-0.31	
女性	39	49	52	54	29	14	13	211	3.5	2.0	3.6	5.4	4.2	3.9	3.6	3.5	-	-0.36	-0.22	-0.16	-	-0.74	
社長・役員、学長等クラス	44	65	135	98	39	19	6	362	3.1	2.0	3.1	4.5	3.2	3.1	3.0	3.1	-	-0.11	-0.11	0.04	-	-0.18	
部長、教授クラス	73	188	270	251	124	78	40	951	3.5	2.1	3.4	5.3	3.9	3.6	3.6	3.5	-	-0.26	-0.05	-0.08	-	-0.39	
主任研究員、准教授クラス	89	135	128	132	100	74	38	607	3.9	2.0	3.9	6.0	4.3	4.2	3.9	3.9	-	-0.13	-0.26	-0.04	-	-0.43	
研究員、助教クラス	43	43	47	46	32	31	19	218	4.2	1.9	3.9	6.4	4.3	3.9	4.0	4.2	-	-0.33	0.12	0.12	-	-0.09	
その他	10	12	15	18	9	4	1	59	3.4	1.9	3.6	5.3	3.6	3.7	3.7	3.4	-	0.13	-0.01	-0.32	-	-0.20	
雇用形態	80	121	194	165	91	58	25	654	3.5	2.1	3.5	5.4	3.9	3.8	3.6	3.5	-	-0.13	-0.14	-0.11	-	-0.38	
任期あり	179	322	401	380	213	148	79	1,543	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	3.6	-	-0.25	-0.08	-0.01	-	-0.34	
業務内容別	1	22	45	39	12	4	0	122	2.9	2.0	3.1	4.3	3.1	2.9	2.9	2.9	-	-0.16	-0.03	-0.02	-	-0.21	
学長・機関長等	4	25	55	49	12	9	1	151	3.0	2.0	3.2	4.5	3.2	3.1	3.1	3.0	-	-0.08	-0.02	-0.02	-	-0.12	
マネジメント実務	156	279	292	305	197	140	83	1,296	3.8	1.9	3.8	5.9	4.2	4.0	3.8	3.8	-	-0.23	-0.14	-0.02	-	-0.39	
現場研究者	7	36	40	36	20	9	5	146	3.2	2.0	3.5	5.2	3.8	3.4	3.5	3.2	-	-0.41	0.10	-0.28	-	-0.59	
大規模Pの研究責任者	93	236	254	231	143	97	51	1,012	3.5	1.8	3.4	5.5	3.9	3.7	3.5	3.5	-	-0.21	-0.11	-0.01	-	-0.33	
国立大学等	8	13	23	24	11	11	4	86	3.9	2.4	4.0	5.7	4.4	4.2	4.0	3.9	-	-0.20	-0.27	-0.05	-	-0.51	
私立大学	39	74	94	91	43	22	18	342	3.4	2.0	3.5	5.1	3.9	3.7	3.5	3.4	-	-0.18	-0.22	-0.11	-	-0.51	
大学グループ	15	59	52	44	35	25	17	232	3.7	1.5	3.3	5.8	4.1	3.8	3.6	3.7	-	-0.31	-0.25	0.12	-	-0.43	
第1グループ	37	82	86	63	39	31	12	313	3.3	1.7	3.2	5.2	3.7	3.5	3.3	3.3	-	-0.15	-0.20	-0.06	-	-0.41	
第2グループ	39	77	83	91	50	28	20	349	3.6	1.9	3.6	5.5	3.9	3.7	3.6	3.6	-	-0.19	-0.14	0.00	-	-0.33	
第3グループ	43	99	140	128	65	39	22	493	3.5	2.0	3.5	5.3	3.8	3.7	3.6	3.5	-	-0.19	-0.06	-0.12	-	-0.37	
第4グループ	23	39	49	36	32	12	8	181	3.6	1.9	3.7	6.0	3.9	3.8	3.8	3.6	-	-0.16	0.05	-0.24	-	-0.35	
理学	50	94	81	80	59	35	25	374	3.7	1.8	3.5	5.7	4.1	3.8	3.7	3.7	-	-0.30	-0.13	-0.01	-	-0.43	
工学	22	33	34	42	20	17	11	157	3.8	1.9	3.7	5.8	4.2	3.9	3.8	3.8	-	-0.21	-0.17	0.05	-	-0.33	
農学	32	80	84	83	46	39	25	357	3.7	1.8	3.5	5.7	4.1	4.0	3.7	3.7	-	-0.09	-0.37	0.09	-	-0.37	
保健	61	63	128	96	58	39	14	398	3.6	2.2	3.4	5.3	3.8	3.7	3.6	3.6	-	-0.15	-0.03	-0.02	-	-0.21	
産学官連携活動あり(過去3年間)	30	18	35	20	5	5	1	84	2.7	1.9	2.8	4.2	3.3	3.2	2.7	2.7	-	-0.12	-0.49	0.00	-	-0.60	
なし	34	16	61	46	26	15	6	170	3.8	2.2	3.3	4.9	3.6	3.6	3.5	3.8	-	-0.05	-0.08	0.26	-	0.13	
大学・公的研究機関等の知財活用(企業等)	50	37	58	35	11	12	3	156	2.9	2.0	3.0	4.7	3.3	3.2	3.1	2.9	-	-0.15	-0.04	-0.25	-	-0.45	
なし・分からない	259	443	595	545	304	206	104	2,197	3.6	2.0	3.5	5.5	3.9	3.7	3.6	3.6	-	-0.21	-0.10	-0.04	-	-0.35	
全回答者(属性無回答を含む)																							

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したも。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q210. (意見の変更理由)政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。

	2018	2019	差	
1	3	6	3	間接経費は十分すぎるくらいで、大幅に不足している直接経費に少しでも多く充填すべき。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	3	6	3	間接経費が従来の運営費交付金の補填にはならないことが問題。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
3	2	4	2	大型予算を獲得できれば、間接経費は十分であると思います。そのためには、良い研究成果をあげれるように努力すれば良い事なので現状で問題ないように考えが変わった。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	4	6	2	間接経費の扱いは所属機関によりまちまちである。用途を限定せずに使える経費として研究に還元される割合は小さく、所属機関長の方針に従わざるを得ない。間接経費の存在にメリットを感じていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	2	4	2	間接経費も使い方に問題があるように思える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
6	3	5	2	公的機関の間接経費率は多すぎるくらい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
7	3	5	2	間接費用比率(15%等)を明示して、予算化するようになっている(民間企業等,その他,男性)
8	2	3	1	やや改善されてきたと思われる(大学,社長・学長等クラス,男性)
9	2	3	1	改善傾向を感じた(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	以前よりは確保されていると感じる。(大学,その他,男性)
11	1	2	1	間接経費が付いている研究費が少しずつ増えている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
12	2	3	1	基本的に30%程度となってきた。(大学,第2G,工学,社長・学長等クラス,男性)
13	1	2	1	間接経費を確保する努力がなされている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
14	2	3	1	間接経費30%は額としては十分だろうが、それが活用されているかは疑問。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	2	3	1	事務負担が増加しているため、減額は厳しい。十分だとは感じる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
16	5	6	1	これは、良くなっている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
17	1	2	1	大学事務局としては間接経費が足りないと同っています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	3	4	1	確保されている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
19	4	5	1	間接経費を何に使うか、現在使っているものへの使い方が妥当かというとき、現状とあるべき姿とは異なっていると思う。しかし、各機関に課している自立化や経営という面からすれば、かなり確保されている方だと判断できる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
20	3	4	1	間接経費の考え方、間接要員の雇用確保に使われていないか。コンプライアンスとして事務方要員が多くなり、また民間に比べて保守性が高く、能力も低い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	2	3	1	絶対額ではなく配分の問題と考えるようになったので(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
22	3	3	0	一部の競争的資金は間接経費がついていないため、経費の持ち出しとなっている場合がある。(大学,社長・学長等クラス,男性)
23	1	1	0	資金受給者が研究に専念できる環境を十分に整備できないので、雑用が増えてしまう。人件費に使うことができるよう、規制を緩めるべき。(大学,部長・教授等クラス,男性)
24	2	2	0	一定の額が確保されているが、その用途が大学運営予算の継続的な現象を補填する目的に使用されており、本来の機能を発揮していない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
25	1	1	0	間接経費については、30%となっているものの、研究活動を支える資金として十分に還元されていないと感じられる。特に研究を downstream する技術職員や各種事務支援の職員数は減っており、これらの雇用を可能にする間接経費の増額が不可欠と考えている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
26	3	3	0	・欧州や米国に比較して投資額はまだまだ低いと感じる・間接経費の額は妥当と思われる。むしろ、組織の運営に係る基礎的な経費がきちんと計上されていないことが問題と考える。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
27	1	1	0	大学によりますが、〇〇大学は間接経費を全て召し上げられて、研究者には全くメリットがない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
28	6	6	0	間接経費はその研究の間接的サポートには十分には使われていない。間接経費の一定割合を研究代表者に配分する決まりが必要と思われる。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	2	2	0	間接経費20%は妥当である。割合はもっと高くても良いと思いますが、大学側にビジョンが必要で、この間接経費をどのように使ったのかを情報開示すべきである。予算を獲得してきた研究者に対するリスペクトが不足している。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	文科省以外の省庁も間接経費は30%を確保すべきだと思う。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
31	2	2	0	大学としてはもう少し確保したい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
32	6	6	0	科研費など申請書類は、間接経費を除いた額で申請されているのに、受諾したときには、総額は少なくなり、しかも、間接経費がとられるのは、申請書類上、おかしい。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	4	4	0	間接経費は大学にはほぼ取られる現状があるので、むしろ充足率をあげてほしい。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
34	1	1	0	間接経費は事務用の費用とされ、研究の間接経費として利用への制限が多く使いづらい。研究者が利用できるようにして欲しい(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
35	6	6	0	間接経費の用途が不明(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

36	2	2	0	間接経費のインセンティブが感じられないことが多い。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
37	2	2	0	他の省庁もMEXTなみの間接費をつけてくれれば,支援人材の確保もしやすくなると考えている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
38	1	1	0	一部の研究機関に集中している。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
39	1	1	0	なぜかなりの数のプロジェクト型事業について「間接経費徴収対象外」というものが存在するのか理解できない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
40	1	1	0	欧米と比較するなら,額を一桁上げないと不公平。日本の研究費は全く少ない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
41	1	1	0	まだ,10%しか間接費が配分されていない資金があるが,すべて,30%以上にすべき。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	相変わらず研究現場にお金が下りてこない。研究支援部門の人件費や経常費,ICT環境整備や引っ越し,ハコ物に使われており,4.2兆円の何パーセントを研究者が使っているのかを明らかにするべきである。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	4	4	0	(意見は不変)事実上,その分直接経費が減ってしまうのを何とかして欲しいとは思う。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
44	2	2	0	間接経費が組織の赤字の穴埋めに使われており,研究環境の整備に回されていない現状がある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
45	1	1	0	もともとの予算が削減されている影響で,間接経費はほとんど機関に摂取されて運営費の一部に転換されている。そのため,本来の使い方である競争的資金のそのものの運営のための予算が確保できないことが多い。間接経費の一定割合は獲得研究者の所属研究室に支給するような枠組みにしないと,例えば事務を担う秘書を雇うこともできず,結局,それによって研究者が自分で様々な雑用をこなさないといけなくなり,研究のための時間が確保できずアクティビティが著しく低下する。これは,財務省,文科省,そして,所属機関の運営者三者の合同責任だと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
46	6	6	0	ただ有効に活用されているかは不明(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	1	1	0	間接経費の割合が明確ではなく,3割であったり1割であったりする。企業に対しては全く認められないケースもあり,担当者もしくは担当部門の一存で決まるようなシステムを是正する必要がある(例:ImPACT)。(公的研究機関,その他,女性)
48	6	6	0	間接経費の多寡よりも,間接経費の運用の問題を考え直す必要がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
49	6	6	0	研究資金の中に占める間接経費が多すぎる場合がある,民間企業の間接経費と乖離がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
50	1	1	0	研究環境や維持体制が整っているトップ大学と地方などの小規模な大学とで差をつけることで,トップ大学への集中を防ぐ。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
51	2	2	0	国立大学での調査結果で判断(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
52	1	1	0	情報収集(世界レベル)やグローバル環境の変化を素早く把握するための間接経費の自由度があればよい(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
53	1	1	0	補助率が落ちていく傾向にあり,更には間接経費も無いものが増えているように感じる(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	2	1	-1	間接経費が少ない研究費も多くある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
55	3	2	-1	光熱費や施設・設備の維持整備費は機関にとって大きな負担となっている。施設・設備の維持を考えた間接経費の算定が必要だと思う。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
56	2	1	-1	研究者が使えない現状にある。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
57	2	1	-1	各公募において,大学と研究者が使用する間接経費の割合を明確にし,研究遂行のために必要な間接経費が確保されるようにすべきだと思います。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	4	3	-1	十分とは言い難いと感じるようになった。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
59	2	1	-1	企業が踏み込むことにはためらいがある純粋な基礎研究の分野にこそ政府が資金を投じるべきであり,ならばこそ維持するための周辺環境を維持するための間接経費の確保はもう少し真剣に議論すべき課題であると思う(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
60	5	4	-1	以前は,間接費30%が確保されていたが,近年は減額されているものが多いように感じます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
61	5	3	-2	獲得できる資金の総額が減少してきており,その結果として間接経費額も大学運営を考えると不足感を感じる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
62	3	1	-2	間接経費が本来の目的に使われていない(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
63	5	3	-2	30%あれば金額的には十分であるが,問題点は,研究者が使える状況になっていない点である。組織の経費として消費される,ここを改善しないと,間接経費の意味がない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
64	5	3	-2	評価の見方を変えた。間接経費が多過ぎて,真水の研究費が少ない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
65	6	3	-3	本来は間接経費というものが直接経費に対する必要経費として考えられるべきだが,従来の科学研究費の間接経費(一律30%)が一般的な間接経費として捉えられているが,近年研究にかかわる人材についてはURAやマネージメント,広報担当と以前とは異なり間接経費が十分に確保されているとはいえない。(大学,その他,男性)
66	6	2	-4	データベースに関する資金をいただいているが,それらは間接経費がない。間接経費がつかない資金について,学内で校費から事務経費をとりあげる仕組みがあつて困る。データベースなど地道なことを行う研究にこそ,間接経費をつけるべきである。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)

Q211. 研究環境及び研究資金等の状況について、ご意見をご自由にお書きください。

- 1 優れた外部研究者を招聘する研究環境としては、不十分な環境であると思う。民間から大学への大型予算増加ばかりを強調すると、オリジナリティーのある基礎研究のレベルや多様性が低下する。日本の基礎分野の学理レベルの低下に直結する事態である。クリエイティブな研究開発は国力の源であり公的資金投入の意味は大きい。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 2 研究環境の整備や研究資金の獲得に過度な競争化がみられるように思う。環境整備, 特に研究に資する共用設備の整備や研究のための一定の基盤経費配分は必要だと思う。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 3 運営交付金の削減による地方の大学における研究機器の老朽化と最新機器更新ができない状況である。毎年値上げがある設備光熱費の支払いも厳しい状況にある。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 4 国にお金がないのは理解できるが、だからと言って外部資金に大きく舵をとることにに関して、完全に大学任せなのが気になる(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 5 科学技術の予算は依然として十分ではないが、特に学のセクターの予算は不十分で、研究環境の悪化を招いているのではないかと感じる。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 6 科学技術予算は若干の増加傾向がみられるものの、科学技術立国を標榜する我国としては国家予算に占める割合は諸外国と比較して充分でなく、国の将来が危惧される。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 7 多忙な教員の研究活動を促進する上で、技術員などを雇用できる予算の確保や、共同利用の大型機器の体制作りなど、まだまだ必要と感じる。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 8 研究予算は増加しているが、競争的資金が多く、特に実用化直前のかかなり完成されたプロジェクト研究に重点的に予算配分されていると感ずる。一件当たりの予算は少額でも、若手研究者や基礎研究への配分を増やす必要がある。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 9 個人の基礎研究費(助教で70万円程度)を大学で確保したいと努力している。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 10 科研費取得率(取得額)の上昇のため、本大学では、URAを3名雇用し、昨年は、URAが関与した申請書の採択率は、URAが関与しなかった申請書の採択率を明らかに上回った。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 11 直接経費・間接経費のいずれによって研究環境・研究体制・研究時間創出の整備を行うか、学校の法人側への指導・ガイドラインの提示が十分ではない。使途・使い方に自由度の高いことは望ましいが、逆に、日本の私立大学の法人は先例主義が強く、新しい取り組み方に対して抑圧的になる場合がある。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 12 大型機器共用への取り組みがMEXTを中心に進められているが、まだまだ不十分ではないかと考える。私学のポテンシャルアップにむけ重要と考えている。科研費に関しては若手予算が増強された点は評価できる。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 13 海外に比べて研究資金が格段に少ないのは周知の事実だと思います。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 14 非常に厳しい状況だと思います。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 15 研究環境及び研究資金等の状況については、国立大学の運営費交付金などにおいて厳しい状況が続いている。また、とくに環境整備においては、各大学に他機関からの使用料を求めたり計画的な機種更新の経費を準備するよう通達があるが、基盤的研究経費の確保とともに厳しい状況や、科研費等の研究経費による環境整備はむずかしいことから、国の大きな支援が不可欠な状況にある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 16 多様な研究テーマへの取り組みが阻害されており、将来的な革新に繋がる芽が育たないことを危惧する。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 17 競争的という名のもとに大学研究者・教員の作文に割かれる時間が増大しています。運用として本末転倒な施策となっているように感じます。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 18 地域の大学では研究環境を整える資金が獲得できていないために研究環境は年々悪化しており、さらに研究資金も継続してきわめて厳しい状態である。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 19 地方公立大学に所属しているが、研究資金はほとんど獲得できない。そのかわりとして、地域産業界との共同研究を行う選択をしている。それも地方公共団体が補助金を出す場合である。地域企業も自社で資金を出せるほど余裕がない。よって、本大学では小企業との共同研究を積極的に行っており、最近の論文で本学は小企業との共同研究割合が全国一位となった(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 20 本当に日本が世界をリードする研究を進めていかなければならない。また、進めていきたいと考えるならば、研究資金はまだまだ少ないと言わざるを得ない。特に情報技術が進化し、AIを活用した産業育成が叫ばれる中で、日本企業が世界に対して大きく後れを取っているところからも、日本国内全体の研究に対する認識が低いように感じられる。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 21 競争的研究資金をどのような研究に配分するかが重要で、産学連携を積極的に進めることで国内の産業も活性化する正のスパイラルを構築する必要がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 22 短期的な成果を求める風潮が強い(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 23 大型資金を獲得すると自ずから資金管理も含めたマネジメント人材の雇用が必要となるが、現状の間接経費(人材含め)ですべてが賄えていないと考える。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)

- 24 私立大学の環境では、研究を行うリソースが少なく、研究資金も集めにくい印象がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 25 運営費交付金などの非競争的資金を増やして、長期的な視点での研究も支援すべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 26 科学研究予算が伸び悩む中で、選択と集中が行われているが、内容の議論、事後評価が十分に行われていない。的外れの集中であれば、底辺への小型研究予算を増やすべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 27 最近のプロジェクト研究は内閣府主導で行われることが多く、必然的に産業界の旗振り役がリーダーとなっている。しかし、彼らは出口つまり投入資金に見合う利益確保を真っ先に考えるので、その時の流行を短期的に追い求め、10年20年後を見通せない。産業界は国プロを仕切るべきではないと思う。独自の資金でやって欲しい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 28 国の助成と民間助成が独立性をもちながらより有機的關係構築が必要である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 29 先進各国並みの科学技術予算を確保すべきである。この額の中で優れた成果を出しているのは、現場の研究者の努力によるものであるが、このような状況が継続できることができない限界点に近づいている。特に研究者ポストの安定的確保が重要である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 30 研究期間や1課題あたりの研究費が少ないです(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 31 科学技術関連予算の配分方法や、使い方を直した方がよい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 32 応用研究分野については比較的手厚いが、基礎研究分野では特定の研究項目を除いて、研究資金は脆弱である。科学研究政策は数年の短期的な将来だけでなく、数十年先も見据えた長期的な展望とのバランスを考慮する必要がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 33 一部に偏り過ぎている。萌芽的な研究への支援が少ない。資金をとることが目的化・成果化しており、資金が資金を呼び込む構図が常態化してきてはいないか。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 34 間接費が適切に使われていると思われぬ。また、外部から研究資金を獲得しても、学内の理不尽なルールによって研究に使えないことや使用が制限されることが多い。使用ルールはすべての国立大学で共通にして欲しい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 35 競争的資金が増えすぎ、自由に使えない状況である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 36 研究環境は悪化している。このままでは、若手は伸びず、将来世界をリードする研究はなくなるだろう。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 37 研究環境(研究設備や機器)の整備がある程度行われたため、研究はある程度進捗するようになったと感じている。一方、それらが老朽化したときに、良いタイミングで更新することが困難となっており、設備が使用不能になることで途中で研究中止に至るケースも散見される。やはり、設備や機器の更新のために、予算を繰り越せる(貯める)システムが不可欠と思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 38 科学研究費等において、近年若手を優遇しすぎていると感じます。若手、中年、老年にかかわらず、良い研究課題を推進するべきではないかと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 39 私は定年後も医学研究を続け、医学研究者と民間企業の研究者育成の為に、民間企業の支援を得て寄付講座を設立し、現役の医学部教授で医学研究に精励し、ヒトを育てる意欲のある教授を国内外で兼任、特任をお願いして進めています。そうした状況で活動している名誉・特任教授にも科研の申請は可能であると謳っていますが、定年後当たったためしが有りません。70歳まで基盤Sの審査員はしており、65歳まで8年間連続で基盤Aを頂いていましたが、支援はすべて民間企業からです。高齢化のこれから定年後意欲のある研究者や教育者を支援する国の支援システムの創設を希望します。米国では研究費が取得できている間は定年制がなく、NIHなどの国の研究施設を提供しています。もう少し世界的規模の研究支援施策を考えるべきだと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 40 研究環境は劣悪であり、研究資金も潤沢ではない。大学における研究資金がプロジェクト化して久しい。折角の研究者になろうとする人材が、プロジェクトが終了すると、分野転向を余儀なくされているケースが多い。このような仕組みを続けていると将来の日本の位置づけがますます悪くなる。独立行政法人化する前に実施されていた「校費」支援を考えるべきである。企業は、今日・明日の仕事、経産省ほかの支援は明後日の仕事のためにあり、大学の役割は明後日のための「芽出し」である。好奇心、真理探究から生まれたものが世界に例のない分野を切り開くために重要である。もちろん、全てをこのようにすべきとは思っていない。現在は、その余地がほとんどない。工学分野では、社会で使われて始めて意味があるので、流行の研究を追いかけ、プロジェクト指向があっても構わない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 41 ナショプロは段々、減額されていくような気がしますが、これでは質の良い研究はできないと思います。もっとテーマを厳選して任せるところは任せるべきです。感想として審査員のレベルが低いです。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 42 研究環境、研究資金の状況は改善しつつある。しかし、人材育成に関しては、不十分ではないか。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 43 科学技術関係経費のGDP比率1%を目標とするべきだと思います(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 44 大型研究費で集中投資で非常にいびつになっている。もっと広く薄くまくべきである。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 45 競争的資金の比率が高く、多くの研究者が競争的資金を取ることを主目的として研究をしている状況に陥っている。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 46 適度な競争があることは望ましいが、研究室に配分される研究費が不十分であり、競争的研究資金がとれない場合に研究や教育に支障が生じる。競争的研究資金はあくまで付加的な位置づけであるべきである。(大学,主任研究員・准教授クラス,女性)

- 47 大学における基盤的経費の確保が最も重要.自由な裁量で研究を進められる環境を是非再構築して頂きたい.(大学,研究員・助教クラス,男性)
- 48 間接経費が不十分のため,スタッフを募集できない.(大学,研究員・助教クラス,男性)
- 49 地方都市の大学における研究環境及び研究資金の充実が日本の研究力強化に有効(大学,その他,男性)
- 50 グローバル化が叫ばれているので,グローバルで比較すると先進国のなかで十分な研究経費がかけられているとは感じられない.研究経費を含め,大学運営経費の削減とそれを補うための研究費獲得活動に疲弊し,本来の目的である教育・研究の機能が低下していることは,論文数の減少を一つの例にとっても明らかと思われる.(大学,その他,男性)
- 51 研究環境は研究者に対する事務負担が異常に増加している,これは一部研究者の研究費不正利用から管理することを重要視したことであるが,そのことが研究者及び事務担当者への負担増大に繋がっている.また,政府機関からの補助金や研究費の提出書類についても統一化されておらず,申請書から経理計画書,使用方法,成果報告書,経理監査等々も機関によって異なることで,事務作業量を増やしている.(例:文部科学省の科学研究費とNEDO,JST研究助成金では経理基準も異なる)今後,内閣府および財務省は現場課題を理解したうえで,行政からの意識改革と組織改革が必要であると考ええる.そのことが,イノベーションを起こし,society5.0社会,そして国際的な競争力を持つ研究力を養うことができると思う.(大学,その他,男性)
- 52 日本の国際的な相対的地位が沈下している中で,科学技術予算を増やす必要があると思います.また,間接経費がまったく不足していますので,増やす必要があると思います.現状は欧米と比べても低いレベルです.(大学,その他,男性)
- 53 集中投資も必要であるが,何にもまして,自由な研究への少額で広く支援する体制に欠ける.(大学,その他,男性)
- 54 ・インフラは整いつつありますが,管理するという感覚に乏しかったかもしれません.選択と集中,という考え方の役割は終わったとみるべきでしょう.・研究資金が過度に集中しており,日本の科学研究を支えてきた裾野が薄くなっている.日本が世界と伍していくためには,研究者として一番脂がのっている50代がもっと研究に専念できる環境を作る必要があると思う.・トップダウン予算にお金を投入しすぎだと思います.・我が国のGDPに対する科学技術予算が少なすぎる.新たな発見やイノベーション創出には,重複や無駄を許容しつつ,相応の予算を投入することが必要と考える.・各省庁で国際連携の公募型競争資金の取り組みは様々あるが,連携により論文業績が増加する傾向という統計もあり,もっと強化すべきと考える.・日本籍の研究者が海外での研究活動で大きな成果を挙げることはあっても,外国籍の研究者が日本国内で研究活動をして大きな成果を挙げるという事例がほとんど見られないことは,日本国内の研究環境が海外に比べて劣っていること(その分を研究者の能力と研究に充てる時間(過重勤務)で補っていること)の傍証といえる.海外から優秀な研究者を招へいする試みを強化しつつ,研究環境そのものの向上を図っていく必要がある.(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
- 55 外部資金は使途と期間が決まっており,柔軟性がない.直接費の一部(20%程度)を柔軟に使えるようにして,次のシーズを発見(発明)しやすいようにすべき.間接費は所属機関にオーバーヘッドされ,現場の研究者に回ってこない.次の研究を展開する資金がない.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 56 情報をオープンにすることに最近疑問を感じる.例えば,科研費のデータベースでアイデアが公開されてしまい,それを模倣して似たような研究をする研究者が国内外を問わずいるように思う.例えば,科研費のデータベースは,採択課題名を含めて,公開まで少なくとも2年ほどタイムラグを設けるべきではないか?課題名だけでも最新のアイデアを他研究者に教えてあげているようなものである.日本の競争力低下につながることをわざわざやっていることになる.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 57 独創的な研究を産むためには,プロジェクト研究や重点配分だけで無く,基盤的な研究資金の配分と研究環境の整備が必要である.その意味で,運営費交付金の大幅増額が望まれる.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 58 日本の科学技術政策が,政治の人気取り,あるいは海外の受け売りにしかなくなってない.後追いの研究ばかりを支援してもその時点で後手に回っている.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 59 研究費に付随する間接経費を大学が自由に使うのはおかしいと思う.研究者が獲得した間接経費は,まず,研究者の研究のために使われるべきである.ちなみに,大学は研究者が間接経費を多く収めても全く納めなくても,研究者への評価を大きく変えるようなことはほとんどない.(年間賞与が10万円くらい増える程度である.).そういう意味で,大学は運営交付金以外に,別の形で運営予算を獲得するべきであり,そのような国の制度が不足していると考ええる.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 60 多くの分野で,世界の周回遅れの状態で意味のない投資を始めているように思う.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 61 政府の大型予算は出口志向のものしかなく,もはやほとんど期待していない.企業との共同研究の方がまだやりやすい.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 62 任期付ではあるが,寄付講座に異動したため,自身の研究環境は改善されました.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 63 箱物の建設費に億単位の予算が投じられているのに対して,研究費・施設設備費が桁違いに少ない.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 64 研究不正対策を「書類提出」や「ルールの厳格運用・厳格化」によって実現しようとしているため,実際には「守れないルール」が多発し,研究者の事務負担の増大と自由度の減退が著しい.有能な研究者が日本を去る傾向が強まっている.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 65 選択と集中施策の失敗は明らか.結果的に「必要なものまで削って可能性の芽を摘んだ」のは間違い無い.全体額を増やす方向に進めるべき.(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 66 プロジェクト型の大型予算によって特定の研究者に巨額の研究費を付ける方針では,論文数が減少するのは自明の理である.また,真理を追求するための研究が阻まれる(社会的に「受けの良い」テーマに注力され,しかも研究による結論は「社会がそう望む答え」に合致していなければならない)という深刻な弊害もある.(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 67 環境も資金も個々の研究内容と照らし合わせた必要性・必然性に応じて措置されるのが本来の姿のはずですが、獲得資金額を評価の尺度に入れた時点でそれが崩れたように思います。ベースが確保されていないため、研究の質を高めるのと全く異種の(本来無用な)努力が研究者によって払われています。それは国にとっても損失のはずです。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 68 JSPSの科研費に一本化すべき理由は、学術の専門家による相互評価が確実に行われるから。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 69 多くの分野で共通機器の老朽化が著しい、またそれを更新する制度がほとんど廃止されてしまっている。基礎的な研究を支援する科研費のような制度の拡充は是非必要であろう。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 70 基礎研究のパーマネントポストおよび基盤的研究費をどんどん増やさないと、日本の基礎研究は立ち行かなくなると思います。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 71 ホームページなどで多くの情報開示がなされており、情報収集の面での研究環境はずいぶんよくなった。一方、研究資金については、寡占的取得の傾向が進み、地方大学の研究者などの研究資金弱者が研究活動を維持することが困難になってきている。一研究室あたりの運営費交付金の増額が必要。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 72 寡占状況にある論文出版の影響で、必要な論文にアクセスできない機関が多数あると聞く。研究資金についても、基礎研究への補助が不足しているとの認識はあるが、応用研究重視の傾向は強化されているように見える。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 73 ドイツ,中国,韓国に比べて、ここ数年、日本は相当悪化している。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 74 外部資金(科研費)の獲得がバクチのような状態になっているのに、大学からの公費は減る一方なのは、問題があると思う。公費を減らすなら、論文さえ出れば最低限の補助金を受けられるような仕組みにしないと、研究ができない人が増えてしまいます。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 75 様々な管理(研究費の使い方,試薬,廃液など)が厳しく、それに対応する事務職員の時間も研究者の時間も膨大に取られている。例えば、煩雑な管理のために多くの時間使ったらその分の人件費が無駄になる。そのような観点で大学にも大学にそれを要求する機関にもないと思われる。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 76 安定的に分配される研究資金がなければ、研究計画が立てられない。学生にも研究発表の機会等を作れず人材育成ができない。指導教員の研究費の有無に、学生の発表機会などが依存する状況は望ましくない。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 77 一点集中の超大型の研究費は廃止して、100万円程度の少額の研究費を10年間に渡って支給するような制度があると、ノーベル賞や応用につながる萌芽的な研究が発展しやすくなると思う(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 78 大学への運営費交付金配分に差をつけるような政策が強化されていることに懸念を感じる。ある程度大きな大学はスケールメリットによってある程度の基盤経費を賄えるが、地方大学などでは困窮の一途をたどる。大学の自助努力を要求する意図であろうが、行き過ぎであるように思う。現状では競争的資金はあくまで補助金扱いであるが、基盤を整備することができない状況で使用目的が限定される補助金ばかりが増えることは、教育と研究のバランスをゆがめることになるように思う。このような状況では、科研費などにも基盤整備用途をある程度認めるなどの方策が必要ではないかと思う。間接経費は実質上大学運営資金にほとんど吸収されることが多いと思うので、現状では各教員の研究や教育の基盤整備のための資金が不足する地方大学が増えている。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 79 ポストクまでして研究を続けたいという若手が減少しているのは、研究者の人件費といった基盤的経費の減少によるポスト減に依るものではないだろうか。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 80 優秀な提案を採択するというルールを徹底してはどうか。(大学,第1G,工学,社長・学長等クラス,男性)
- 81 老朽化についてはそろそろ判断を下すべき。全てを一律にサポートできないならば、更新する装置とシャットダウンする装置を判断すべきである。今の生殺し状態は最悪である。また、地震や災害と言った、本来科学政策とは関係無い事で、科学技術予算が手当てされているのは、政府の見識である。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 82 研究資金の集中と選択は、良いシステムとは思わない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 83 大学に対する運営費交付金は維持されているが、大学本部がマージンを多くとるようになっているため、部局予算は減少している。このような現況は、本アンケートでは見えづらく、問題の本質を探るためにはアンケートの変更が必要。現状では、このアンケート自体が無意味になっている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 84 SIPの運営は会議ばかり多くて研究時間を奪いがち。JSTの経験を生かしてほしい。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 85 研究分野間の不均衡が著しい。これを決めている科学技術行政の方針決定のプロセスが学術の状況を反映していない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 86 運営費交付金の段階的削減は日本の大学を危機的状況に追い込んでいます。そのため、人員削減をせざるを得ない状況を生み出し、日本の大学の国際競争力を大幅に低下させています。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 87 期待どおりの研究成果がでて成功ありきで最初は公募をするのはいいいが、研究は失敗がほとんどで、そこから学ぶことが多い。しかし、その計画どおり進まなければ、減額や停止されるというのは、間違っていると思う。特に企業化を最初から視野にいれることが目的に入ってくると、業務的な研究となり、研究者がする意味はなく、結果のわからない、おもいきった研究や創造的な研究ができない。また、毎年評価がなされて、減額や停止や中止の可能性のある、研究経費では、計画的な研究者の雇用や研究の継続ができず、研究成果はでない。研究途中での評価もある程度は必要とは思いますが、あまりにも厳しすぎる評価では、全く研究できない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 88 研究費は減る一方なので、研究費獲得のための労力は増え続け、肝心の研究にかけられる時間が減ってしまうという悪循環に陥っていると思います。また、業績調査も何度もあり、同じような内容で書式の異なる書類を何度も作成しなければならず、無駄も多いと感じています。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,女性)
- 89 科学技術予算の全体額としては不十分とは思わないが、各省庁からの競争的資金として細分化されるために、申請・中間審査・最終評価等の書類作成業務が、研究時間を圧迫している印象がある。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 90 企業を含めた日本全体としての研究開発費は少なくないと聞いている(つまり効率が悪い)。大企業など、研究開発費のために所得税はかなり優遇されていると思われる。研究者が個別に受託研究のような形ではなくもっと公のファンド(科研費等へのサポート)に統合して、もっと広く基礎研究をサポートする仕組みをつくれないうものかと思う。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 91 政府が研究費を削減している上、一点集中型を増やしているのだから良くなる要素は全くない。多様性も失われる傾向にある。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 92 あらゆる施策が、上から研究者のもとまで降りてきたとき、研究時間を他の時間に転移させる形で実現されている。改革すなわち待遇悪化であり、余計なことをするくらいなら現状を維持してほしいという気持ちが高い。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 93 運営費交付金の毎年に渡る一律削減は、もう限界だと思います。これでは次の世代(30年後)基礎研究は壊滅すると考えます。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 94 繰り返しになるが、現状の研究費予算規模は現在の日本の国力相応。まず、そのことをしっかり認識した上で、戦略的な縮小を議論すべき。研究力低下を最小限に抑えるための研究事業そのものの縮小を図らざるを得ない。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 95 間接経費が有効に使用されているか検証が必要だと思います(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 96 資源の乏しい我が国を支えてきたのは科学力であることは間違いない。競争は当然必要だが、全体的な研究資金がそもそも不足している。バイオ分野では民間も世界的に見劣りする。国の科学予算に関しては、改善傾向にはあるが審査体制がまだ論文至上主義が残っているのが問題。地方大学でも論文のない研究室でもよい研究をしているところを正しく評価する審査体制の確立がもっとも重要と考える。どんな研究を優先すべきは国が考えたい。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 97 研究を進めるのは「人」であるため、大学の定員削減が非常に深刻になっている。競争的研究資金へのシフトが現状は大きすぎる。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 98 基礎研究のための研究費およびポスト、ならびに多様性、流動性が足りない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 99 研究費の総額を大幅に増やすべき。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 100 研究設備や消耗品費などの価格が上がっているにも関わらず、研究費がそれに対応していない。科研費など基本的な上限額は昔も今も全く変わっていない。特定の領域への支援が目立ち、対費用効果を考えると、十分な成果が得られているとは判断しにくい。AMEDに関しても、日本版NIHという謳い文句で設置されたが、米国のNIHとはかけ離れた組織であり、どのような成果が新たに生まれたのか不明。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 101 機関や部局として、研究環境を整備するための大型資金を獲得する制度が必要である。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 102 予算額より配分方法に問題がある。AMED PRIMEやさきがけなど、領域POやアドバイザーの所属ラボの若手スタッフが採択されているケースが多い。領域POやアドバイザーもボランティアは大変なので、別枠をきちんと設けて予算を手当てし、一般公募と分けて募集をかけるなどすればフェアになるかと思われる。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 103 30年後、日本人ノーベル賞受賞者はいなくなると思います。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 104 若手研究費が空回りしている状況だと感じることがある(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 105 一般にも言われることではあるが、わかりやすい成果であればあるほど研究費を獲得しやすい傾向にあるように思われる。それに従い、単純な興味に従い行う研究の衰退が危惧される。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 106 過度に基盤経費を減らして競争的資金を増やしたことが、研究の基盤を破壊した大きな原因だと考えます。元に戻すのは難しいとしても、資金配分のバランスをもう少し考えてほしいと思います。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 107 大学等における自由裁量の研究教育資金を増やすべき。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 108 ・学問の細分化と、それらに必要とされる実験機器の多様化から、スペースや設備がともに不足している。共通機器管理システムや共同研究スペース(貸貸式のスペース)を作るようにする。・知的基盤や研究情報基盤の状況について、大学が個々に管理するのではなく、国レベルでのデータ管理体制が整うとよいと思う。・大学では間接経費を増やしていかないと将来性のある研究が育たない。・科研費の増額が日本の科学基盤の底上げに必須。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 109 大学改革に関わる研究教育の補助金配分が減額傾向にある。当初の計画を達成するためには、大学だけでなく研究者への負担もなってきた。特に、私立大学では学費等による自己資金で補填せざるをえず、大学財政への圧迫感が否めない。また、間接経費の確保はこのような補助金配分の減額傾向にある状況下ではますます重要度が高まっている。間接経費は研究環境の整備に必須であり、公的競争資金・民間共同研究資金ともに充実させる必要があると考える。また、URA機能の整備は定着しつつあるものの、これを長期的に維持するための助成の継続を望む。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)

- 110 公募型研究費は採択課題数が十分な数の場合は公平性が担保されるが、少なくなると設備やスタッフが充実した特定大学に偏る傾向にある。また、審査に関わる負担が非常に大きくなることも、教員や研究者の研究時間を奪うことになり、改善を要する。一方、審査(合議審査)に若手を攻めてオブザーバとして加えるなど、若手研究者の育成の場として審査会を活用するなどしていただきたい。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 111 日本の大学全般において、研究のための研究資金であるべきで、ややもすると研究資金のための研究になっている例が散見される。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 112 URAについては任期付き採用がほとんどで専門家が育ちにくい状況が続いている。間接経費は大学の運営に関わってくる経費であるが、十分とはいえず、教職員の組織改編、授業料の値上げ等で対応せざるを得ない状況に追い込まれているように感じられる。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 113 科学技術に対する政府予算は著しく低い。このことが、日本の大学全体の国際ランキングが低いことの大きな原因として挙げられており、早急に改善する必要がある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 114 アジア諸国を含む海外の研究資金と比較して日本の状況は劣っている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 115 研究資金が地方大学に回りにくく、格差が拡大して、若手人材も大都会に集中する傾向が続いている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 116 国立大学は、授業料の値上げで、これまで国の援助の下で可能となっていた各種支援事業の原資をえるという方向になることはやむを得ない。説明責任を果たすことが重要です。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 117 競争的資金の獲得を前提にしている現状は基礎的研究を放棄せざるを得ない段階にまで来ている。このことは学生教育に反映し、新規アイデアでの挑戦的姿勢を見せられなくなっているのではないだろうか。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 118 研究費の削減がボディーブローのように効いている。競争的資金の割合が増えたためにその資金を獲得するための研究者の労力、申請書を評価するための費用と労力、配布した資金の適正使用をチェックするための費用と労力など、本来、研究費として使用できたであろう費用と労力が浪費されている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 119 科学技術関係予算は必ずしも少ないとは言いが、期間限定(長くても数年程度)の申請型プロジェクトに対する予算の比重が多いため、予算継続のために短期的な研究成果を上げようとする傾向が強くなっている。長期的な視点に立った研究費配分の仕組みも必要と考える。また、研究環境については、施設の維持・管理を考慮し、長期の機器のメンテナンス費用も拠出できるような研究資金のあり方についても検討が必要だと考える。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 120 大学において機器の共用が進められているが、それらは既存の装置の管理システムの構築にすぎず、経年による装置の劣化、廃棄を考慮すれば、いずれ最先端研究環境は名ばかりのものとなって世界から距離を離されることは自明である。これらは大学の裁量で可能な部分とそれ以上のレベルでの施策でなければ解決できない部分も多く含まれており、そのような環境の現状と変化をきちんと把握できているのか大いに疑問である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 121 大学および研究機関によるマネジメントを円滑に進めるためには、間接費の大幅引き上げが必要である。(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 122 研究資金は多ければ良いというものではないが、ある程度自由に使える最低限の研究資金の確保は常に必要である。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 123 重点配分もあってよいと思うが、広く薄く配分する基盤Cのような研究費をもっと増やさないと、基礎研究が廃れてしまうのではないかと。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 124 特に機器共用化の進展に伴う共用機器の更新の問題が置き去りにされている。共用化しても更新ができなければすべて朽ち果てるだけである。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 125 政府は運営費交付金を継続的に減らして競争的資金を増加させたが、運営費交付金の削減は既に限界を超えており、大学の基礎体力の低下は著しい。また、論文雑誌料金の高騰もあり、必要な論文雑誌の購入継続を断念するケースが増加している。これは現在の研究者だけでなく、将来の研究者に対しても不利益を与える。研究環境の整備を長いスパンでも考えて戴きたい。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 126 約10年前の時点で、米国の大学教授が新規赴任する場合のスタートアップ資金は1~2億円だった。最近では、中国の大学(重点大学)がどうもこれに追いつき、場合によっては超える水準に到達した。大学教授の新規赴任のスタートアップ資金が約2億円に達している。日本の大学は100万円あるかどうか、であるからスタートアップの時点で200倍の差がついている。様々な物事において、値が2桁変わると別世界になる。時速4kmと時速800kmは、ちょうど歩行とジェット機の差になる。遠くない将来、日本の大学の研究者は、最先端の実験のために中国を訪問するようになることが、予想される。最近、日本では研究者の層が薄くなり、大学の教員も授業の規定回数実施の縛りが強くなり大学を空けられなくなったため、国際会議や研究会を日本に誘致する事が難しくなってきた。(会議主催に必要な人員を集めるのが困難になってきたため。)このような、世界の研究者が集まる場のアジアにおける中心も、次第に日本から移行していくものと思われる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 127 競争的資金では手当てしにくい費目(人件費,論文誌閲覧権など)で予算不足が目立ってきている。基盤的経費を充実させてほしい。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 128 基盤的経費の削減と競争的研究資金への重点化により、いわゆる旧帝大などの主要大への研究資金の過度な集中が起こり、それ以外の大学への配分は厳しい状況にある。教職員の人数削減も相まって、研究以外の雑務も増えていることから、とても研究に時間をさけるような状況ではない。こうしたことが、日本の研究力低下の要因になっていると考えている。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 129 毎年、一般運営交付金は減少している。また、大学当局は文科省の覚えをめでたくするために運営費(教員研究費・教育経費)の減額割合を増やそうとしている。物価や消費税が上がる中、なぜその減額が必須なのか理解できない。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 130 研究資金は全く足りておらず、私費を投入して研究を続けております。子供もおりますので、このままでは、家が破綻するので、研究をやめるか決断を下すかどうかを考えております。公費32万、基盤C 120万の合計150万で研究ができるはずはないのです。論文を出す、掲載料だけでも普通30万かかります。(大学、第2G、理学、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 131 地道な基礎研究に対する支援は十分なのか、疑問。(大学、第2G、理学、研究員・助教クラス、男性)
- 132 共用の機器とそのサービスについて、若手教員や若手研究者が割り当てられているが、その業務が増えてきているようだ。これも人件費削減の影響ではあるが、日本では技術職員の給料や地位が低いのかあまりこの人員を増やしたくないようである。普通は予算がない場合は給料の低い職を増やすものだと思うが、大学は人件費を削減しながらも教授の割合を増やしており(つまり教員・職員数は大きく削減)、この異常な人事が進行する原因はおそらくは教授が運営しているからではないかと思う。(大学、第2G、理学、研究員・助教クラス、男性)
- 133 私自身は分野では比較的一般的な科研費獲得額をもとに活動しているが、活発な国際的活動(海外研究者の招聘や自身の海外出張)を行おうとするとやや足りないのが現状。他の多様な資金源があればさらに望ましいとは思ふ。特に週単位、月単位の海外研究滞りにかける費用が足りない(ので中々できない)。巨額の研究費を必要としない分野は概して文科省以外や民間の提供する研究資金も少なく、数十万の渡航費はなかなか出せない。大分以前に国立大学教員の海外派遣制度が廃止されて以降、海外研究滞りが伸び悩んでいるのは無理もない事で、制度の復活を望みたい。(大学、第2G、理学、研究員・助教クラス、男性)
- 134 間接経費を個人研究者が全く使えないので、研究環境を維持するのが大変である。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 135 競争的資金(科研費など)で、例えば3年間の予定を計画してその予算建てをする。それが認められて資金を獲得するも、サンプル数が増えたり、新たな機器が必要となったりと、計画途中で追加予算が必要となるが、その補填を企業からの補助金や大学から支給されている研究費で賄っている。計画変更に伴う資金の増額申請をシステム化して、新たな競争的資金獲得テーマへ繋がる施策を新たに新設してほしい。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 136 競争的資金は既に周回遅れのテーマが募集されており、新しい研究が生まれにくい。科研費のようなボトムアップ型の研究資金を増やすべきである。また、採択率が低すぎる研究資金は、評価が割れた研究が採択されにくく、結果として新しい研究が生まれにくい。競争的資金の取得のために要する時間と労力が多すぎ、これを評価する労力も多すぎる。結果として社会的な無駄が多い。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 137 研究を支えるデータベースの整備の予算が定常的にないことが問題である場合が多い。集中的に研究資金を投入することは、必要ではあるが、あまりに集中させすぎの場面もよくみる。研究者コミュニティで適切な予算配分であるか分野ごとに聞いてみるというのではないだろうか。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 138 プロジェクトや科研費など公募型予算に当選する確率が低くなった。説明責任を強調するあまり、投資効率の良い研究が優先され、地道な研究は予算面では冷遇が続く。また資金を使わずに済む研究では大学に間接経費が入らないため、研究者に無形の圧力が加かり(※大学のパラサイト)、息苦しさをを感じる。このような環境では、現在の若手からノーベル賞などは、輩出しにくいであろう。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 139 科学技術関係予算については、国立研究所などの大学以外への金額が大きいので、大学に限って言えば不十分である。当たり前の話であるが、研究は後追いではなくオリジナリティが本質なので本質的に競争である。したがって多くの国が財政措置を拡充し科学技術の水準が格段に上がってきている現在、日本の大学のアウトプットの国際比率が下がっているのは当然であろう。しかし、大学に関して言えば、予算が増えない中アウトプットは確保できているので、財政措置を拡充すれば国際競争力は格段に上がっていくであろう。また、将来の人材育成の観点でも、国としての大学への投資は正当化できる。大学以外に配分されている科学技術関係予算の評価を進めて欲しい。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 140 科研費は比較的弾力的ですが、一般に公的研究資金は制限が大きすぎます。例えば、〇〇はこの研究「だけ」でしか利用できないようなもの以外は購入できないとか、そのような縛りがある予算は非常に困ります。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
- 141 競争的資金はよいが、大学間競争は虚しい。時間ばかりがなくなる(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、女性)
- 142 基盤研究費が大幅に削減されていますが、比較的共同研究等が行いやすい分野のためさほど困る状況ではありません。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 143 年々、学内研究費が減少している中、科研費(基盤C)で何とか食いつないでいる状況。新たに何か始められる余裕はなく、現状維持で精いっぱい。国際共同研究の誘いがあっても気楽に返事をできず心苦しい。幸い、機器備品の修理費は学内の別予算から支出してもらっているが、新たな装置や機器の購入は極めて困難である。今年度も半分を過ぎたところだが、ほとんど予算が無くなり、私費で出張したり学生支援している状況。科研費を獲得できない教員は、もつと悲惨。こんな現況で、科学技術立国・日本などと言っているのだろうか?競争的研究資金は大切だが、基盤的経費の充実がより重要である。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 144 研究に直接利用する経費は、科研費などである程度、配分されているが、研究環境を整えるための経費が不足しており、そもそも研究・教育を行うこと自体が難しくなってきていると感じる。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 145 節約するインセンティブが欲しい例えば節約したら、使用できる年数が増える(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 146 基盤的経費が年々減少しています。基盤的経費の最低額の基準が必要だと思います。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 147 「研究者の研究時間を確保するための取組は十分か?」という問があるが、研究時間が削られる取り組みばかりである。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 148 常に申請書(と報告書)を書いている感じになっており、十分に研究に時間を確保できず、本末転倒になっていると思う。科研費などにおいて昔より制度がましになったとはいえ、研究費を長期に繰り越せないことが、常に予算を獲得し続けなければならないという研究者のこの自転車操業に拍車をかけていると思う。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)

- 149 資金が豊富などころほど、明らかに費用対効果は低くなっている。資金が少し足りないぐらいが、一番能力を発揮できると思う。資金が全く足りないのでは何もできない。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 150 競争的資金の獲得に時間を割かれて、研究に使える時間が少なくなるという本末転倒な事態になっている。研究環境を整えるための大学改革も、結局は事務仕事に時間を取られて同様の事態になっている。掛け声と実態がかけ離れているように思う。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 151 ・学生の学会出張やパソコンを購入するための一般財源が非常に不足している。すなわち、外部資金を獲得して研究を行っているが、研究費が潤沢であったとしても学生の学会出張旅費やパソコンなど購入できる外部資金が少ないため、一般財源で工面しているが、一般財源が非常に不足しており学生の教育に影響が出ており、困っている。・研究費が不足しており高価な分析機器の購入や更新ができない。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 152 研究環境は改善が必要であると考えている。私は海外の研究所に長期滞在した経験があるが、日本の大学の事務からの書類作成や雑務の依頼は海外に比べ非常に多く、集中して研究をできる時間が海外研究所に比べ圧倒的に少ないと感じる。研究成果などの報告の必要性は理解するが、大学における事務処理を工夫するなどして、研究時間の確保が必要であると考え。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 153 同じ大学内でも、外部資金をとったときの間接経費が回ってくる学部と回ってこない学部があるようで、使いみちの説明もないためなぜそうなっているのかわからない。管理の仕方が不透明だと感じる。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 154 大学の運営費交付金が大幅に減額されたことで、人材雇用はもとより最先端(もうあまり最先端でないかもしれない)機器の維持すら心許ない。科学立国を標榜することなど程遠い現実があり、日本は発展途上国であると認識せざるを得ない状況を日々感じている。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 155 教育に必要な施設(例えば農学系であれば、温室や動物飼育施設)や大型機器の老朽化対策に対しても各大学や研究科が資金を工夫して準備する必要がある。競争的資金は使用目的が限られていて、当然流用はできず、自然科学系研究分野の教育の質の低下につながるかねない。また、電子ジャーナルの価格が高騰しており、他の予算を圧迫している。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 156 研究者数が不足していることにより一個人の業務負担が増えるので教育研究に割く時間が減少している。政府の公募型競争的資金は決して十分とはいえない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 157 研究資金の額だけでは無く、大学運営にかかる費用の状況改善を求めます。大学予算が減り、事務職員の数が減ると、大学運営への教員の負担が大きくなり、教育・研究への時間が減ってしまいます。各種学内の委員会、事務的な作業のほとんどは専門の事務職員を雇用し担当させるべきであるが、大学教員が事務作業に追われている現状は好ましくありません。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 158 財務省の緊縮財政主義を根本から壊すべき。学術だけでなく国家的自殺。経済を理解していない。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 159 科研費等の間接経費については、研究機関で用途を決められるにもかかわらず領収書を求められないため、何に使用しているのかきわめて不透明である。所属機関では、直接経費については1円単位で領収書を求めているにもかかわらず、間接経費は事務方がすべて使用し、用途も研究者には公開されない。少なくとも、当該資金を獲得した研究者には用途を明確に示す制度を創設すべきである。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 160 研究費用途にあまりに制限が多すぎるものもある。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 161 日本が国全体で科学研究に投じる資金は、海外の科学先進国の資金に比べて圧倒的に少ないのは事実である。しかし、長期的に考えると、研究資金に充てる政府予算を直接的に増やすというより、民間企業からの資金提供を円滑に進められるような取り組みを補填すべきである。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 162 競争的資金なしでは事実上研究は継続不可能に近いが、競争的資金は若手ほど獲得が難しく、特に若手による萌芽的な基礎研究への研究費配分は極めて不十分である。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 163 curiosity-drivenの研究の研究費を大幅に増額するべきである。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 164 研究資金獲得、研究環境整備も重要ですが、若手研究者の育成、外国人若手研究者の交流(交換留学)を促進し、研究者育成により、資金を投入すべきであろう。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 165 研究環境、特に研究施設・設備については、大学間の格差が増大するばかりであり、先進諸国、特に中国等、に比較して劣化が著しい。研究資金については、先進諸国と比べると、伸びが著しく低くなっている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 166 若手の科研費などの採択状況は改善しているが、他は実感ができない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 167 現在、科研費を含め公的な研究費配分は、若手に厚くという方針であるが、新しい研究の芽を探すという意味では評価できるが、長年地道に研究を進めて来てその結果社会実装可能な研究もあるはずであり、年齢で差別するのは不平等であると思う。これまでの研究費の配分の問題は、有名大学の有名教授に研究費が集中していたことであり、研究費不正にもつながっている。各省庁から億単位で研究費を配分する、年度末に億単位の研究費が配分するなど考えられないことが行われてきた。大学名や年齢や性別に関わらず、研究内容を重視した審査ができるような仕組みが必要である。そのためには国立大学に集中しない研究費配分が必要であり、省庁にまたがって研究費が集中しない仕組みが必要である。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 168 研究機器・設備の高機能化と高価格化から、共通機器利用施設、特に技術者を充実させることが必要です。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 169 大学での財源が減少しているため、研究資金は競争的資金にはほぼ依存していると感じる。競争力のある研究者は問題ないと思うが、そうでない場合は研究規模を維持していくのは困難である。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

- 170 機関の内部研究費などは非常に少額で、国際学会に参加してしまうとほぼなくなってしまう程度なので、研究費は科研や民間の助成金を取得しないと何もできない。研究費がないと、結果が出ない、結果が出ないと研究費もあたらない…などいずれも悪循環でしかない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 171 組織として、研究者が研究時間を確保できるようにするための工夫が全くなされていない。要点を得ていない無駄とも思える業務、変えようとしていない体制、組織全体で見直さなければならない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 172 優秀な人材がいても、十分な基本給が支給されていないため、バイトなどに多大な時間が割かれ、本来の研究業務に時間的制限がでている。研究レベルの向上を妨げている、一番大きな要因かもしれない。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 173 この研究者への研究資金に加え、先端研究機器コアファシリティの予算も激減しており、研究活動には大きな制限がかかっています。また、逆に、この調査のような雑用は、年々増える一方(なぜなのでしょう?)で、資金、時間などの研究環境は悪化の一途をたどっています。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 174 大学で研究をサポートする人材を雇用する経費は不足している。そのため、特定の事務を行う人間の仕事の負担は非常に重たく、研究の遂行を遅れさせる原因となっている。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 175 人的環境も不足しているが、時間的、資金的な問題が大きく、業務のみで疲弊している。教育力やコミュニケーションが不足した教授・准教授の存在が周囲の教員に及ぼす悪影響は大きく、研究できる環境とは程遠いものとなっている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 176 国立大学環境は基盤予算の過度な削減により、もはや学部教育に支障をきたすレベルにまで悪化している。政府に日本を潰すつもりがないのであれば、早急に運営費交付金の改善を求めます。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 177 本当に資金が必要な研究なのかどうかの吟味、審査をきっちりやってほしい。実験もせず、外国に出かけて帰ってきて、PCの前に向かえばできてしまう研究に多大な研究費を充当しているのはどう考えてもおかしい。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 178 国として特に推進すべき研究や卓越した研究に対し、集中的に大型研究資金を投入する方針は、国際的な研究競争を考えると良く理解できるが、まだ1人の有名な研究者に対し複数の外部資金が集中するなど、研究費の投入方法に問題(重複)が残っていると思われる。その一部はAMEDなど省庁を超えた機関の設置によって改善されたとは言え、さらに無駄を省く努力をすることで、コストと基礎研究を行っている研究者に対しても、研究環境や研究資金を提供すべきである。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 179 競争的資金を獲得するに十分な業績をあげるに至っていない発展途上の研究者への支援がますます難しくなっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 180 国立大学などに配分される研究資金などは年々減少しており、これまでの研究を維持することが困難になる場合が増えている。教員は外部資金獲得に割く時間が増え、実用化に向けた展開研究に主眼が置かれるようになると、本来の基礎研究を行う機会は減少する。文化も環境も異なる海外の制度を見習えと、国は提案しているが、我が国のこれまでの基礎研究を進めるための環境を取り戻すには、現在とは異なる方策が必要である。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 181 非常に悪化している(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 182 研究関連に個人の研究者が自由に使える基盤的経費が極端に少なくなっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 183 今後の日本のGDPの増加のために、基礎研究に対するサポートを強化すべきと考えます。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 184 政府等の公募型研究費に関して、大型資金であればより大学の運営費交付金が必要となる場合が多い。機関への間接経費に加えて、研究者への間接経費も配慮してもらえると、直接経費による研究成果もより大きなものとなり得る。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 185 学術論文誌の購読料が高騰している現状において、論文へのアクセスの容易性等、大学間の格差が拡大する傾向にあると感じている。また、基盤経費による研究機器の導入、更新は、さらに難しくなってきていると感じる。次代の先端技術に向けたシーズの涵養には、資金および人的支援の先行投資が必要と感じている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 186 研究資金の偏りが年々拡大しているように感じる。また、公的資金を獲得する大学間格差の壁を感じる事がより強くなってきている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 187 研究資金の配算については、一部の大学に大きく偏りすぎている。日本の研究活動を活性化させるには、戦略的に重点的に資金を提供するのみならず、多くの研究者に対し、広く浅く資金を提供することも大切である。その結果、様々な独創的な研究が芽生え、研究者の裾野を広げることが、質の高い研究活動につながるかと考えている。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 188 短期に集中的に話題になる研究課題に一度、公募型研究費がでると産業に役に立たなくてもかなり長い期間補助がされる。研究課題の目利きをする評価者の選び方を変える必要がある。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 189 科学技術関係経費の国の予算・GDP比等が他の先進国と比較して低い状態にある。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 190 研究を獲得できる人とできない人の格差が年々広がっており、一部の予算獲得に優れた研究者の組織への(仕方なしの)貢献が年々増している。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 191 博士院生に授業料を払わせるのではなく、大学が給与を支払う制度が必要と感じる。博士院生を雇用するための研究公募をして、採択されると給与を示して博士院生を募集する欧米先進国もある。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 192 RA等の一部人材は、個々の研究者に直接関係しない(大学内で広く活用できる)競争的資金を取る活動に力を注いでいる。資金獲得のために提案されるのは、教育や研究の新たな枠組みである。その提案が採択された場合、その枠組みに対応するため、研究者(教育者)の業務が新たに発生する。このケースにおいては、研究者としてRAの協力は得られず、各研究者は研究時間を失う。一方でRAの人件費はかかる。(大学,第3G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 193 1採択課題に対する30%の間接経費は、十分であると思われるが、その間接経費の使い道が不透明である。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 194 やはり大学が多すぎる。BFになっている大学は淘汰しその分の予算を回す(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 195 プロジェクト志向の大型の研究資金ばかりに偏り、基盤経費が減っている。さらに研究資金獲得において貧富の差がますます開いている。優秀な人材が集まる旧帝大や研究所にお金集中し、地方の大学などは資金がなくなっている。資金や人材が不足し、研究成果も上がらず、そのためさらに研究資金が獲得できない、という悪循環に陥っている。大型の資金よりも基盤研究Cなどの基盤的な資金を充実させたり、運営交付金を増やし、多くの研究者に研究資金を分配して基盤的な研究を支えなければ、基礎的な研究の裾野はますます狭くなり、先進的な研究はすたれてしまうのではないかと。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 196 多額の研究資金が少数の研究者およびその研究室に集中している一方で、大多数の研究者は研究予算不足から研究の発展を図るのが難しい。生命科学系で1研究室に1億以上の研究費は無駄である。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 197 図書費の高騰で、論文へのアクセスが急激に悪くなっている。何らかの対策が急務と思う。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 198 予算配分の仕方が偏っていて、一般の研究者が研究者で無くなってしまっている現状が問題のように思います。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 199 政府の科学技術政策は政府自身が努力したり、知恵を絞ったりするのではなく、如何に研究と教育の現場に無理な注文を押し付けるかに終始している。例えば問2-08の研究成果・データの公開・共有に関して言えば、ヨーロッパのいくつかの国のように国がお金を出して学術雑誌の購読契約を結ぶナショナルライセンスを日本も積極的に考えるべきである。今のまま行けば、どの大学もほとんど最新の論文や研究資料を閲覧できなくなるのは明白である。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 200 選択的集中ではなく、基礎研究への投資を積極的に行っていただきたい。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,女性)
- 201 学閥や仲間同士で研究資金を融通(評価)し合う風潮がある。研究資金の分配は公平性を保って欲しい。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 202 研究成果を求められる一方で、研究成果を出すその環境・資金は厳しさをましている。研究費を獲得するために多くの時間を費やさなければならない現状は、科学立国を自称するには矛盾が多すぎる。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 203 大学の既存の設備ですら維持ができなくなるような状況であり、新しい設備に至っては、全く望みがない状況。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 204 現状では外部資金に頼らなければ研究ができない状況です。その結果として、そこそこの時間を研究費を得るための作文に費やしています。さらに、作文をする都合上、わかりやすい研究(他人に伝えやすく、結果がほとんどわかっている研究)に注力している気がします。本来であれば、結果のよくわかっていないものこそよく研究したほうが良いとは思いますが、そのような資金もない状況です(時間も上手く捻出しなければいけないのですが、どうしても優先順位が低くなってしまっています)。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 205 「研究費が少ない」ことがメディアなどでよく取り上げられるが、研究費よりも人材の少ないことの方が問題である。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 206 予算の額よりも配分の仕方に問題があると考え。様々ところで言われているが、現状は選択と集中が行きすぎている。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 207 大学からの資金では全く研究は行えない。今年は科研費をとれたので何とかやっつけていけるが、リスクの低い基盤Cの場合併願できないため、大きな予算を確保することが非常に難しい。研究時間に関して、若手教員はまだまだが、教授クラスの研究外業務(会議など)が多すぎて、研究のマネジメントに時間が割けていない現状がある。また、論文のオープンアクセス化が求められているが、そのための予算が全く措置されていないので、研究者の立場からすると、オープンアクセス化するメリットが全くない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 208 研究費を獲得するための書類作成が多いため、学生教育も十分に行えず、その結果、研究成果がでないという状態に陥りつつある。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 209 学術論文の購読が大学でさえ難しくなっています。各出版社の問題ではありませんが、国としても何らかの対策が必要かと思います。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 210 現場をよく理解し、全体を俯瞰できる方にリーダーシップを取ってもらいたい。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 211 依然として厳しく、環境が改善されているとは決して思えない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 212 管理的業務が増え、研究時間を削らざるを得ない状況。研究時間の確保が急務。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 213 研究論文を包括的に蓄積、検索できる仕掛けを整える必要があると思います。Ciniiの拡充を望みます。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 最近日本の出版科学技術論文数を諸外国のそれとの比較したデータを見た。科学技術予算と比例していることは明らかである。それは単に競争型資金(科研費など)を増やせばよいという問題でなく基礎ベース、研究者が何に使ってもよいと配分される研究資金が重要であると考える。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 「科学技術予算」と一括りにしてしまうと,かなりの額が充当されているように思われますが,目的志向の研究への充当額がかなり大きいです。基盤的研究への先行投資が,国力の足腰を鍛え,国はたくましく豊かになります。例えば現在の科学研究費(2400億円ほど)を2倍にしてはどうでしょうか。科研費の申請書の多くのクオリティはかなり高いため,そこを財政的に支援できれば,2倍以上の成果発信が期待でき,その結果,右肩下がりになっている学術界での日本のプレゼンス向上に繋がります。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 現在,大学の共通機器は各研究室で管理しているところが多い。そうすると機器を使う際にその研究室に気を使ってしまい,管理する研究室の教員の負担増にもなっている。そこで任期のない安定な立場の技官(しかも先端の装置にも精通したエキスパート)を充実させて,共通機器を管理してもらえれば,気を遣わずに共通機器が使える。○大医学部の機器センターや○○○○研究所が良い例だと思う。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 国がもし研究にお金を割けば未来の研究開発が明るくなると思っているのだとすれば見当違いで,10年後,20年後の研究土壌を見据えるのであれば幼少・初等教育にこそ予算を割かねばならない。また今の研究者には未来の研究者の卵たちに明るい研究者像を見せるべく更なる自由化を進めて頂きたい。それは決して虚像ではなく,実像とすべく何らかの成功例をきちんと見せるべきである。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 間接経費がたんなる全学経費になっており,研究に必要なスペースや電気代の支払いを別途請求されるという,不適切な状態になっている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 研究環境:講座制を廃止する流れが未だにあり,若手が研究だけに集中できない。研究以外の雑用が増える一方であるのに,教員数が増えることはない。研究資金:一部の花形的な応用研究に研究費を集中させ,地味になってしまう基礎研究をあまりにも軽視している。メディアでも取り上げられ,ノーベル賞受賞者からも警鐘が鳴らされているにも関わらず,何も変わらない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 日本全体としての研究予算は十分にあると思われるが,配分に問題があると感じている。政府設定型の研究課題ではなく,自由な発想の基礎研究に対する研究費は不足している。唯一の財源が科研費だが,重複制限が厳しく,例えば同時に基盤研究を実施できないため,例えば「基盤Aと基盤Bの中間規模の研究を基盤Bで走らせる」,のような運用ができない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 個人で使える研究費(大学から配分される研究費)は20年前と比較すると1/4~1/5程度です。この費用では,科学技術を支えるための実験するための費用はありません。すなわち,大型共同研究施設や学内の共同研究施設を利用するための試料すら作成できません。面白いアイデアがあっても,実現するための実験(確認)費用がないことを意味します。この状況では,発見・発明やイノベーションは困難です。研究成果を出すこともできません。したがって,科学技術系の研究論文が減少することは致し方ないと思われます。したがって現状では,日本の学術論文数(や質)が低下するのは当然予測された施策と思います。現状では,地方からの若い人材も育たないのも当然と思われます。運営費交付金は,受験生を確保するために,建物の見栄えの改修工事や広報活動のための費用・経費が肥大化していると思われます。足元(学生確保)が揺らいでは研究どころではなくなるので,ブランド力のない大学では致し方ない面もあると思われます。どのようにすれば良いかのアイデアは簡単に見つかるものではありません。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 大学内における個々の仕事や,事務対応は増え続けており,研究費を得ても研究にあてる時間が限られている。チャレンジする研究がやりづらい。学内における研究者連携や地域との連携,どの地域や大学でもやっているが,一部の研究者だけに偏っている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 研究資金は近年の緊縮により不足気味である。成果が出やすい分野,最近話題の分野に集中投資する傾向があり,基礎研究に費やす費用が足りないと考え。また,研究環境も年々悪くなっているように感じる。社会への過剰な還元(公開講座など)が求められること,学生の質低下による指導時間の増加,保護者対応など研究者本来の能力を発揮する時間は確実に削られている。特に学生の質低下は今後に渡って大きな問題となると考える。質が低下しても売り手市場であるため理系であれば就職に困ることもないことから,質低下そのものが学生にとってのデメリットに繋がらず,結果として学生自身によってこれを改善するというモチベーションに繋がらない。このままではギリ貧になっていくと考える。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 公的研究費については,年々,大学からの監査が厳しくなっており,正直なところせっかくなるとても,制限があって利用することが難しいことが多い。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 研究資金を自分の研究のために獲得しているが,どの程度実施できているか実態を調査して欲しい。研究資金(金額)に対して事務処理の時間,所属機関による作成書類の数,がどれほど増えるのか,間接経費など使えない費用がどの程度なのかなど所属機関ごとにどの程度差があるのかも知りたい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 研究を主導する立場(責任者)への配分ではなく,研究を実際に行う者への十分な資金配分が必要である。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 大学の経営状況は厳しく,老朽化または時代遅れとなった大型研究機器の更新が全く進んでいない。大型の設備は個人で賄うことはできず,研究環境は貧弱になる一方である。研究者は競争的資金を獲得しなければ,何もできず,少額の外部資金をたくさん獲得し,その結果,申請書と報告書ばかり書くことに時間を使うことになる。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 公的研究費を目的に合致させて適切に使用するには,もう少し規則を緩める必要がある。(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 地方大学の研究環境及び研究資金は,今後も希望が持てない。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 特定研究機関に過度に集中した研究資金配布は異常。日本全体的に,研究資金を配布するべきと思う。研究費の集中と選択は,日本の研究活動を衰退させる。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)

- 231 研究環境については、共同利用施設の制度などを活用して改善がかなり進んでいると思われる。研究資金の状況については、研究者の活動に応じた様々な形態の資金制度(企業との協力、国際的な研究助成、学際的な研究助成など)の確立による対応が有効ではないか?(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 232 本学部では、教員一人あたり8名程度の学部生(これでも少ないかもしれない)、大学院生などを指導する必要がある、すべての学生が一度教えたことを修得してくれるわけではない。最近には様々な特性を有した学生も増加している傾向にある気がしており、その場合には実験の際には一時も目を離せない状況になる。その様な学生を卒業要件を満たすような研究を行ってもらった上に、外部にデータを出せるような研究を自分で行うことは困難である。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 233 組織によって研究時間を確保するための取組はなく、研究者個人の努力に依存している。研究者が個人で研究時間を確保するためには、資金の充実が必要となり、地方大学では研究時間を確保することが厳しいのが現実である。そのため、研究資金の拡充もしくは研究者とそれに関連する事務方の作業を減らす仕組みを充実していくようにしてほしい。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 234 基盤的経費の確保が不十分である。最先端の大型共用研究施設・設備は利用しやすくなっていると感じるが、使用頻度が高く基盤的な設備は各研究機関に揃っていた方が効率的に研究が推進できる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 235 ・本学における研究環境について上述したが、研究機器類は、教員の自助努力による外部資金の獲得等によって整備が進んでいるが、〇〇大学として〇〇〇〇〇〇〇〇等から出版されている論文の購読を大幅に削減した為、必要な文献がネット上で閲覧できなくなっている。情報整備が大幅に後退しており、研究環境としては致命的である。・国内全体の研究環境及び研究資金について過度な「選択と集中」や、近視眼的な「産学連携の強化」によって、独創的な基礎研究や、一見地味でも基盤となる研究に時間と資金が回りにくくなっている。競争的資金枠の大幅な拡張は、書類仕事を増長させると共に、短期的に成果の出やすい研究課題や短絡的なお役立ち研究へのシフトを加速させている。そもそも、研究において将来役に立つと、現段階で安易にわかるものは殆どなく(あったとしたら、それは研究する価値がないか、開発段階に進むべき課題である)、「選択と集中」は馴染まない。競争的資金獲得に向けたアイデアのブラッシュアップや、書類作成は研究者の能力を向上させる機会となりうるが、現在は行き過ぎていると感じる。安定的な基盤経費と競争的資金のバランスを見直すべきではないか。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 236 間接経費の問題にせよ、配布する額がポイントなのではなく、大学組織がちゃんと活用しない(研究者から召し上げただけで、ちゃんとした目的に使っていない)ことが問題です。国が、大学が「大型研究をちゃんとしてくれる研究者に、正当な研究環境を大学組織が責任持って与えているか」を実践しているか、本当にちゃんと評価しないかぎり、何も研究者の環境は変わらないと思います。限られた国の予算の中で大学にばらまく額を増やすより、こちらの「大学組織」の正当な評価をすべきだと思います。一方では、間接経費を大学が召し上げてくれるだけで、大学組織が研究者の足かせになっている(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 237 上述のように、研究機器の共同利用化は少しずつ進んできている。これからは、人件費の削減の状況で、共同研究施設を維持・管理する人材の人件費を確保できるかどうか、今後の大きな課題である。大学執行部の理解がある場合には、共同研究施設は発展すると思いますが、そうでない場合には、やはり、文科省の事業でサポートを継続することも大事であると考えます。その際には、地方大学の人材などを活かすような事業も行っていたきたいです。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 238 若い人材の不足する中で、一定水準の教育・研究を行える施設は限られる。研究環境、研究資金は集約的に使用すべきであり、大学の再編は積極的に推進されるべき。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 239 海外を追跡するような超大型プロジェクトに「競争力」と称して投入している巨額の研究費を削減して、人件費が支出できる数百万円程度の中型研究費の件数を増やすことが、日本から全く新しい発見を生み出すパワーとなるものと考えます。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 240 大型予算の配分が極端すぎるように思います。基礎研究に対しても、広く薄く配分されるべきだと考えます。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 241 すぐに成果が目に見える応用研究はまだしも、基礎研究にお金がかかっていると感じます。今は外部資金と内部資金ともに感じます。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 242 長年にわたってアメリカNIHから研究資金をうけておりました。直接経費だけで年間3000万円、間接経費を合わせると5000万円近くになり、5年続きます。初回平均獲得年齢は40歳過ぎです。徹底的な審査を受けるので、NIH研究費の受領歴が、そのまま大学での昇進材料となります。アメリカ並みというのは不可能ですが、引き続き文科省の努力をお願いします。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 243 研究資金の状況は年々厳しくなっている。研究者個人としては業績は年々増加しているが、獲得できる研究資金は減少している。そもそも応募できる競争的資金自体が日本国内で減っている。中国の研究者との差が激しく、中国の研究者は我々よりも業績がなくとも多額の研究資金が用意されている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 244 全般的に研究資金の偏在があり、健全な研究活動の弊害になっていると考えられる。特に大型資金を投入したプロジェクトについては過去に遡り厳密な評価とその公開が必要である。今後の方策にフィードバックを行う必要がある。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 245 地方大学は捨てられているとの実感が強い。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 246 国の施策としてiPS細胞研究に力が入れられて、他の研究分野の研究者には研究資金が入ってこなくなったように思われる。しかし、実際ここ数年で莫大な予算を投入してiPS細胞研究において、どれほどの成果が出たのか検証と見直しも必要と考える。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 247 日本は米国や中国に比較して、相当科学技術の発展が遅れた、と自覚している。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 248 基礎研究への公的研究資金予算が軽んじられている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 249 研究費の総額を考えるよりも、配布の仕方を議論すべき。集中して成果を促すのも重要だが、幅広く小さな研究シーズを支援することも重要(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 250 遺伝子組換え動物や細胞を保有するバンクは充実しているが、手に入れるための学内の遺伝子組換え実験、動物実験、MTAなど書類手続きが煩雑であり、審査の時間もかかりすぎる。書類手続きだけで2ヶ月以上かかることもある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 251 教育への時間の負担が大きくなっており、研究への十分な時間とお金がない。教育と研究の両者を充実させるのであれば、ある程度分業すべきと考える。特に所属の医学部では、学部学生は国家試験などに特化した教育を求めているように感じる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 252 今年度から、研究室スペース借用料金が設定され、研究等に使用できる運営費がさらに少なくなってしまった。その一方で、研究に必須の機器の更新には予算がつかず、他大や他国の研究環境との差は広がる一方であるように感じている。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 253 結局機関内の業務を行うだけで業務時間のほとんどを費やすのが現状であり、研究のための時間の確保が非常に難しい。公的研究資金など様々な取り組みが行われているが、それを十分に研究に活かす時間がないことが大きな問題である(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 254 現職となり10年が経過したが、その間研究所内の新規の共通機器の購入などが全く行われず、機器が経年劣化で使用できなくなっても、その代わりとなる機器の購入などは行われない。高額の機器を単一講座で購入するのは無理であり、昨今の大学の経済状態を考えると大学による購入は考えにくい。以前行われていた定期的な機器の購入についての国からの予算措置が行われないと、先端機器を利用するすべが無く、研究解析が従来の手法に頼らざるを得なくなり、論文のインパクトが落ちるといふ悪循環に陥っている印象が、ここ数年特に感じる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 255 競争的資金増額して基盤的資金を減らすのはそろそろ限界だと思う。大学や研究機関にポジションがないと研究費持っても意味がない(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 256 科研費の直接経費だと、論文のオープンアクセス化や情報公開などに使うよりも研究の試薬の方に優先して予算を使ってしまうため、研究成果や研究データを公開・共有するためのみに使用できる予算(使わない場合は返納する制度で)を、科研費に付加して、個人に与えてほしい。間接経費だと大学側が徴収して、個人として使えないため(〇〇〇〇大学では)。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 257 若手に研究資金を充てる取り組みがなされているが、たいして研究をしない若手に研究費を配分しても意味がないと思います。今は仕方がないと思いますが、もう少し研究業績をしっかり見て、研究費を配分するようにしていただきたいと思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 258 研究に専念できる環境にあるとは言い難く、研究資金もありません。地方大学にも研究資金が配布される状況を作ることで、研究の裾野を広げることも必要なのではないかと思います。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 259 研究資金が減少している背景の中で、補助金獲得にシフトした研究となっていることが懸念される。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 260 もはや研究費は自分で獲得する時代であると考え。従って、科研費の申請を義務化した。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 261 ・本学の研究環境については、キャンパスマスタープランに基づき老朽化している研究施設の機能強化のため計画的に改修更新を図っているが、予算措置は十分とは言えない状況である。また学内スペースの有効利用を促進するため、全学的共同利用スペースや学長裁量スペースの拡大を進め、スペースチャージ制による運用を図っている。・本学では、共同研究等に係る間接経費の計上について対応手続きを進める必要があると考えているが、現状では対応する人員不足のため困難な状況である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 262 競争的研究資金のみが増加しているが、経常的な経費の支えなしには有効に機能しない(十分に活用できない)。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 263 施設整備の費用や大型機器の予算など十分ではなく、朽ち果てる一方である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 264 研究資金が不十分である。研究資金獲得に時間を取られる。という悪循環がある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 265 競争的資金が多くなっても、日本の科学技術の水準は上がらない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 266 競争的資金への割合を減らし、運営費交付金における教員研究をもっと増やすべき。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 267 国の科学技術に関する予算の適切な配分の選択と過度にならない集中がより必要になると思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 268 最近の大学における教育の拡充のために教員の作業は多忙化している。そういったなかでの研究推進のために、更なる質にとどまらず量の確保も必須である。そのためにまずは研究資金の増額が期待される。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 269 私立大学研究ブランディング事業に類似した助成制度の創設に期待する。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 270 予算措置のみならず研究成果の評価も必須と考えられる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 271 政府の公募型研究費での間接経費において、その使用の内訳について研究内容との関連性の説明を求められることがあり、本来的な間接経費の扱いになっていないものがある。また、研究遂行上に必要であっても直接経費で支出できないものについては、間接経費から出さざるを得ないこととなり、間接経費として必ずしも十分でなくなることもある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 272 運営費交付金の削減に伴って、研究室の環境を維持するための経費が不足しており、外部資金の獲得ができない場合は、新たな外部資金を獲得するための活動も十分に行えない状況になりつつある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

- 273 設備サポートセンター整備事業及び先端研究基盤共用促進事業により、学内及び学外の設備共用システムの構築が出来たが、老朽化した機器の更新のための予算確保が極めて厳しい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 274 GDPに対する比率が諸外国と比較して逸脱して低い。世界の中では非常識的に研究への投資が小さい国になっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 275 研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)については、確保の観点で言えば優秀なURAの奪い合いになっており、育成の観点で言えば本学においては着手していない。意欲的な事務職員や技術職員、あるいは大学院生の中からURAとして育成していくことも考えていくべきだと思います。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 276 公的研究費は有名国立大学に偏ってはいるが、審査内容の開示などは以前よりわかりやすく、透明性が高くなってきている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 277 中国,米国に負けないようにするにはそれなりの科学技術関係予算が必要である。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 278 政府系の予算に関して、流行の分野に極端に偏りすぎのような気がします。「その先」を先取りして新しい学問体制を作り上げるような予算があまり無いような気がします。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 279 一部の研究機関に研究資金が集中している。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 280 年限が切られた高額な資金より、所属機関を通じて得られるベースロードが保証される方が大学らしい研究が実施できる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 281 研究費総額は十分だが、選択と集中により一部研究者に巨額な資金が供給されるため、効率が悪い上に基盤となる研究力も低下している。早急に改めるべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 282 我が国の研究をどのような方向に持って行きたいのかの国のビジョンと研究環境整備や資金提供の実態が多くのところでは不整合を起していると感じる。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 283 ニーズに対応するための予算は比較的あるが、自由な発想で新たなシーズを生み出す予算がほとんどないと感じている。特に学生の自由な発想を研究に活かす場合、決められたニーズ研究では対応できないことが多く、苦慮している。共同研究機関については、その機関そのものは色々使いやすいように努力をされており、大変助かっているが、実際に使う教員は、その場所に行くためには、その所属している側の大学からのより深い理解(学内での活動や講義等をまとめないと共同研究機関に行くための連続した時間が取れない。)が必要であると感じている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 284 文科省,JST,経産,NEDOなど公募テーマ分野を選別しすぎ。もっと自由枠ですべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 285 基礎研究への予算の支出が不十分に感じる(大学,第4G,その他,男性)
- 286 競争的資金ということであるが、結果的に配分が一部の大学に非常に偏った配分になっている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 287 39歳以下の若手が優遇されており、いわゆるロスジェネレーション世代の40代が相対的に恵まれておりません。ロスジェネ世代を助ける政策をお願いします。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 288 選択と集中により、特に地方国立大学の予算がありません。当研究室の予算も95%以上が外部資金に頼っている状況です。常に自転車操業となっており、困難な課題に取り組めない状況です。せめて基盤の研究費は研究室に来るように国立大学は整備すべきです。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 289 研究費のGDP比1%を達成し、公費の拡充をお願いしたい。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 290 大型機器が故障したときに、予算の融通がきかない。そういった機械の維持経費を余裕をもって用意する仕組みが必要と思う。科研費はだいぶよくなってきているが、他は難しい。修理やメンテナンス費用への理解が必要である。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,女性)
- 291 日本の科学技術関係予算は、軍事費等に比べて圧倒的に少なく、このままでは次世代を担う若者に向けた教育と研究の両輪の将来が危ぶまれる。国を挙げての予算の見直しと改善を切望する。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 292 間接経費の使用状況を直接経費同様厳しく管理する必要があると思う。多くの大学で見られる現象であるが、間接経費は研究費を獲得した研究者に適切に反映されているとは思えない。本研究科ではいつの間にか誰かが何かの目的で使用し、その使用内容の報告さえされていない。本来の目的では「研究費を獲得した研究者が研究をするための環境整備のために部局が使用する」となっているが、獲得した研究者の環境が整備されているとは全く思えない。間接経費を廃止して全額直接経費としたり、間接経費も科研費同様使用内容を報告させるなどして、研究費が透明かつ有効に使用されるよう管理する必要があると考えている。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 293 科研費や運営費交付金等の予算が減らされる中で、研究費確保はだんだん難しくなっているように見える。一方で、安全保障関連の予算は急増しているため、研究者の意思にそぐわずにやむを得ずそちらに手を出さずにはいられない状況を作り出されているのが懸念である。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 294 科学技術関係予算について、応用的な研究(極端に言うと今すぐに役立つ研究)への資金投入の偏重が顕著だと思われる。将来のイノベーションにつながる可能性を秘めた”基礎分野(極端に言うと何の役に立つかわからないが、人類の英知になる研究)”への資金投入も応用研究への資金投入と同様に必要と考える。研究環境確保という点では、本学も含めた地方大学が最先端の研究情報を十分に閲覧できる状況にないことが致命的であると考え。今後各大学が情報閲覧費用を負担するのではなく、国として国内の研究者全員が同じ研究情報を閲覧できる状況を確保することが必要と考える。すでに大学個々が、対応できる状況ではないことを認識していただきたい。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 295 トップの研究者が退職後、近隣の中国や韓国で、大きな報酬をもらい、技術が流出しているという話を聞いた。日本にとってマイナスだと思う。トップの研究者の受け皿を少し考えた方が良くと思う。定年制も重要なかもしれないが、退職後の研究者と若手のポストドクの交流など、国際化は大事だと思うが、技術を継承するというのも大事だと最近思った。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 296 科学技術関係予算を増加させていることは理解できるが、A-STEP・NEDOなど産学連携研究・実用化研究に必要な以上の資金が集中されているように思える。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 297 基礎科学に対する国の予算が少ないため、若手が大学院等に進学しなくなっています。また大学の研究活動にも大きな影響を与えています。もっと予算を増やすようお願いしたいと思います。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 298 基本的に研究者に事務補助はない。しかし、事務補助があるだけで、研究者は研究や教育といった本来の業務につくことができるのではないかと。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 299 研究の設備や機材が購入できても、保守や整備ができる人材を雇用できないので、環境が整わない。(大学,第4G,工学,社長・学長等クラス,女性)
- 300 試作を必要とする研究の場合、科研費(基盤C)は少額すぎる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 301 科研費の採択数(の絶対数)に関して、毎年、応募割合が増えているにも関わらず、変わっていないことに、疑問を感じている。特に旧7帝大の採択数が殆ど、変わっていない点も、不思議に感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 302 私が所属する大学では、外部からの研究訪問者が滞在、利用できるような部屋を用意していない。そのため、研究室を所持していない教養課程の教員が外部からの長期滞在者を迎え入れることが、極めて難しい状況にある。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 303 競争的資金さえあればよいという考えは不適で、自由な発想を支援するシステムと時間がなければ基礎が伸びるはずがない。日本人はそれが苦手と言われているが、そうではなく、それができない環境に慣らされているからにすぎない。こんなサーベイを忙しい教員にさせること自体がナンセンス。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 304 裁量労働制となったものの、たくさんの会議に忙殺される状況であり、年々、事務処理も増えている。労働条件は変化しているが、大学内の業務の分担は昔のままなのは問題と思われる。これでは、優秀な若者が大学で研究をしたいと思わないのは自然と思われる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 305 病弊しています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 306 優秀な専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の確保が難しい。電子ジャーナルの金銭的負担が大き過ぎるので、国の施策での対策が望まれる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 307 間接経費が必ずしも研究者に還元されない状況があります(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 308 私はソフトウェアの研究者なので、PCがあれば研究できてしまう。したがって研究環境についてはあまり不満はない。また研究資金についても(余裕はないが)科研費+外部資金でそれなりに確保できている。ただ研究時間だけは全く不足している。ここ数年、アクティブで前向きな頑張っている研究者ほど校務が増え、かつては自分の研究時間に充てることができていた週末でさえも、様々な書類作成に追われている。睡眠時間を削り、学生指導の時間を削り、出張の移動時間も書類作成をし、それでも終わらない。こんな状況で研究をすることはもはや不可能なのでは？(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 309 研究費は結局のところ、学会で目立つ研究者に優先的に付いている。米国のように集中型とばら撒き型の両方の研究費が無いと、思わぬところから発見される学問はほとんど出でこないと考える。一方で、研究費の付いている教員は報告書と学内実務に追われ、新しい概念等を考える時間は減る一方である。研究環境は劣悪化の一途を辿っている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 310 競争的資金に移行する傾向があるが使える費目が限られているため、もっと、基盤校費に戻すべきだ。競争的資金で倍率を自慢するケースがみられるが、たとえば、50倍だとすると、採択されなかった49チームが要した準備時間をもし研究に充てたらどれだけの研究成果がでたかを考えるべきである。我が国として致命的な問題である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 311 間接経費については、そのほとんどが組織の経費で消費される。研究者には、限られた条件で必要な場合に限り申請して使えるようになっていく。ただ、それでは研究者にとっての間接経費の意味がない。間接経費の使用条件として、「10%は研究者が使えるようにすること」というような条件を資金提供側からつけておくべきである。NEDOなど一部の競争的資金ではそのようになっていたため、非常にありがたかった。JSTや科研費もそのようにすべきである。また、外部資金で大型の設備を導入した場合は、数年後に廃棄が必要となり、その費用が必要となる。しかし、その時点では、すでに研究期間は終了しており、研究者はその費用を持っていない。その費用の負担は間接経費を取り込んだ組織が負担すべきである。これについても、資金提供側から間接経費の使用の条件として、「間接経費を組織が使用するのであれば、設備の廃棄時などの費用は、組織が負担すべし」というように明記しておいてほしい。そうでないと大学は動かない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 312 研究に割ける時間が少なくなっているのは今に始まったことではないが、その傾向、教員間の差が最近広まっているのではないかと。今後を考えると大きな懸念材料である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 313 研究環境が良く研究資金が多い大学と研究環境が悪く研究資金が少ない大学、研究環境が良く研究資金が多い研究グループと研究環境が悪く研究資金が少ない研究グループ、の差(貧富の差)が大きくなってきているように思います。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 314 ばかばかしくて書く気になりません。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 315 研究資金が特定の研究機関並びに研究者に集中しすぎている。研究費のバラマキが良いとは思わないが、地方大学で成果を出している研究者にも資金がまわるようなシステムの構築が必要と感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 316 「選択と集中」は、総額が少ないことをごまかす方便だと思えます。状況を悪化させるだけと思えます。少額を広く配分する必要があると考えます。若手への助成は多いが、年配者への助成は殆どない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 317 学内の事務的仕事,管理業務が増大し,研究に当てる時間を確保するには,休日出勤や休息時間の削減などをせざるをえないのが現状である。大学教員に要求することが年々増加しているように思う。会議の削減などの小さな工夫だけでは,解消できない。研究資金を確保するための支援も十分ではない。また,大型施設を必要とする研究者のみを優先しているように感じる。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,女性)
- 318 公的研究資金の配分について,エフォート,重複申請の禁止などを謳っていても,一方で「選択と集中」の名のもと,いわゆる旧帝大に集中し,結果不要な箱物に支出されているように感じています。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,女性)
- 319 競争資金獲得のための申請書・報告書作成や実績作りのための仕事に忙殺され,本来の研究にかかる時間が圧迫されている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 320 欧米追従のテーマは採択されるが,日本が進んでいるテーマは,採択されないのみならず,優位性がないとのコメントすらされる。「日本発」とか言葉が躍るのみで,実際に日本発を実用化しようとすると,会社は支援せず,政府予算も付かずで日本発をやることは馬鹿らしいと感じている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 321 科学技術に関する政府予算については,いつも総額のみで議論がなされているように思われます。政府や省庁の方針として,選択と集中を進めてきたことの是非をきちんと検証すべきではないでしょうか。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 322 毎年要望しているが,4.2兆円の何パーセントを研究者が使っているのかを明らかにするべきである。相変わらず研究現場にお金が下りてこない。研究支援部門の件費や経常費,ICT環境整備や引っ越し,ハコ物(耐震工事など)に使われており,4.2兆円の何パーセントを研究者が使っているのかを明らかにするべきである。中国では教授・助教授・助手の口座に無条件で3億円おろてくるとのこと。勝てるわけがない。深刻なのは,研究者の時間が金で代替不能な研究資源として認識されていないことである。現状の研究者は競争的資金を得るために研究時間を失っており,競争的資金の研究費を与えた時には,研究のための時間は残されていない。もっとひどい環境も整いつつあり,〇〇〇にある某研究所は,安全管理や資格取得の勉強時間を共用され,研究時間を削られているようだ。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 323 科研費の採択率を上げていただいと聞いております。ありがたいことです。選択と集中ではなく,少額でよいので,多くの研究者に配分するとともに,プロポーザルではなく,論文の実績に対しての配分を求めます。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 324 競争的研究資金の採択率を高くし,研究を継続的に遂行できるようにしてほしい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 325 研究環境については,実験施設であれば大学予算の都合で老朽化していても修理することができない施設が存在する。また,練習船等運用に人員を要する部署では十分な人材が確保できていない。これらの理由によって研究を行える範囲が狭まり本来達成できるはずの成果を十分に得ることができないことも多い。そしてこれらの傾向は年々強まっていると感じられる。研究資金においても年々研究機関から配算される基盤的経費は少なくなっているのが全体的な傾向だと思われる。基本的に外部資金によって研究が行われることの方が多いため問題になる状況は少ないものの,所属研究機関からのサポートが少なくなっていくことは研究者の不安や不信を煽ることに繋がると考えられるため,この流れはどこかで変えていかないといけないと思われる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 326 政府系の競争的資金は非常に複雑であり,もう少し整理した方がいいのではという気がしてなりません。また,特定の研究者に配るためのものもあるように見え,そういうものほど複雑に運営しているように思います。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 327 実験系において,最低限の研究ができる研究費の確保が必要(つまりは運営交付金で)。その上で,その他の競争的資金獲得で,機器の購入をできるようにしてほしい。今では,科研費などを獲得しても,実験を行う最低限の試薬などに費やしているのが現状。これでは長期的な研究ができない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 328 本学では,学内資金から個人研究費は他大学に比べて多いようなことを耳にする。減らして外部資金の獲得を増やすように仕向けるような噂もあるようであるが,劇的な低減は研究者のモチベーションを下げることにのみ作用すると思われる。少し下げてもインセンティブを高く付与するのがよいやり方ではないかと思っている。大学や個人が使用している機器についても,共用化をはかった上で,機器保守や更新等に関わる政府からの予算措置が必要である。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 329 外部資金を取らないと最低限の卒業研究すらできないような状態は本来おかしいことで,運営費交付金の仕組み(教育・研究予算の別枠化など)を変えないといけない。また,間接経費は競争的資金を獲得できる研究者が初めて得られることを大学運営者は明確に認識して,そうした研究者に対するインセンティブを設けないと不公平。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 330 学生一人あたりの研究費が少なすぎて困っています。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 331 研究環境の更新が困難とされ,最新の研究動向を考慮した研究活動が行えない状況がある。また,研究活動以外の業務を実施する時間が多くなり,勤務時間の制約も課されていることから,研究成果のアウトプットに結び付けることが難しい状況も。科学研究費助成事業により研究支援をいただくこともあるが,期限があるため,長期的に戦略的な研究計画を立てて,遂行することも難しい。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 332 今後,教員の定年退職に伴う人員補充が円滑に行われぬ場合は,授業負担が重くなり研究時間を確保することが難しくなる可能性がある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 333 自由に使用できる予算は少ない(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 334 研究資金をいつまでも国が負担していくのは不健全なので,できるだけ様々な資金源の獲得を大学側が許す環境を構築していきたい。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)

- 335 研究資金は、持ちすぎなどところは、持ちすぎだと思う。研究資金がない研究室の学生(特に博士課程)は、気の毒である。研究環境は、上の一存で決まってしまうところは問題だと思う。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 336 知財は日本の財産であり、一番のサステイナブルな輸出品ともなる。このことに、政財界も気づかなければいけないと思う。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,女性)
- 337 科学研究費以外では、応用技術開発への偏重がさらに進んでいるように感じる。また、教育に係る必要最小限の基盤経費が担保されなくなってきており、応用技術研究の枠組みの中でしか教育(特に大学院)ができない状況が生じている。これが、若手研究者のある意味安易なテーマ選択(論文化しやすい内容)につながっているように感じられる。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 338 国の将来を見据えて伸ばしたい分野に重点的に研究費を配分するやり方は間違っていないと思う。そこから外れた分野はコソコソとするしかないが、少額でも研究費を獲得する努力は各研究者もするべきと思う。ただし、全体的に研究に当てる予算がわが国は少し少ないかもしれない。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 339 競争的資金の選択と集中は失敗していると考えます(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 340 人工知能研究が伸びている現在、研究者にGPU付きのクラウド環境を整備すべきだと思います。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 341 競争的ではない運営交付金などによる基盤的研究費を国立大学独法化以前の水準に戻していただきたい。私はまだ恵まれている方だが、他大学では学生の卒論研究も予算的にままならないことが多いようです。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 342 日本の研究成果の低迷は、研究予算の低下も一因だが、それ以上に大学改革等に起因する研究活動に直接関わらない業務量の増加も大きい。研究資金を獲得してもそれに見合う研究時間を確保できない。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 343 外部資金を得ている間は研究推進に問題ないが、なくなった場合は停滞すると予想される。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 344 他国のように日本の科学技術予算を増やしていけないことは理解する。問題は、科学技術予算の総額ではなく配分にあると思う。競争的資金を得るために、研究時間を削って申請書を書いている。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 345 研究時間の確保ができない。それを補うリサーチャーを雇う予算がとれず、また学生を研究サポートできるまで教育する時間も取れない。さらに大学の研究室運営予算はルールで雇用ができない。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 346 学生対応が中心で、研究に割り当てる時間がまったくない。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 347 政府の発表している数字と研究現場の状況との乖離が大きく、改善のための基本的な現状把握が難しい状態に陥っている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 348 AMEDやNEDOなどの政府主導型研究費は、研究者仲間の中では、「毒饅頭」と呼ばれています。これらの研究費は獲得しないと研究者雇用が出来ないため、獲得に向けて努力をしますが、短い研究期間で、目的とする成果を出すことはほぼ不可能です。むしろ、JSTの基盤研究を主体とする科学研究費事業の拡大が好ましいと考えます。また、本国は若手研究者の育成を謳っていますが、彼らが中堅研究者(40代後半-50歳代前半)になると研究費の獲得が極めて困難になってきます。そのため、国力を支える中堅研究者が伸び悩んでいるのが実情でしょう。非常に細かい話ですが、基盤研究Cの採択率を現状の30%から、40%程度にまで引き上げる。あるいは、研究予算を上限500万円では無く、1000万円程度にまで引き上げることで、自力のある中堅研究者の研究活動は伸びると予想します。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 349 学内の研究施設・設備の老朽化が目立つ、また研究情報基盤が縮小され、使いにくくなっている。間接経費が適切に使われているか、不透明である。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 350 競争的研究資金は、特定の研究機関・研究者に集中配分するのではなく、もっと幅広い研究機関・研究者に配分すべき。現状の問題が進行すると、特定の研究機関しか研究できない様になってしまう。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 351 研究を活性化するためには、資金が必要と考える。競争的な資金も必要ですが非競争的資金も活性化のためには必要と考える。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 352 資源のない国で人口減少が顕在化しているのだから、無から有を生じるためには、勉強・研究をするしかない。カウントできる目先の研究成果がないとダメだという方向性は、これだけ多くの有力者が発言しているのに、変化が感じられない。アジアの中での相対的な位置づけは確実に下がっている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 353 年々雑用が多くなり、研究に割く時間が少なくなっている。特に教育関係の業務が多い。私は医学部医学科所属なので、postCC OSCE や臨床実習の延長に伴う業務、年々多くなる問題を抱える学生への対応など。診療関係でも周辺業務(患者サービス関連業務など)が多くなり、研究でも倫理審査が厳しくなり、何か研究を思いついてから始められるのが半年後である。運営費交付金も減少の一途をたどり、日本発の論文数が減るのは当然と思う。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 354 大学から講座に分配される資金は減少傾向にあり、科研費などの外部資金が獲得できないと、本当に研究活動が出来ない。研究面では、次世代シーケンサーなど出来ることが増えた反面、試薬など消耗品の単価は上昇しています。このため、今まで以上に科研費取得に過大なストレスを感じます。反面、論文が無い人でも科研費獲得に成功できる場合があるなど、判断基準の透明性は不十分ではないでしょうか。さらに教育活動にかかる時間や要求される事項が増えており、通常業務時間内で研究者自身が手を動かす時間の確保が難しいため、必然的に業務超過となります。昨今の就職状況改善により学生は大学院へ進学しない。このため、実験データをコンスタントに出せるのはスタッフのみとなる。スタッフの労働状況を見て、さらに進学率が低下する悪循環が発生しています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 355 上述しましたが、購読ジャーナルの数が非常に少なくなっており、関連論文をきちんと把握するのが困難になってきている。学生の教育面でも問題であるし、研究面でも特に論文執筆の際に問題がある。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 356 研究資金分配についての平等という不平等について現実のみてきているので、何でも平等という意見は持たないが、あまりにもトピック的な研究に傾斜している感がある。資金分配審査員のみる目の力量が試されており、かつその審査員選定者の力量も問われる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 357 海外学術雑誌の高騰について、日本国全体としての対策・取り組みが必要。このままでは資金力のない地方大・中小大学では、一層アクセスが困難になる。日本の大学全体でコンソーシアムを形成して、海外出版社に対抗するために、文科省なり学術振興会なりのさらなる積極的イニシアティブが求められる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 358 競争的資金以外に、大学からベーシックな研究費を一定以上配ることを義務化できないでしょうか。大学にはいろいろなレベルのものがあ、そこにはいろいろな学力の教員が居ます。業績のある人が研究資金を総取りしてしまうと、学力がそれほどない大学教員の仕事が面白いものになりません。例えば大概の人は学会出張を自腹で行うことはできず、彼らの視野が狭くなっていきます。もう少し研究者が研究者らしく生きるためのベーシックな研究費が配られても良いのではないのでしょうか。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 359 不可能だと思いますが、各研究者の個性がいかせるような研究環境が構築されると良いと思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 360 相変わらず一部の研究室や研究者に使いきれないほどの研究資金が集中している。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 361 予算の集中化を防ぐとしつつも、実際には集中しており、このままでは研究の多様化は期待もできず、我が国の基礎研究の裾野が広がるはずもない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 362 各教員(研究者)がバラバラに活動している。特定のグループは分野横断的に活動しているが、なかなか大きな成果には至っていないと思われる。実験を行う人をそれなりに確保しているラボは、外国人留学生に大きく依存している。研究費が採択されても、実際に実験を行う人材がいなくて、成果が出ないこともある。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 363 本学の医学部所属の教員については間接経費の獲得に対して何らインセンティブになっていない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 364 選択と集中は必要だが、裾野の荒廃は日本全体の研究のレベル低下につながると思う。全体が安定してこそ、若者が研究者を目指しやすくなると思われる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 365 一部の研究施設や研究者に研究費が集中していることは確かだと思う。ちゃんと費用対効果を算出して明らかにしてほしい。経過を評価して追加配分する方式を科研費などにも導入してほしい。臨床の人が獲得した基礎研究費が不適切に使われている例は、身近でもたくさん知っている。それをしっかり管理できていない大学が問題なのだが、獲得実績をあげるのに必死なので、報告をしっかりと評価して、以後の研究費の採択に影響が出るような方式にしないと、この手の意味ない研究費の申請を止めるのは無理だと思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 366 日本は少子化で、国力も横ばいか衰退すると思われるが、勤勉な国民性というのは、非常に貴重な資源であり、これを活かして、国を盛り上げて(または現状を維持して)いくことを、本気で考えるべきだと思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 367 研究環境として、地方公立大学にはリサーチ・アドミニストレータは存在せず、その仕事も研究者本人が行っています。研究資金はアメリカ等と比べて桁違いに少ないため、同等の業績はできません。50年前のアポロ計画で十数兆円規模です。現在の日本では、50年前のアメリカにも遠く及びません。したがって欧米諸国と同じ制度を導入するのではなく、日本独自の研究制度創設こそが生き残る唯一の道だと思います。日本の大型研究を充実しても資金面では欧米にはかないませんので、むしろ小型研究を充実すべきです。そのために科研費基盤D(Cよりさらに少額)の設立を提案いたします。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 368 研究に当てる研究資金を減ると、中国などの今現在、莫大な資金を研究開発費に充てている国々に日本は近い将来、大きな溝を開けられる事になるでしょう。例えば、最近では日本からノーベル賞の受賞者が立て続けに出っていますが、我々の世代は人生常に経済的な氷河期にあり、これらの栄光を途絶えさせると思います。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 369 科学技術に関する政府予算の総額に関しては、状況を考えて、分かるが、その配分に関しては、今だ不満は残る。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 370 大学をはじめとする研究機関の間で研究環境や資金の較差が大きいため、不十分な機関では、研究にとりかかるモチベーションが喚起されない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 371 大学が自由に研究できる環境は、地方大学はかなり厳しいように思います。必要がないなら研究より教育にシフトチェンジもできますが、資金調達を自由にさせない体制のなか、研究業績、国際研究の業績はだせという圧力に加え、社会貢献としての活動を増やせなどまともに対応していると教員は疲弊するので、聞き流す風潮ができ、結局、志気が下がるため返ってマイナスではないかと思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 372 偏った研究のみ推進しがちなプロジェクト型の大型予算を削って、基盤研究などの一般的な予算への振り替えが急務。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 373 実績主義、仲良しグループが公的研究資金を囲い込んでいて、公平性がないがしろにされている。実績のある有名人に有利な状況が続いている。大型資金のプロジェクトに参加する研究者は普通の文部科研費に応募を遠慮するくらいの配慮があってもいいと思われる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 374 研究設備等の老朽化が進んでいるにもかかわらず、運営費交付金が減少してきているため、メンテナンス費用等のため、研究費を削減せざるを得ない。その結果、新しい研究に取り組む余裕がなくなっている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 375 環境も資金も十分とは言えない。国はわが国の置かれた状況(「科学技術立国」としてしか世界に伍していく道はないという)を十二分に理解して、研究環境および研究資金にもっと予算を付けるべき。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)

- 376 運営費交付金は研究機関の基盤経費としての役割を果たしている。大学法人化以降は、減額されていく運営費交付金と外部資金の間接経費との合算が、基盤経費となり、各研究機関の底支えとなっている。外部資金は毎年その獲得額の変動が大きいため、長期的な基盤整備がままならない。単年度会計で全てを片付けるだけでなく、近年では計画繰越がある程度認められるようになってきたが、人件費などの日常経費としての繰越への自由度の拡大が望まれる。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,女性)
- 377 研究資金について、科研費などの自由な発想による研究を支えている資金が必要。出口を求める事業が多く、一部の分野・一部の研究者に研究費が偏る傾向がある。そのため、豊富な研究費を持つ一部の研究者と研究費が十分でない研究者に分かれる傾向があるのではないのか？一部の大学を除いて、特に地方の大学における研究環境が著しく劣化しているため、優秀な研究者が地方では業績を上げにくい環境になっているとともに、若手研究者が地方大学にポジションを取りにくいことが躊躇される場合も見受けられる。若手研究者のポジションを確保する意味でも、地方大学においても研究ができる環境を整備することが重要である。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 378 これまで何度も言われてきたように、外部資金に頼った研究環境では、性急な結果のみを求めやすく、長期的な視野に立った基礎研究は成立しにくいし、後継者育成もままならない。無用な競争により、自由な発想がそがれ、かつ申請書や報告書作成のために多くの時間を割くことになり、まさに本末転倒である。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 379 基盤的研究資金の目減りを防がないと基礎的研究は危機的状況となることを危惧している(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 380 短期的な成果ばかりが求められているのが残念である。時間のかかる研究をサポートするメカニズムが不足している。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 381 運営費の削減について、大学と文科省はもっと対話をするべき。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 382 研究資金は、多くは人に当てられるべきと考えるが、その人材確保・育成がちゃんとできておらず、結果として研究資金が有効に使われているのか疑問と感じることがある。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 383 成果を求める一方で労働時間を減らすようにとの要請があり矛盾する。事務書類についてはできるだけ電子化して効率よくしてほしい。科研費などの公募型の研究については地道な研究は評価の対象とされにくい。また、成果の評価が不十分で、失敗してもよいと謳っているため必ずしも適切な配分になっていない可能性がある。また、大学や研究所において社会へのアピールの重要性を強調しすぎる。本来、研究は地道な研究を長期間継続することが成果につながる。アメリカ的な短期間での成果を強調しすぎると地道で重要な研究ができなくなる。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 384 日本の研究機関にもリサーチ・アドミニストレーター(URA)が根付いてきたことは良いことである。しかし、彼らは基本的には有期雇用であり、待遇は十分とは言えない。博士号保有者の一つのキャリアパスとして確立することが望ましい。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 385 (208関係)オープンアクセス化は本当に必要なのか、議論が十分であるとは思えない。海外の出版社を利することに終わっていないか、検証が必要と感じる。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 386 技術は集中、科学にはばら撒きと研究予算のうまい利用の仕方を実施するべき。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 387 外部資金が増えているので、運交金は減っているが、総額では大きく研究資金が減っていないように感じる。しかし、外部資金での研究効率は、運交金に比べて格段に低く、あまりにも無駄が多すぎて、多くの研究者にとっては研究資金総額が減っているように感じるのではないのか。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 388 運営費交付金の繰越がこれまで以上に柔軟に行えるようになってほしい。補助金の繰越が行えるようになってほしい。会計業務全般的に単年度決裁の限界がきている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 389 外部資金獲得が前提でないと研究活動ができないことは問題であるが、それ以上の問題は、外部資金(特に産学連携)を獲得すると、それ以上に余分な仕事が増え、逆に研究時間が減ってしまい、成果が出せなくなる。これなら起業して実験機やソフト開発をし、企業に売った方が理にかなっている。しかし、大学において行う研究活動は、儲からずとも価値のある学術を創出し、かつ、若手人材の教育にも資するものであるべきであろう。であるならば、産学連携の推進は行き過ぎると我が国の学術基盤を衰退させてしまうのではないかと心配する。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 390 場当たりのでなく(単なる揺り戻しではなく)、本質的に目指す理想の方向を議論して欲しい。その実現のためにはどう資金配分が必要か、という順番で議論すべき。単に今研究資金を得られていない人にも配れるように、というのではFunding Agencyからも国民からも理解は得られないと思う。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 391 研究者からは所属機関が間接経費をどのように使っているのか？わからない。外部資金が特定の研究遂行を支援するという主旨を考えると、間接経費を最小限に留め、直接経費をできる限り大きくすることが良いと考える。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 392 せっかくの立派な機器も十分なメンテナンスや使いこなすスタッフなしでは動かないが、そうした技術者の雇用やランニングコストを削減してしまうために十分に活用できていないように感じる。技術者の雇用が最も不足している部分だと思う。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)
- 393 研究費については、使い道に困るくらい余っている場所もあれば必要額をまかなえていない場所もあり、アンバランスだと感じる(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,女性)
- 394 公募型研究費をドラスティックに増やすべき。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 395 ボトムアップ的研究資金の減少が続いているように思われる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 396 国際性を高めて海外からも獲得すべきである。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)

- 397 政府からの運営費交付金が一律に削減され続けている悪影響が、顕在化し始めています。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
- 398 日本全体として施設の更新が進まず, 老朽化が進行しているため, 早急な対策が必要である。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
- 399 あまりにも偏った研究費の配分が行われている。再生医療やiPSなど直近の成果を求めすぎた研究への研究助成が行われすぎている。生物学の本質に取り組む基礎的研究への配慮が欠落している。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
- 400 研究者が長期的な展望をもって, 革新的な成果を目指すためには, 研究環境や研究資金について, 継続性や予測性をもっと重視するべき。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 401 法人の運営費交付金が減額されている状況では, 研究環境の維持・保守費がほとんどを占め, 研究資金は外部資金に頼らざるを得ない状況。外部資金では, 法人としての特徴を出しにくい。法人裁量がある研究資金の確保が課題。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 402 ピアレビューの寄らないテーマが決まっている戦略的研究資金については, かならずしも競争的である必要はないかもしれない。政策などの都合で, アワードのような格好で資金を配分することで, プロポーザルの準備にかかる時間の削減や, さまざまな事務コストの低減がはかれることはないだろうか。プロポーザルや資金獲得のための準備が前提の整理や説明責任に資する面はあるだろうが, 必ずしも生産性の向上に有益とは言えない。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 403 施設の老朽化に伴う高経年化対策や, 原子力に係る新規規制基準対応費, バックエンド対策に係る経費が増大傾向にある中, 予算は減少傾向のため, 研究資金が大きく減少し, もっぱら外部資金に依存する状況となっている。また, 保安活動の負担が増えつつあり, 研究環境は悪化傾向。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 404 ○○○研究学園都市在住の研究機関はどこも老朽化が著しくリニューアルが必要(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 405 公的試験研究機関の運営費交付金は年々確実に減少し, 老朽化した施設への修繕等についても十分にできない状況にあります。また, 行政から求められる業務は増し, そこへのエフォートも強化されている印象を受けます。このため, 将来の研究の発展につながる基礎的研究が行いにくい状況になっています。運営費交付金の増額と行政対応研究だけでなく基礎的研究も実施しやすいマネジメントが必要に思われます。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 406 基礎的研究への投資が, 政府予算のみならず民間の予算においても, 削減基調となっていることは, この20年程度変わらない。このため, 知識の蓄積ができておらず, そのため, 今後大きな成果が出にくくなるのではないかと危惧する。上記は「選択と集中」という大方針に従った結果であり, 近年の学術論文の量と質が, 先進各国の中で特に低調となっていることにつながっている。この因果関係は各種の統計から明らかであり, 一刻も早く方針転換を行うべきである。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 407 組織としての研究費総額は先細りの状況であり, 各部署とも現在進めているプロジェクト以上のことに着手する余裕が殆どない状況である。研究機器や施設の陳腐化や老朽化も徐々に進んでおり, 今後のことを考えると不安が尽きない。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 408 人頭研究費的な基盤的経費が過度に抑えられているように感じる。ある程度には全く自由な研究費を担保しておかないと, 先々に花開くような研究の芽が育たないのではないかと。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 409 研究資金を特定の研究者に傾斜しすぎ。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 410 競争的研究資金に改善はみられるが, 大型のものは社会実装に重きがおかれ, 依然として基礎研究とのバランスがとれていないように見受けられる。また, こうした予算が新規プロジェクトに偏り, 実験装置の維持・管理に使われる運営費の減少は依然として続いている。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 411 もちろんどういう立場で何を指すのかによると思うが, 例えば○○○○から切り離された○○での量子ビーム研究は原子力技術の側面を気にしなくて良くなったということもあり, 予算が少なくなることは当然であると考え。むしろ研究機関としてはプラットフォームを持っているわけで大学に比べれば恵まれている。この状況で成果を挙げるのはやはり研究者各々の持っているものであって, 環境は十分に存在していると思う。予算は必要であるが, 予算をつければブレイクスルーが可能になるわけでは決していない。適材適所を見極めることが極めて重要と思う。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 412 研究費の使用制限が厳しい。また, おなじような書類を何度も書く必要があり, 書類作成に忙殺されている。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 413 上記の通り, 間接経費は, 実質的に機関の運営費に化けている。そのため, プロジェクトを獲得してもますます多忙になるだけである。機関の運営費を増やすだけでなく, 間接経費の一定割合以上が強制的に研究室に直接配分されるようにすべきではないか?(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 414 競争的資金など, 研究者へのサポートは十分すぎるほどある。しかし, 役に立たなさそうな基礎研究への投資が少なすぎる。これは, 将来の日本の科学を考えた際に, 極めて危惧すべきことと思う。欧米諸国の動向を追ったような競争的資金の配分ではなく, 日本人が最も特徴を出せる「基礎科学」にこそ, ある程度の予算を配分すべきと考える。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 415 競争的資金が十分機能しているとは思えない。その理由は, 1. 評価が不適切: 研究開発は短期ではなかなか最後まで完遂できないが, うまくいったというニュアンスの報告書が義務づけられる傾向。2. 役所主導の領域, 分野設定: かなり偏っている。健全な科学の発展は, 自由で多様な発想や視点から出てくる物であって, トップダウンでガイドできるとは到底考えられない。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
- 416 科学技術関係予算の総額が確保されていても, それを得るために必要となる予算申請・評価に膨大な手間と時間がとられている。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)

- 417 長期的に取り組む必要のある研究や基礎的・基盤的な研究に対して配分可能な研究資金が年々減少してきている。研究開発法人においては成果の社会実装に直結する研究開発(というか事業活動)に重きをおく結果として、将来への投資に回す研究資金が著しく減少している(この10年)。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 418 研究員が研究に専念できる時間が、非常に少なくなりつつある。それは、かつては管理を司る上位職の宿命・傾向であったが、30-40代の研究の主力世代にまで及んでおり、生産性を著しく低下させていると思われる。最近では、いろいろ取り組んだり、巻き込むのが良いのではなく、彼らを「放っておく」「ゆっくと時間を与える」のが、実は最も良いのだと感じるようになった。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 419 コテコテの基礎研究に対する研究費(申請項目)が科研費だけでは寂しいです。AMEDでも枠組みを作るべきです。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 420 特に若手研究者には、基盤的経費(機関の内部研究費等)を十分確保し、競争的資金応募にかかる時間を少なくし、研究時間を確保させてあげたい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 421 研究は何があたるかわからないところもあるので、基盤的な予算は幅広く配分すべき。内閣府主導のプロジェクトはかなりのびつな予算配分に拍車をかけている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 422 設備はおよそ十分だが、それをフル回転させるための人員・人材が不足している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 423 金額的にもやや不足しているが、予算配分のコンセプトを再考するべき時期に来ている。国全体の科学技術関係予算のうちで政府関係予算の比率が少ないこと、他の国に比べてGDP自体の伸び低下から金額が伸びないことから、安定した研究費全体が不足の状況であろう。間接経費については増加する方向だが、総額にキャップが有るので、間接経費増＝直接経費減となっているので残念。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 424 研究者がコンプライアンス関係にケアしすぎると新しい研究自体がしにくくなる。新しい実験手順、新しい試薬もやりにくくなる。研究者が精神的に保守的になっていることが深く懸念される。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 425 一部の資金については、年度繰り越しができないなどで、使い勝手が良くない場合がある。もう少し柔軟なシステムを国全体で構築する必要がある。また、同じテーマを複数の機関から資金提供可能なマルチファンディングを導入してもよいのでは。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 426 面白い取り組みに対して、研究資金を出す余力がなくなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 427 運営費交付金が将来に向けて際限なく削減されるのは、研究が衰退するようになる。どこかで下げ止まりが必要かと思われる。必要かどうかは、税金なので一度国民に問うても良いと思う。若手から中堅に掛けて競争的資金の確保が非常に難しいので、その辺りの公募も増えると良いと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 428 事業的な科学予算よりも、科研費のような基礎研究を対象とした広く浅い科学予算を相対的に拡充させることが必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 429 日本は特に研究に係る管理、そのほかの周辺の雑用が多すぎ、研究者が研究に集中できていない。規定なども不必要に細かすぎ、その管理に事務要員ですら忙殺されている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 430 研究費が使いにくい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 431 研究者が研究に没頭できるよう研究資金も含めたさらなる環境整備が必要だと考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 432 広く、薄く～はバラマキとして嫌われ、一定のシナリオに沿った拠点に集中しがちだが、バラマキの中から跳ねる技術が生まれることも仕組みの中に考慮しておくべきでは(ナショナルイノベーションシステムとして)(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 433 国立大学の運営費交付金は削減し過ぎ。競争的資金を獲得しなくても最低限の研究が保障される額が必要。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 434 大学の研究資金は競争的資金の比率が上昇しており、探索的な費用(研究室に配分される研究費)が乏しいと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 435 科学技術政策の視点に、雇用対策の視点を加え、大学・研究機関がより多くの研究人材を雇用できるようにすることが必要と思われる。当面、任期付きでよく、雇用枠を拡大し、大学・研究機関の内部競争を厳しくし、その結果、成果が拡大された場合、成果に応じて任期無し雇用枠を拡大する、という流れも必要である。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 436 原資はある程度確保されていると思うが、期間を決めて成果を出さなければならない環境であるため、研究環境としては良くない。長期的な視点で、研究者の育成を含めて大きな成果が出るような環境が望まれる。ノーベル賞の受賞者はほとんどの方が、日本の環境研究や研究資金の現状について意見を述べられている。これらの方々の意見を尊重すべきである。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 437 ・研究資金は、諸外国の伸びと比べても、かなり見劣りする。将来への投資であり、諸外国との競争に勝たなければ我が国が食べていけないので、諸外国並みには投資を伸ばすべき。・共用設備や機器など、取り組みは始まっているが、大学の付置研などの改組なども含め、大胆な取り組みを行うべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 438 ポピュリズムにかたよりがちな予算配分は、基礎より応用にかたよりがち。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 439 社会保障とのバランスなど政府予算には限界があり、大きな伸びが見込めないことから、内部留保の大きい民間資金を大学等に回す仕組み(税制,寄附,共同研究促進等)をさらに充実すべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

- 440 将来応用を目指す研究については予算がつくようになった。しかしその評価が十分でないで、上手くゆかない研究者がまた大きな研究費を獲得している。特に有名大学、研究を成功させた、研究者については十分な予算付けをしても良いが、そうでない場合は別の研究者にその経費を回すべき。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 441 研究環境・資金について大学間格差が非常に激しくなっている。指定国立大学やWPIなどの大型の資金が確保された大学では、各研究者の研究資金の確保についても好循環が生まれる一方、施設として研究環境に恵まれない機関では、各研究者が行う申請についてもなかなか採択されないなど厳しい状況にある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
- 442 競争的研究資金審査の枠組みは若手審査員の加入など一部で改善されているが、特に省庁が主体となる科学研究費は、永らく研究を実施しない元研究者が審査が主体となる場合が多く、科学性特に先端性が低くなる傾向がある。公的研究機関は設備が老朽化しているが、修繕・撤去の費用が不足し改善の見込みがなく、効率的な研究推進に支障がある。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 443 交付金が減っていることが問題でないとはいわないが、国立大学の場合は特に、法人化により独自経営をすることを求められてきており、それに対応してきていたかどうか、いまの研究環境と競争的資金獲得ができてきているかどうかの結果につながっているように思われる。ただ、私立大学の場合は、少し勝手が違うように思う。(公的研究機関、部長・教授等クラス、女性)
- 444 定年後の研究者でマネジメントが可能なる人を高い給与で雇用してマネジメントをしてもらうなど、若手研究者にマネジメントの負担をかけずに回す仕組みを作るべき。現在は、「若手の活躍」として若手を前面に出そうというコンセプトのもと(たとえば、今年からの新学術)、実際は、若手の研究者をマネジメントの負担を増やして結局は研究ができなくなってしまうという逆効果が多い。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 445 計量標準への予算の配算が、全く足りていない。研究開発だけでなく、標準量を維持し・供給していくための費用が掛かることが理解されておらず、苦労している。有期の技術員との契約が済んだ後に、人件費が配算されないという出鱈目な事態が起こり、研究費として使うはずだった800万円を人件費に回したため、研究が行えなくなった。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 446 一般的に言って、特に大学では交付金の額が少なすぎる。競争的資金に偏りすぎ。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 447 競争的資金の申請書を書くことに労力がかかりすぎるため、論文執筆の時間が圧迫されている(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 448 研究者が事務も行うという環境の改善が悪化しており、十分な研究時間が確保できていない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 449 基盤的研究費が不足しており、公募型研究費を獲得しないと研究だけでなく研究成果の発表もままならない状態になりつつある。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 450 人員は限られているのに、事務仕事、雑務が増えており、研究に割く時間が少ない。研究資金が不十分であることも問題であるが、研究者が純粹に研究する時間をもてないことが大きな問題であると感ずる。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 451 研究環境や研究資金等を整備しても、研究をしない研究者は研究しない。組織が適性の低い研究者を解雇・降格等できるような仕組みが必要。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 452 契約や予算管理のための事務系の人材確保は必要。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 453 欧米、中国に比べて、研究者の熱意・自由な発想にもとづく基礎研究に投下される資金があまりにも少ない。これが、GDP世界2位の先進国とは思えない。研究本館の雨漏りを修繕する費用もなく、電気代を節約するために、様々な施設の使用自粛など、とてもお粗末、発展途上国並みの環境。これで、世界とどうやって伍するの理解不能。物品は発注してから、手元に届くまで、1カ月半もかかるのは当たり前。どうやって、日進月歩の中国勢と戦えば良いのか? 「科学技術立国」というのは幻想にすぎない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 454 相変わらず少数のテーマに集中的に資金を投入しているが、研究の裾野を広げないと人材の育成が進まないし、次のイノベーションの種も生まれない。研究データの公開が進められているが、データを探った人が論文を書くまでの間は待つべきである。そうしないと、現場でデータを探る人が研究者として生き残れず、今後のその分野の人材育成も滞る。現場でデータを探ることが科学の基盤であり、華々しい成果はその上にこそ花開くものである。現場でデータを探る研究は一般に時間がかかり、論文の生産数が少なくなる(インパクトファクターも低くなる)傾向があるが、だからといってそこを軽視しては今後の科学の発展はない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 455 施設・設備・雇用の維持のための基本的な予算が全く足りていない。大型プロジェクト予算ができるのはかまわないが、予算の「純増」で対応すべき。経常的予算が事務手続き等の手間ばかりかかるプロジェクト予算に化けているのが現状。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 456 外国の研究者と話をしていると、研究者に一律に割り当てられる研究費が潤沢で、このままでは科学技術力に大きな差がついてくるのではないかと心配になる。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 457 間接経費が、研究者に配分されないため、当該の研究に必要な間接経費購入でしか購入できない物品を買うことができない。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 458 研究員が研究に専念できる環境を整える必要があります。留学先では、研究員、テクニカルスタッフ、事務スタッフ、ITスタッフがそれぞれ独立して存在し、一人一人が自分の役割にプライドを持って仕事をしていました。研究員が上(偉い)、テクニカルスタッフが下、といった見方がないからこそ可能なことかもしれない、日本の従来の文化にも関連することなので、一足飛びに解決可能とは思いませんが、外国のそういった状況は羨ましいと感じました。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、女性)

- 459 当方の所属機関では、予算は年々減少してはいるものの、比較的恵まれているほうだと思う。問題はその使い方にあると思う。予算があるために無駄使いが増えたり、一方で必要などころに回らなかつたりしている。ルールを厳しくすれば防げるかもしれないが、使い勝手が悪くなりスピード感も無くなるというジレンマに陥る。研究者のモラルに依存しているのが現状。モラルの低い人間が問題を起こすたびにルールが厳しくなり、そのしわ寄せを食らうのは多くのまじめな人間。問題を起こさなくても無駄遣いを続ける限り、そのしわ寄せを食らうのはやはりまじめにやっている研究者である。研究者のモラル教育やチェック体制を厳しくすべきと思う。(特に予算権限のある職位の高い人間に対して)(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 460 運営費交付金が圧倒的に少ない。基盤的研究には競争的資金が十分に行き渡らなくなっているため、年を追う毎に明らかに日本の基礎科学技術が弱体化している。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 461 研究資金は、公的のものがほとんどで、支出する際手続きが年々慎重になるのはある程度理解できます。ただ、あまりにも手続きが煩雑になると、研究者の時間を大幅に制限することも理解して欲しいです。そのための手続きを行う人員を配置するのもかなりハードルが高いと思います。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 462 政府主導があってもよいが、数十年後にブレークスルーを生み出すような研究は、応用直結でもなく、わかりきった基礎科学でもない。科学界の裾野の隅々まで行き渡る研究資金で、研究者に自由な研究をさせるべき。科研費の割合をあげること、研究につかえる交付金を増やすべき。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 463 カナダCIFARのような、長期的な研究者育成のための資金が日本にはない。深層学習の開発など非常に少ない経費で長期的に大きな成果を出しているため検討すべき。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 464 成果・社会貢献など、目先の利益ばかりを求めるような制度を研究環境に取り入れたことによるデメリットは大きい。確実な成果を求めるといことは、想像の範囲内での研究をすることを意味する。確実に小さな発展はあっても、ブレークスルーは起きない。有能な研究者はPIとなって、人件費と研究費を確保するために研究する時間が取れず、有能な研究者が活躍する機会を奪っている。マネジメント業務を支える、専門性を持った人材にポストを与え、優秀な研究者が研究に従事できる環境が必要であるとともに、最後まで現役の研究者でいられる仕組みが必要である。今は、有能な人ほど、年齢とともに研究時間が減っていく。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 女性)
- 465 研究資金が研究者に大部分配布されるように、研究施設を持たない研究機関は組織を縮小し、単に資金管理のみを業務とすることにより、その分の資金が大学や本当に研究を行う研究機関により多く配分されるようにする方が良い。(公的研究機関, その他, 女性)
- 466 研究環境に関して：予算の縮減に伴い、効率化のみが求められている(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 467 教育, 研究, 企業支援, それぞれを分けて評価すべきだし, それぞれに適切な先生を分業させるべき(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 468 研究資金的な補助金制度を全て競争的研究資金等の枠組みに当てはめようとするのは無理がある。全て枠組みを揃えようとし過ぎるがため、補充ルール等が増えて、マニュアルが複雑になり、わかりづらく読む気が起こらない。報告書, 計画書, 事後評価・・・本来の研究以外の雑用・雑務に割く時間が多すぎて、無駄の固まりだと感じる。単年度会計, 予算消化主義の弊害。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 469 事業化を目指す研究と基礎研究とでは時間的な違いがあるので、これらを分けて資金等を割り振るべし。すでに試みられているかもしれない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 470 日本社会はまだ貧しいのだろうか、基礎研究への取り組み姿勢が弱い。南極観測ひとつとっても、他国に比べて年に一回しか物資供給ができないなどと言う状況だ。せめて飛行場設置ぐらいはすべきだ。研究政策を議論する政治家も理系大学院教育を経験したこともないものが多く、研究の意味も理解していないだろう。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 471 公的成果物のオープン性が複数の大学, 研究者が存在する場合, 実質活用できないし, 時間がかかる。成果の帰属を公的資金元に行かないか?(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 472 短期の成果を求めるテーマに資金が集中しすぎている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 473 研究資金については未来の投資であると考え、国債を大胆に発行するなどして予算規模を大幅に拡大すべきだと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 474 現在国からの支援が少ない。特に法人化後の大学の資金不足は深刻であり、大学での自由研究が少ない。文部科学省の方針が間違っているのか/国策に不備がある。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 475 ノーベル賞の受賞者の言葉『基礎研究が大事, や, 基礎研究が危機に瀕している』を開き流すことは将来のノーベル賞受賞のチャンスの芽を摘み取ることに他ならない。教育機関への配布予算の削減に歯止めを掛ける勇気を政策執行者に持っていただきたい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 476 海外に比べて、研究資金の使用に対する自由度が小さい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 477 もともと日本が進んでいた半導体, 液晶パネル, ソラーパネル, 電池 等は近年、韓国や中国企業に技術レベルでも後れを取っている。日本の企業の研究開発投資や設備投資が海外企業に後れを取っている面が大きい。政府のバックアップも全く不十分と思われる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 478 日本の研究環境は決して悪くはないが、良い研究に適切な費用を付与していないように思えます。ピアレビューを徹底すること、挑戦的な研究テーマに対する理解、支援は必ずしも大きな費用を必要としないと思う。基盤整備という言葉で簡単にかたずけるのではなく、有能な人材の発掘方法を原点にかえて考えるべき。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 479 資金にバラツキが発生しているように思えます。少子化の問題とも合わせ、研究室をある程度統合するなどして、基礎的な研究費を賄い、競争力のある研究には一層の予算を付けるなどのメリハリが必要と思う。計画と結果については、応援する部分と評価をしっかりと部分に分けて、取り組みを評価する必要がある。一方で誤った圧力により偽りの発表などに進まないように監視する必要がある。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)

- わが国の研究者、毎年ノーベル賞を戴く環境は、継続的な基礎研究の賜物ではある。○○○,○○,○○○などの民間研究者が表彰されている。要は50年前くらい、新しい研究領域に挑戦できるしっかりとした評価系、評価者が居たのが大きい。多くは○○大学から輩出されているが、いち早く諸外国の情報の入手を役割とする○○大学と、課題を内製化して取り組む○○大学との取り組み方の違い
- 480 かもしれない。予算が単年度化している現在、研究環境を左右する評価系人材の多様化を図る、評価系人材の育成も含めて考えていくべきと思う。公募のアプローチに時間がかけさせ、何故不採択になったかの説明が不十分であれば、競争的資金獲得に意欲を示す研究者もいないのではと思います。採択が、横並びにならないか、評価の方法も多様にしなくては。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 481 研究資金などの配布が一部の研究者グループによって支配されている。研究内容などを公平に審査できる人材が不足している。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 482 韓国や中国などの状況と、国内の状況を具体的な金額や進捗を挙げて、一般の方々に大々的に報告すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 483 小さい会社には事務手続き上、使いにくい(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 484 実用化など分かり易い評価に偏りがちで、独創的なアプローチ、基礎基盤研究への支援が薄くなっている印象。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 485 ある若手教員に尋ねたところ教授と同じだけの授業を持たされているらしく、しわ寄せは弱い方へ行くという例を垣間見た。教授も自分の時間確保に必死なのだろうけれども。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 486 資金の分配の仕方、決定方法については「結果や効果のある」適正な分配になっていない領域もあると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 487 競争的研究資金以外の研究資金が大幅に減少し、研究の継続性に支障をきたしているとの話を良く耳にします。これは望ましくない状況と思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 488 継続している国家支援の研究プロジェクトで年ごとに予算が減額されている案件が散見される。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 489 一面しか見ていませんが、使い方、使わせ方に無理、無駄があるように思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 490 もっと強化・充実させるべき。このままでは他国からも取り残されていく。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 491 科学技術立国を目指すのであれば、GDP比率をもっと上げるようなことが必要ではないか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 492 諸外国に比べ、陳腐化が進んでいるように思える。量子コンピュータの導入計画等、次世代に大きな影響を及ぼすテーマもあるが規模感が乏しすぎる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 493 国の科学技術予算は、もっと増やすべきだと思う。まず、研究基盤を安定させなければ、その結果としての研究成果も期待できない。研究に集中できる環境をもっと増やすべきだと思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 494 公的資金で生み出した知的財産、基盤、データベースが、様々な制約によって活用されていない。外部の学術研究機関や民間企業が活発に利用する仕掛けが必要。活用させることに対する対価を得て、運営の持続性、発展性を確保できる仕掛け作りが急務。また、競争的研究資金で、研究者の人件費を充分にとつて、大学院生がアルバイトなどせずに研究に従事できるようにすべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 495 宇宙開発やAI、衛星技術などは一般企業が自分のためにすること以外に国として国民、企業のために役立つことを国の予算を使って開発してくれることは意義がある。しかし、マーケットで世界的問題として起きている廃プラスチック問題や、食品の安全性問題、また、日本の場合、他国に比べて大型の自然災害が多いので、これらが起こった場合に国としてインフラを別に作るなどの取り組みに新たな研究開発を行って欲しい。例えば電気は系統電力会社任せでは、今回の千葉のようなことが確実に起こる。昨年の北海道もしかし、足りないものは沢山ある。先端技術で解決できる方法を考えて欲しい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 496 少なくとも、大学及び公的機関の研究者が、人件費しかなく、研究テーマを上げるための研究費もない状態は、考えられない。必要であれば、人員そのものを見直した方が良い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 497 JST/NEDO/AMED等の研究資金に関しても、その額が国の政策により大きく左右され決して潤沢に提供されているとは言えない。又、公共機関や国立大学等が保有する設備の利用に関しても利便性を考慮すると十分とは、言い難い。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 498 競争的研究資金は戦略的に確保されている面も見受けられるが、基礎研究・シーズ探索研究などの研究室の基礎予算的なものがかなり厳しいようで、これでは日本の先々の研究のタネが尽きるのではないかという危機感を強く持つ。「集中と選択」は聞こえはよいが企業的な話であり、大学の研究は基本「発散とバラマキ」であるべきで、基礎研究・シーズ研究では健全なバラマキ予算確保が必要。最も、先進諸外国に比べて研究開発予算の規模が小さくなってきている。これでは研究立国・技術立国がもはや望むべくもない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 499 公募型研究費付与審査において実用性に重点を置きすぎた審査になっていないかという懸念がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 500 大学に、資金は、自分の研究にもうだけもらい得的な感があり、社会のために役立てる意識が非常に少ない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 501 基本研究と実用開発研究費をはっきり分けたが良い。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)

- 502 日本が産業技術牽引型からサービス型に変わりつつある中で何を研究し何を世の中に出すのが不透明に感じられる。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
- 503 論文執筆数をベースとした研究者評価が行われている現況において,本来研究費予算を割り当てなければならない重要な研究へ回すべき資金が,論文執筆が目的のアウトプット価値が高くない研究へ分散してしまっているように感じられます。評価システムを見直して,意義のある研究へ資金配分が厚く行われるようにすれば,政府予算が足りないということにはならないように思われます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 504 研究資金に関しては,潤沢な資金があるわけではないので,どうすることもできないところがある。また,米国などは軍事費に係る研究開発費の比率が大きく,これは日本にない予算であり,単純に研究費を比較できない面もある。一方,研究環境であれば,仕組みを変えることで,よりよくしていくことは可能であり,よりよい研究環境を整えることが競争力の向上につながっていくことになるので,研究環境の改善にもっと力を入れるべきかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 505 研究不正対策もあるのだろうが,研究費などのエビデンス等のチェックが無駄に厳しいように思う。これらの対応のために余計な時間を消費してしまい,本来の研究開発を阻害している原因になっていると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 506 昨今,民間からの資金を求めるマッチングファンド形式が増えているが,これとは別に国として研究環境の向上と資金の拡充をしっかりと進めるべきである。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 507 管轄官庁におかれましては,資金提供決定時だけでなく,活動期間終了後のフォローやその後の産業化進捗,人材育成状況を十分調査いただき,本当に投入した税金に見合った成果が得られているか(有形無形含め),まとめと積極的な情報開示をお願いしたいです。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 508 運用のルールが省庁ごとによりことなり,煩雑かつ契約までに時間がかかりすぎ(契約締結が3Q以降となることが常態化),本来の研究に十分な時間を割くことができない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 509 間接経費も掛かった分だけ精算できるようにしていただきたい。現在は上限がある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 510 研究資金を適切に使っていることの確認のための稼働が多く,小さな金額をいただいても,研究の推進にはならない。金額を増やせないのであれば,ある程度の額以下(間接経費がとても少ないもの)にはこの確認作業を廃止・縮小して,研究者の稼働を増やすべきと考えます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 511 大学教員のすべてが研究者であるとするのはやめる。教育専門と研究専門に分ける。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 512 政府がどちらかという成果主義に陥り,基礎研究(新しい学問が創出できるか否か判断出来ないような初期の研究)には,資金を出し渋っているように見受けられる。成果に直結するような研究は,もう少し企業の参画を促す,換言すれば,企業が参画しやすいようなシステムを構築することが肝要で,そのうえで,基礎研究分野と橋渡しを担うことに注力しても良いように思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 513 公募型研究費の比率を高めることも重要と考えるが,一方で公募型研究費以外の研究費(科研費等)を現状より多く確保することも重要と考える。地道な研究(流行りの研究テーマ・分野以外)にも研究費を割くことを考えるべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 514 間接費の割合を高く設定しすぎる結果として,企業においてはかえって公募型研究費を利用しにくいとの意見があります。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 515 助成事業が増えてきて,国プロに応募しにくくなっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 516 アカデミアの先生からは光熱費が研究費を圧迫しているという話を聞く。また研究補助業務はAIの導入によりプラットフォーム化して効率的にできれば研究環境改善の一助になるのではないかと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 517 研究資金配分は,地方国立大学などに不十分で,地方での基盤研究,地域活性化に向けた研究が出来ていない。地方の衰退を回避するためにも,基盤的研究費の充填が必要と思われる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 518 研究資金については量(金額)の問題ではなく,その研究のゴール設定の価値に従った資金の配分方法や研究活動に対するフォローという質の問題が非常に大きいのではないかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 519 4.2兆円は決して低いとはいえないが,全体で配布すると1件あたりの配分は少なくなり,科学立国を目指すにはまだまだ不十分に感じます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 520 研究資金の格差が大きくなりすぎていることが気になる。重点的に配分されるべき領域を作るのは必要だが,マンネリ化されているために,リッチとプアな研究環境の差が大きくなりすぎる部分があると感じる。日本の技術力を向上させるためのインプット総額も足りないのではないかと。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 521 地方大学に対する最低限の研究者(の卵)の育成に必要な研究資金を確保する事が絶対に必要。都市圏と地方の研究環境(資金)の格差が益々広がる事を懸念します。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 522 米国のバイドール法にならって,日本版バイドールができてから,いったいどうなったかがわからない。産学連携の知財部署が各大学にでたが,大学が投入研究資金に対して,知財で利益をどのように生み出せるようになっているのか?また企業が大学の知財をつかって,どの程度,事業利益をあげられるようになっているのかが,わからない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 523 市場の価値観・社会環境が大きく変化している中で,日本の研究環境はその変化に迅速に対応してより推進しやすい状況を作り出していく必要があると感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

- 524 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備は、民間企業(産業界)が活用する必要性があまり感じられないものもありますが、学術研究には必須であり、そこで生まれた知見が後に民生利用されることになるため、学術研究に有用なものを積極的に投資していただきたいと思います。科学技術に関する政府予算は少なすぎるため、精力的に予算化して研究している中国等との競争に負ける日も近いと危惧されます。学生数の減少を理由に大学等の研究資金が減少していますが、日本の産業競争力維持のためには研究資金の大幅アップが必須です。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 525 使った費用の割には競争力がある事業が育っているのか良くわからない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 526 公的研究資金を民間企業がもう少し活用できるようにしてほしい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 527 他国に比べて、国産(国家)戦略に基づいた強化分野がまだまだ弱いと感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 528 明らかに少ない。企業においても、研究開発投資には、7~10%は必要。国が4.2%では少ない。5%から10%に増税されてどうなるか、モニタリングする必要がある。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 529 研究を実施する場としては良い環境だと思う。研究がより役に立つような仕組みとか、新しい研究が生まれる環境という点から見れば不十分かもしれない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 530 研究費の使い勝手、量ともに海外に比して少ないと思う(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 531 アメリカに比べて遅れており、日本の産業界で技術でグローバルで勝てるスタートアップが生まれていないことに危機感を覚える(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
- 532 人件費として使えなかったり、自由度が低いものがある。また、公募の仕組みも複雑である。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
- 533 研究者や研究組織の層を厚くするため、研究資金は集中しすぎるよりも薄く広くすべきと考える。競争的資金は短期の結果だけが求められ、長期的なテーマに取り組みにくい。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 534 政府の公募型研究費の使途について、関連性を有する企業の独自研究開発への共用がある程度は認められると、全体のレベルアップに有効であると考えます。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 535 サイエンス偏重の感があります。社会実装に重きを置けば、文科省といえども工学系の研究開発への支援が必要と思います。科学と工学の間、あるいは研究と開発の間、といった中間領域への支援が手薄と思われまます。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 536 民間企業が助成を受ける場合、書類が煩雑で経理検査、会議が多く、時間が取られることが多い。特に中小企業は、人的資源に余裕がないため、非常に厳しい。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 537 長期的視点に立った場合、10年以内に成果(=事業に貢献)を大学や公的研究機関にもとめている感じがする。大学は人材育成と長期的なscienceに力をかけても良いと思う。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 538 老人に対する社会保障も大事であるが、日本の発展・継続のためには研究・教育資金が必要と考える。だんだん予算が縮小しているように感じる。(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 539 科学技術研究費はいまだに企業中心のまま。オープンサイエンス、オープンイノベーションの世の中になっているのに、日本の企業は世界的に見ても自前主義が極端に強く、流れに乗り遅れている。本来、今こそ大学の出番のはずだが、国際化に乗り遅れ、財政的にも厳しく、世界から取り残されつつある。企業が大学に資金を提供しないのならば、企業の内部留保を吐き出させて大学予算の拡充を図るなど、政府による研究資金シフト政策が必要だ。(民間企業等,その他,男性)
- 540 公的研究機関や企業の研究者はよくわかりませんが、大学の先生は研究と授業以外の要件が多すぎるように感じます。(民間企業等,その他,男性)
- 541 定点調査ワークショップ2019に出席しても十分な資金の確保、人材の確保が出来ていないことが理解できました。又、産学の連携の難しさ(時間的な視点の違いなど)など、今と将来のつながりのロードマップに関して、産業界とのズレを修正し、真の産学官連携を図るべく研究環境、研究資金を投入すべきと考えます。(民間企業等,その他,男性)
- 542 国の研究予算が実際の研究者に十分渡っていない。(民間企業等,その他,男性)
- 543 研究開発補助金について、実証試験を評価しない印象が有り、モノづくりに試験が必須である認識を深めてほしいと感じる。(民間企業等,その他,男性)
- 544 総額については、諸事情を鑑みてやむを得ない面があるとしても、基礎(科学)と応用(技術)のバランス、また領域偏重など、全体的に配分バランスが悪いように思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 545 旧帝大偏重であることと、特に地域に生きる大学の役割にそぐわない体制である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 546 教育、研究に必要な基盤的な経費が不十分である。今後が心配である。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 547 アベノミクスの影響で、短期間にイノベーションの成果をチェリーピックする動きが加速されているように感じる。競争的研究資金が、より基礎的かつ基本の原理の解明にも向けられるよう、声を合わせる時が来ている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 548 公募型研究費の間接経費は、組織ごとの集中管理で、節約できる。大きな大学では、小さな大学より、少なくて済むはず。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

549 研究単位当たり予算は小さくても単位数を増やすべきと考えるが、依然、その逆の傾向が続いている(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

多くの研究者が競争している研究領域では、保有設備の優劣や雇用しているポストクの質と量で研究の競争力が決まってしまう面があります。この点をマスコミ等が取り上げて予算が足りないという論調が目立ちます。確かに研究環境、研究資金が競争力を左右する領域はありますし、そこは強化してほしいところですが、研究は多様なことと、福祉等の国民全体が恩恵を直接に実感できる予算と比べて科学技術関係予算は特殊なので、この予算の範囲でなんとか工夫して科学技術で成果を出していくべきだと思っています。(民間企業等,その他,男性)

551 大学(院)の研究は、学生の教育(実験,情報収集,論文作成,発表(海外を含む))の根幹でもある。外部資金によらない教育に資する意味合いで研究費の増額手当てが必要と思う。(民間企業等,その他,男性)
